

**佐賀大学農学部**  
**—自己点検・評価報告書—**  
**[平成21年度]**

**2011年3月**

# 目 次

## (農学部)

1. 大学の目的	1
2. 教育研究組織（実施体制）	3
3. 教員及び教育支援者	8
4. 学生の受入	15
5. 教育内容及び方法	25
6. 教育の成果	35
7. 学生支援等	41
8. 施設・設備	48
9. 教育の質の向上及び改善のためのシステム	53
10. 管理運営	59
11. 教育サービス	68

## (農学研究科)

1. 大学の目的	71
2. 教育研究組織（実施体制）	73
3. 教員及び教育支援者	77
4. 学生の受入	86
5. 教育内容及び方法	92
6. 教育の成果	108
7. 学生支援等	117
8. 施設・設備	126
9. 教育の質の向上及び改善のためのシステム	128
10. 管理運営	136

## 平成 21 年度農学部自己点検・評価について

農学部における自己点検・評価は、昭和 62 年（1987 年）から平成 17 年（2005 年）までの間は、ほぼ 4 年間隔で 6 回にわたって「教育研究業績総覧」として実施・刊行されてきた。

平成 18 年（2006 年）11 月には、平成 16・17 年度の教育・研究活動について、それまでに実施してきた教育研究業績総覧と異なり、大学評価・学位授与機構が示す認証評価項目を参考とした自己点検・評価を実施し、外部評価委員からの評価を仰ぎながら「地域と国際貢献を目指す佐賀大学農学部—自己点検・評価報告書—（平成 16・17 年度）」を刊行した。

平成 21 年 3 月及び平成 22 年 1 月には、平成 20 年度に確立された国立大学法人に対する認証評価の最終様式に従い、平成 18・19 年度及び平成 20 年度の自己点検・評価及び外部評価を実施した。

以上のような経緯を踏まえ、ここに佐賀大学農学部における平成 21 年度自己点検・評価を実施し、外部評価委員の評価を仰ぐこととした。本年度の自己点検評価は、法人化 1 期目の最終年度における評価であるが、評価様式は平成 20 年度に確立した認証評価の様式を踏襲し、佐賀大学教員活動データシステムで参照できる根拠資料については、報告書の中には含めていない。

外部評価委員の先生方には、ご多忙の中で貴重なお時間を割いて頂き、佐賀大学農学部における教育・研究についてご指導・ご教示頂けることに深く感謝しているところである。

平成 23 年 5 月

佐賀大学前農学部長

野 瀬 昭 博

## 1 大学の目的

観点1-1-①：大学の目的（学部、学科又は課程の目的を含む。）が、明確に定められ、その目的が、学校教育法第83条に規定された、大学一般に求められる目的から外れるものでないか。

### 農学部 1-1-①

（観点に係る状況）

農学部は、その目的を定め、農学部規則に明記している（資料1-1-1-1）。

#### 農学部の目的

農学部は、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とする。

（出典：佐賀大学農学部規則（第1条の2））

また、農学部を構成する3学科の目的を定め、農学部規則に明記している。

#### 農学部3学科の目的

学 科	目 的
応用生物科学科	生物の特性を理解し、生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を育成すること。
生物環境科学科	【生物環境保全学コース】 地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して、社会に貢献できる人材を育成すること。 【資源循環生産学コース】 生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成すること。 【地域社会開発学コース】 フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成すること。
生命機能科学科	科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成すること。

（出典：佐賀大学農学部規則（第1条の3））

（分析結果とその根拠理由）

農学部及び3学科の目的は明確に定めてあり、この目的は、学校教育法第83条に規定された大学一般の目的に合致している。

資料1-1-1-1 佐賀大学農学部規則

観点1-2-①： 目的が、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているとともに、社会に広く公表されているか。

#### 農学部 1-2-①

（観点に係る状況）

農学部の目的や具体的な活動方針は、佐賀大学案内（資料1-2-1-1）、佐賀大学農学部・農学研究科概要（資料1-2-1-2）、農学部履修の手引（資料1-2-1-3）等に記すとともに、全教職員にこれらの資料を配布することにより、周知している。学生に対しては、農学部の目的や具体的な活動方針を記載している学生便覧（資料1-2-1-4）と農学部「履修の手引」を入学時の農学部ガイダンスの際に配布することにより、周知している。社会に対しては、ホームページや佐賀大学農学部自己点検評価報告書等に記載することにより、公表している（資料1-2-1-5、1-2-1-6）。佐賀大学案内や農学部リーフレット（資料1-2-1-7）等に農学部の目的を記載し、オープンキャンパスや各高等学校で行われる入学試験説明会の折に、参加者に配布している。

（分析結果とその根拠理由）

農学部の全教職員及び全学生にこれらの資料を配布することにより、目的は大学の構成員（教職員及び学生）に周知されている。また、本学部のホームページ、自己点検評価報告書、学部案内リーフレット等に目的を記載することにより、社会に対しても広く公表されている。

資料1-2-1-1 佐賀大学案内（平成21年度 p49～54）

資料1-2-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成21年度 p7～12）

資料1-2-1-3 農学部履修の手引（平成21年度 p4～18）

資料1-2-1-4 学生便覧（平成21年度 p266～286）

資料1-2-1-5 佐賀大学農学部ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html>

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度 p2）

資料1-2-1-7 佐賀大学農学部2010（リーフレット）

## 2 教育研究組織（実施体制）

観点2-1-①： 学部及びその学科の構成（学部，学科以外の基本的組織を設置している場合には，その構成）が，学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

### 農学部 2-1-①

（観点に係る状況）

農学部は，総合科学である農学教育を実践するための学科を構成し，教育と研究を担当している。農学部を構成する学科，講座，教育研究分野は，以下のとおりである。

教育研究組織

学科	講座	教育研究分野
応用生物科学科	生物資源開発学	熱帯作物改良学，動物資源開発学，植物工学，植物代謝解析学， 蔬菜花卉園芸学，果樹園芸学，植物遺伝育種学
	生物資源制御学	植物病制御学，植物ウイルス病制御学，線虫学，昆虫学， システム生態学，動物行動生態学
生物環境科学科	生物環境保全学	地圏環境学，水環境工学，浅海干潟環境学，環境地盤学， 生物環境学
	資源循環生産学	農業生産機械学，生産システム情報学，施設農業生産学， 作物生態生理学，資源循環生物学，資源循環フィールド科学
	地域社会開発学	地域ビジネス開発学，地域資源学，人類生態学
生命機能科学科	生命化学	生化学，機能高分子化学，応用微生物学
	食糧科学	生物資源利用学，食品化学，食糧安全学，食品栄養化学

（出典：佐賀大学農学部「履修の手引」）

農学部の教員は，講座内の教育研究分野（計 34 分野）に所属し，教育研究目的を実現するための教育研究活動を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

学科改組後の農学部の学科は，教育研究目的をさらに達成するための適切な構成になっている。

資料 1-2-1-1 佐賀大学案内（平成 20 年度 p54）

資料 1-2-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成 20 年度 p4）

資料 1-2-1-3 農学部履修の手引（平成 21 年度 p3）

資料 1-2-1-4 学生便覧（平成 20 年度 p9）

資料 1-2-1-5 佐賀大学農学部ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html>

資料 1-2-1-6 佐賀大学農学部 2009（リーフレット）

観点2-1-②： 教養教育の体制が適切に整備され、機能しているか。

**農学部 2-1-②**

(観点に係る状況)

教養教育は、全学部の教員が担当する教養教育運営機構への全学出動方式で運営されている。農学部教員は、教養教育科目（主題科目）を担当している。一部の教員は、教養教育科目（共通基礎教育科目（情報処理科目））を担当している（資料2-1-2-1）。

(分析結果とその根拠理由)

農学部教員は、教養教育科目（主題科目、共通基礎教育科目（情報処理科目））を担当しており、全学出動方式による教養教育実施体制が適切に整備され、機能している。

資料2-1-2-1 教養教育科目担当状況一覧（農学部教員）
-------------------------------

観点2-1-⑤：大学の教育研究に必要な附属施設、センター等が、教育研究の目的を達成する上で適切に機能しているか。

## 農学部附属施設

### 附属資源循環フィールド科学教育研究センター

(観点に係る状況)

全学的な附属施設、センター等として、産学官連携推進機構、アドミッションセンター、キャリアセンター、教養教育運営機構、附属図書館、保健管理センター、海洋エネルギー研究センター、総合分析実験センター、総合情報基盤センター、留学生センター、低平地研究センター、海浜台地生物環境研究センター、シンクロトロン光応用研究センター、高等教育開発センター、地域学歴史文化研究センター、有明海総合研究プロジェクトを設置している。これらの附属施設、センターは、全学部に関わる教育研究を支えている。農学部は、附属施設、センター等と連携を保ちながら、学部教育及び研究に活用している。

農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター（教員4人）は、主に農学部の学生を対象としたフィールド科学としての農学教育の実践と研究を担っているが、他学部の学生（平成21年度：文化教育学部15人、経済学部61人、理工学部69人、医学部7人、合計152人）に対しても農業に関する基本的かつ実践的な教育を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

全学的な附属施設、センターはもとより、農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターは、農学部と緊密に連携しており、農学部における教育と研究を達成する上で適切に機能している。



観点2-2-①： 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っているか。

**農学部 2-2-①**

(観点に係る状況)

農学部の教授会規程(資料2-2-1-1)に基づき、教員人事、教育課程の編成、学生の入学、卒業、修了、学位授与など学士課程の教育活動に係る重要事項を教授会で審議している。教授会は、平成18年度以前は、教授、助教授、講師で構成し、平成19年度以降は、教授、准教授、講師、助教で構成している。農学部の教育活動との関係が深い、海浜台地生物環境研究センターと総合分析実験センターの教員は、オブザーバーとして教授会に出席している。教授会は、毎月1回定例的に、また、必要に応じて臨時に開催している。

(分析結果とその根拠理由)

教授会は、定例又は臨時に開催され、教育活動に係る重要事項を滞りなく審議・決定するための必要な活動を行っている。

資料2-2-1-1 農学部教授会規程
--------------------

観点2-2-②： 教育課程や教育方法等を検討する教務委員会等の組織が、適切な構成となっているか。また、必要な回数の会議を開催し、実質的な検討が行われているか。

## 農学部 2-2-②

### (観点に係る状況)

農学部教育委員会規程(資料2-2-2-1)に基づき、農学部教育委員会が組織され、学部の教育課程の編成や教育方法等に係る重要事項を検討している。本委員会は、農学部全体ならびに各学科に係る事項について検討するため、各学科・教育コースから選出された教員で構成している。全学的な状況を踏まえて、農学部全体の教育方法等を検討する機能を高めるために、平成20年4月に、副学部長(教育担当)が委員長を担当する組織に委員会構成を改めた。本委員会は、毎月1回定例的に、また、必要に応じて臨時に開催している。委員会で検討された事項は、学科会議等で報告され、必要に応じて、教授会で審議・決定される。

教育委員会の検討事例：①3年次編入学生の既修得単位認定、②教育実習参加資格認定、③外国語能力試験の単位認定、④後援会開催時における個人面談実施要領、⑤学業成績通知書の送付について、⑥非常勤講師任用計画の策定、⑦教育実習の単位認定など(資料2-2-2-2)。

### (分析結果とその根拠資料)

農学部教育委員会は、副学部長(教育担当)が委員長を務め、各学科から選出される教員で構成されており、教育について検討するための適切な構成となっている。本委員会は、学年暦に即して、必要な回数(年10回以上)開催している。本委員会は、学部・学科・教育コース等の教育課程や教育方法等について実質的な検討を行っており、十分に機能している。

資料2-2-2-1 農学部教育委員会規程

資料2-2-2-2 農学部教育委員会議事録(平成21年度)

### 3 教員及び教育支援者

観点3-1-①： 教員組織編制のための基本的方針を有しており，それに基づいて教員の適切な役割分担の下で，組織的な連携体制が確保され，教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされているか。

#### 農学部 3-1-①

(観点に係る状況)

教員組織編制の基本的方針は，学部長の諮問を受けて，農学部基本計画委員会が検討し，提案している（資料3-1-1-1）。教員の配置は，学部長の諮問を受けて，農学部人事委員会で検討し，提案している（資料3-1-1-2）。教員は，学士課程の教育研究の目的・目標を達成するために，3学科7講座に，バランスよく配置されている（資料3-1-1-3）。研究分野の改廃等は，関係講座から発議され，人事委員会及び基本計画委員会における検討を経て，教授会で審議・決定する。

(分析結果とその根拠理由)

農学部は，その教育目的を達成するための教育組織編制（学科・講座の構成）の基本的方針の下に，教員が適切に配置されている。教員は，学科，講座及び教育研究分野に所属し，それぞれの役割分担の下で他の教員との連携を保ちながら，各所属及び教員に係る責任の下に教育と研究を担当している。

資料3-1-1-1 農学部基本計画委員会規程

資料3-1-1-2 農学部人事委員会内規

資料3-1-1-3 仮定定員現員表（平成21年度）

観点3-1-②： 学士課程において、教育課程を遂行するために必要な教員が確保されているか。また、教育上主要と認める授業科目には、専任の教授又は准教授を配置しているか。

### 農学部 3-1-②

(観点に係る状況)

農学部の教育課程を遂行するための専任教員（平成21年5月現在で52人）が確保されている（表）。教育上必要な授業科目の担当教員として、専任教員（教授、准教授）を配置している。学部教育の一部は、講師と助教が担当している。

農学部の教員配置（平成21年5月1日現在）

学 科	教授	准教授	講師	助教	非常勤講師		合計
					学外	学内	
応用生物科学科	9	5	0	1	1	2	18
生物環境科学科	6	11	2	1	2	12	34
生命機能科学科	6	5	1	1	0	4	17
資源循環フィールド科学 教育研究センター（注）	1	2	0	1	0	0	4

(注) 資源循環フィールド科学教育研究センターの教員は、教育組織である生物環境科学科に所属。

上表の専任教員に加えて、農学部における教育研究との関連が深い学内共同教育研究施設（海浜台地生物環境研究センター、総合分析実験センター）の教員（計6人）が、それぞれの専門を活かした授業科目を担当している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の教育課程を遂行するための教員は、必要数確保されている。教育上主要な授業科目は、専任の教授又は准教授を配置し、その他の授業科目は、専任の教授・准教授・講師・助教が分担・協力して担っている。

観点3-1-⑤：大学の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられているか。

**農学部 3-1-⑤**

(観点に係る状況)

教員組織の活性化を図るために、ジェンダーバランス及び外国人教員に配慮した教員選考規程を整備している(資料3-1-5-1)。本規程に基づいて、国内外に教員公募要領を公表し、完全公募制により、優秀な教員の確保と流動性の向上に努めている(資料3-1-5-2)。教育研究の活性化及び教育研究水準の維持向上を図るために、教員の年齢構成に配慮している(表)。学会賞を受賞するなど勤務成績が優秀な教員は、特別昇給制度を利用して、学部長推薦により昇給させている(資料3-1-5-3)。

農学部教員の年齢構成(平成21年5月現在)

職	年齢				
	30歳未満	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上
教授	0	0	1	14	7
准教授	0	5	14 (1)	4	0
講師	0	1	1	0	1
助教	0	3 (1)	1	0	0

備考：カッコ内は女性教員数(内数)を示す。

(分析結果とその根拠理由)

教員採用及び昇格の方針に基づいて人事を行うことにより、また、特別昇給制度などを活用するなど、教員組織の活性化に必要な措置が講じられている。

資料3-1-5-1 農学部教員選考規程

資料3-1-5-2 農学部教員候補者の推薦依頼に関する申合せ

資料3-1-5-3 教育職(一)の適用を受ける職員の特別昇給について(学長依頼文)

観点3-2-①： 教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。特に、学士課程においては、教育上の指導能力の評価、また大学院課程においては、教育研究上の指導能力の評価が行われているか。

#### 農学部 3-2-①

(観点に係る状況)

教育研究水準を高く維持するために、佐賀大学教員選考基準(資料3-2-1-1)に基づく農学部教員選考規程(資料3-1-5-1)を制定し、この規程に基づいて教員の採用及び昇格を行っている。採用及び昇格候補者の選考は、教授会で選出される教員5人で構成される教員選考委員会が担当し、学士課程における教育上の指導能力の評価と、教授会における審議に基づいて決定している(資料3-2-1-3)。学部教育を担当する教員の採用及び昇格を行うために、厳格な書類審査(履歴書、研究業績目録、研究業績説明書等)を実施している。また、教員採用の最終段階で、必要に応じて、候補者にプレゼンテーションを求め、授業担当能力を測っている。

(分析結果とその根拠理由)

教員選考基準は明確に定められ、教員選考は、教育上の指導能力と相応の教育上の評価に基づいて実施している。このことにより、教員の採用及び昇格は、適切に運用がなされている。

資料3-2-1-1 佐賀大学教員選考基準

資料3-1-5-1 農学部教員選考規程

資料3-2-1-3 農学部教員候補者の推薦依頼に関する申合せ

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

### 農学部 3-2-②

(観点に係る状況)

農学部は、平成5年4月に農学部自己点検・評価委員会を設置し、平成6年からほぼ4年ごとに自己点検評価を実施している。平成14年4月からは、農学部評価委員会が、教育及び研究活動等に関する評価を実施している(資料3-2-2-1)。教員の教育・研究業績、社会貢献、国際貢献、学内運営に関する活動、研究費の獲得状況等をまとめた佐賀大学農学部教員教育研究業績総覧は、教員の教育活動を定期的に評価するためのデータベースとして機能している(資料3-2-2-2)。平成16年度に、農学部個人評価に関する実施要項を策定し、以後、教員についての個人評価を実施している(資料3-2-2-3, 3-2-2-4, 3-2-2-5)。評価の結果は、教員へ通知され、教育活動の改善に利用されている。また、学生による授業評価の結果は、教育改善に利用されている(資料3-2-2-6)。

(分析結果とその根拠理由)

農学部評価委員会が設置され、教員の教育活動に関する適切かつ定期的な評価が実施されており、その結果把握された事項に対する適切な取組として学部長から各教員へ評価結果を伝えている。また、学生による授業評価と授業改善を、大学教育委員会と連携して実施している。

資料3-2-2-1 農学部評価委員会規程

資料3-2-2-2 佐賀大学農学部教員教育研究業績総覧(2006年3月)

資料3-2-2-3 佐賀大学農学部教員の個人評価に関する実施基準

資料3-2-2-4 農学部教員個人評価実施基準

資料3-2-2-5 教員個人評価報告書(平成21年度)

資料3-2-2-6 平成21年度農学部FD活動報告書

観点3-3-①: 教育の目的を達成するための基礎として、教育内容等と関連する研究活動が行われているか。

**農学部 3-3-①**

(観点に係る状況)

多様な学問領域を包含する総合科学としての農学教育の目的を達成するために、農学部教員は、それぞれの専門に立脚した研究を活発に推進している(資料3-2-2)。研究成果は、教育の現場(授業)で紹介され、受講学生の知的関心を引き出している。

教員の研究活動と授業科目との関連事例

学 科	教員の研究活動分野	授業科目
応用生物科学科	①マングローブの炭酸ガス固定能力に関する研究 ②ダイズ種子脂肪酸組成の改良に関する研究 ③アリとの相互作用に関する研究	熱帯有用植物学 植物育種学 システム生態学
生物環境科学科	①水耕葉菜類への無機元素導入によるトレーサビリティシステムの構築 ②化学物質による環境汚染に関する研究 ③干潟の環境と機能に関する研究	植物栄養学 環境化学 干潟生態環境学
生命機能科学科	①機能性食品に関する研究 ②青果物のポリフェノール酸化酵素に関する研究 ③キチン質分解酵素の構造と機能に関する研究	栄養化学 食糧流通貯蔵学 生物化学

教員報告様式データ(平成21年度)より抜粋作成

(分析結果とその根拠理由)

教育目的を達成するための基礎となる研究は、科学研究費等の競争的資金の獲得状況等に示されているとおり活発になされ、教育に活用されている。



観点3-4-①： 大学において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。また，TA等の教育補助者の活用が図られているか。

**農学部 3-4-①**

(観点に係る状況)

教育課程の展開を事務の面から支援する学務部教務課農学部教務係に，職員3人を配置している(資料3-4-1-1)。技術職員は，農学部に4人，附属資源循環フィールド科学教育研究センターに5人配置している。技術職員は，学生実験・実習，資源循環フィールド科学実習・演習等の授業を支援し，教育支援者として重要な役割を果たしている(資料3-4-1-2)。大学院修士課程及び博士課程の大学院生がTAに採用され，実験，実習，演習等の教育補助業務を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

学務部教務課職員と農学部技術職員は，教育支援者として適切に配置され，機能している。実験，実習，演習等の教育補助業務のためにTAが活用され，教員と学生をつなぐパイプ役として，重要な役割を果たしている。

TAの活用状況(平成21年度)農学部

項目	教育補助項目					
	実験	実習	演習	講義	卒業研究	合計
TA数	104	4	56	35	48	247
科目数	34	2	18	11	15	80

資料3-4-1-1 学務部職員名簿

資料3-4-1-2 事務職員現員表(平成21年度)

## 4 学生の受入

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか。

### 農学部 4-1-①

（観点に係る状況）

農学部の教育目的を達成するため、アドミッション・ポリシーを明確に定め、ホームページ等を通じて、広く公表している。

#### 農学部のアドミッション・ポリシー

##### 農学部アドミッション・ポリシー

###### 農学部

###### <教育目的>

今、私たちが生きる 21 世紀は、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会への大転換が求められています。このような時代背景のなか、日本有数の食料生産基地である佐賀平野に立地する佐賀大学農学部は、農学という学問が、理系から文系にわたり、基礎から応用に及ぶ総合科学であることを踏まえ、「食料」、「生命」、「環境」、「情報」、「エネルギー」、「地域社会」をキーワードとした多様で重要な課題を解決していこうとしています。そのために、創造性豊かな専門職業人を育て、国内はもとより、アジアをはじめとする世界に貢献します。これらのことから、農学部は、個性とバイタリティーにあふれ、基礎学力を有する人を歓迎します。

###### 応用生物科学科

###### <教育の目的・目標・方針>

本学科は、ウイルス、糸状菌、線虫、昆虫、植物（作物）、そして哺乳動物に及ぶ多様な生物を材料として、その生命現象及び諸特性の解明、遺伝子工学等の最新技術を応用した有用生物資源の開発・利用並びに環境にも配慮した、その保護に関する教育を行います。

これらの教育を通じて、人口問題、食糧問題、環境問題及びエネルギー問題等の解決に寄与できる、幅広い基礎知識を有し、総合的な問題解決能力を有する人材の育成を目標とします。

###### <求める学生像>

- 1 本学科の教育研究の目的と内容（多様な動植物の生理生態的特性の解明、バイオテクノロジーを用いた有用生物資源の開発・利用、有用動植物を加害する病害虫の制御等）についての理解と関心がある人
- 2 本学科の教育研究の内容を理解するための基礎となる授業科目（生物、化学、数学、英語、国語等）を修得している人
- 3 問題解決に向けて、粘り強く自己研鑽に努める熱意と実行力がある人
- 4 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

###### 生物環境科学科

###### <教育の目的・目標・方針>

本学科は、環境保全及び農業における資源・エネルギー等の課題について、幅広い視野と基礎知識を持ち、高

い問題解決能力を持つ技術者・研究者・指導者を育成することを目標とします。

本学科は、次の3コースを有しています。

生物環境保全学コースでは、地球、生物、人の調和を図り、環境への負荷の少ない生物生産環境の保全・創出と豊かな生活環境の創造に関する教育を行います。

資源循環生産学コースでは、農業における資源、エネルギー、環境等の課題に取り組み、高度な生物生産システムに関する教育を行います。

地域社会開発学コースでは、持続的な循環型社会の構築を目指し、国際的視野で民族、地域資源、環境社会、農林水産資源及びビジネス開発に関する教育を行います。

<求める学生像>

- 1 自然環境、社会環境及び生物生産環境の保全と修復に興味を持つ人
- 2 持続的な農業を可能にする新たな生物生産システム及び経済社会システムの創造に意欲がある人
- 3 生物産業及び環境科学の分野において、研究者、技術者として国際的な視野で活躍する意欲がある人

生命機能科学科

<教育の目的・目標・方針>

バイオサイエンス、食品、バイオマス、環境等の分野における重要な問題の解決は、社会的急務となっています。本学科は、これらの分野における科学的な知識と分析技術を身に付け、総合的な問題把握とその解決能力を有し、社会に貢献できる応用力の高い技術者、研究者及び指導者の育成を目標とします。

そのために、本学科は、生化学及び分子生物学を基礎として、微生物からヒトにわたる幅広い生物の生命現象のしくみや機能の解明を行うとともに、それらを応用した食品機能の追求と開発、食品の安全性、バイオマスの利用等に関する教育を行います。

<求める学生像>

- 1 生体における遺伝子の発現や物質代謝とそれらの調節機構を分子レベルで理解するライフサイエンス、食品の生体調節機能、栄養機能や安全性等に興味を持っている人
- 2 将来、本学科で学んだ知識や技術を社会で活かそうと考えている人
- 3 化学的手法を多用しますので、化学はもとより、生物、物理、数学等の理系科目が得意で、英語、国語、社会等の基礎学力を十分身に付けている人

入学者選抜の基本方針（入学、選抜、選抜基準等）

農学部が求める学生像にふさわしい学生を選抜するために、一般選抜、推薦入試、3年次編入学試験等の多様な入学試験を実施します。

#### 1 一般選抜

高等学校等での学習の達成度を評価するために、大学入試センター試験及び個別試験を課します。大学入試センター試験では、5教科7科目を課し、数学及び理科の学力を重視します。個別学力検査では、前期日程で数学及び英語、後期日程で数学の学力試験を課し、入学後に必要な基礎学力を測ります。

#### 2 推薦入試

第一次選考及び第二次選考により、合格者を決定します。第一次選考では書類審査（調査書、推薦書、作文等）を行い、高校における学習状況等を評価します。第一次選考の合格者について第二次選考を行います。第二次選考では、思考的な論述力及び勉学意欲を測るために、小論文及び面接（口頭試問を含む。）を課します。

### 3 3年次編入学試験

高等専門学校、短期大学、大学の卒業者と卒業見込みの者、大学に2年以上在学し所定の単位を修得した者等を対象とします。試験科目は、英語、口頭試問及び面接です。

### 4 帰国子女特別選抜

小論文、口頭試問及び面接を課します。

### 5 私費外国人留学生選抜

独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」、TOEFL及び面接を課します。

(出典：佐賀大学アドミッションセンターホームページ)

平成18年度の学科改組後は、一般選抜、私費外国人留学生選抜、帰国子女特別選抜等の学生募集要項に、学部及び各学科のアドミッション・ポリシーを明記している(資料4-1-1-1)。学生募集要項等の印刷物は、高校、短大、高等専門学校、本学志願者、文部科学省、本学教職員、事務局各課等に配布することにより、周知している(資料4-1-1-2)。

毎年実施している大学説明会(オープンキャンパス)(資料4-1-1-3)、ジョイントセミナー(高校訪問)(資料4-1-1-4)、高校関係者との懇談会(資料4-1-1-5)、留学生フェア・進学説明会等において、アドミッション・ポリシー、教育研究の特色等について説明し、学内外の関係者への周知を図っている。

(分析結果とその根拠理由)

アドミッション・ポリシーが明確に定められ、ホームページ、農学部紹介パンフレット等を通じて、学内外に公表、周知している。

資料4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項(平成22年度)

資料4-1-1-2 学生募集要項配布先一覧(平成21年度)

資料4-1-1-3 大学説明会、高等学校・学部別参加申込者数一覧(平成21年度)

資料4-1-1-4 ジョイントセミナー実施高校・出席者一覧(平成21年度)

資料4-1-1-5 高校関係者との懇談会の実施状況(平成21年度)

観点4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。

#### 農学部 4-2-①

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに合致する学生を求めるために、多様な選抜試験を実施し、学力、思考力、勉学意欲、独創性などを測ることによって、入学者を決定している。

学部1年次生は、入学定員の約80%を一般選抜により受け入れている。一般選抜は、前期日程を重視し、農学部を目指す入学志願者を積極的に受け入れている（資料4-2-1-1）。前期日程及び後期日程ともに、大学入試センター試験を課している。個別試験は、前期日程試験では英語と数学を、後期日程試験では数学を課している。大学入試センター試験と個別試験の結果を総合して、合格者を決定している。

入学定員の約20%を推薦入試により受け入れている。推薦入試は、大学入試センター試験を免除し、推薦書、調査書、小論文及び面接に基づいて合格者を決めている（資料4-1-1-1）。

農学部学生の選抜・受け入れ状況

学 科	年度	入学定員	入学者			
			合計	推薦	前期	後期
生物生産学科	17	65	74	17	34	18
応用生物科学科	17	80	90	16	49	25
応用生物科学科	18	45	51	11	29	11
	19	45	51	10	31	10
	20	45	48	10	29	9
	21	45	47	10	25	12
生物環境科学科	18	60	64	18	38	8
	19	60	60	16	39	5
	20	60	73	16	45	12
	21	60	69	16	41	12
生命機能科学科	18	40	42	6	33	3
	19	40	42	6	32	4
	20	40	44	6	35	3
	21	40	44	6	30	8

備考：入学定員は、学科改組前（2学科）も改組後（3学科）も145人である。

「入学試験に関する統計」より作成

（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーに基づいて、多様かつ適切な入試を実施している。これらの入学者選抜方法は、本

学部の目的に合致する学生を受け入れる上で、実質的に機能している。

資料 4-2-1-1 入学試験に関する統計（平成 17 年度～21 年度）

[http://www.sao.saga-u.ac.jp/New\\_wwwout/Nyusi\\_Tokei/Tokei\\_Top\\_Menu.html](http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Nyusi_Tokei/Tokei_Top_Menu.html)

資料 4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項（平成 22 年度）

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）において、留学生，社会人，編入学生の受入等に関する基本方針を示している場合には、これに応じた適切な対応が講じられているか。

#### 農学部 4-2-②

（観点に係る状況）

外国人留学生については、英文のアドミッション・ポリシーを募集要項に記載し、特別選抜を実施している。大学入試センター試験を免除し、成績証明書，日本留学試験，TOEFL，面接の総合点に基づいて合格者を決定している。

3年次編入学試験（入学定員10人）は、短期大学，高等専門学校等の卒業見込み者等を対象として実施している。合格者は、推薦書，調査書（成績証明書），学力試験（英語，数学又は生物）及び面接の総合点に基づいて決定している（資料4-2-2-1）。

帰国子女については、帰国子女特別選抜枠を設けている。大学入試センター試験を免除し、推薦書，調査書，小論文及び面接の総合点に基づいて合格を決定している（資料4-1-1-1，4-2-2-2）。

社会人受入れは、農学部では実施していない。

（分析結果とその根拠理由）

留学生，編入学生，帰国子女に係る入学者選抜は、農学部の教育の目的，アドミッション・ポリシーに沿って、適切に実施され、実質的に機能している。

資料4-2-2-1 佐賀大学編入学学生募集要項（平成22年度）

資料4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項（平成22年度）

資料4-2-2-2 推薦・帰国子女特別選抜学生募集要項（平成22年度）

観点4-2-③： 実際の入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

#### 農学部 4-2-③

(観点に係る状況)

農学部の入学者選抜は、佐賀大学の入学者選抜に係る規程に基づいて実施している(資料4-2-3-1)。

学長を委員長とする入学試験委員会(以下「入試委員会」という。)は、入学者選抜の実施及び本学における大学入試センター試験の実施に関する基本的事項と重要事項について審議している(資料4-1-1-1)。試験問題の作成は、入試委員会のもとに置かれた各試験科目の専門委員会が担当している。入学試験問題は、十分な教育研究経験を有する教員により作成されている。公正を期するため、入学試験問題作成に関わる情報は非公開としている。

入学試験の際には、入学試験実施本部及び各試験場本部が置かれ、学長が本部長を、各学部長が各試験場本部責任者(試験場責任者)を務める(資料4-2-3-2)。入学試験問題作成委員会委員長及び問題作成責任者も試験実施本部員に加わり、入学者選抜を遺漏なく実施するよう配慮している。

面接、口頭試問においては、試験教員を複数人で構成することにより、公正な合否判定が行えるように配慮している。合格候補者は、各学科、教授会における審議を経て決定している。

(分析結果とその根拠理由)

入学者選抜に係わる実施計画等の作成、試験問題の作成、試験の実施、試験の採点及び合格者の決定までの実施体制は、入試委員会を中心に構築されている。関係者間の連携が図られ、意思決定のプロセスと責任は明確かつ公正である。これらのことにより、入学者選抜は、適切な実施体制の下で、公正に実施されている。

資料4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項(平成22年度)

資料4-2-3-2 入学試験関係委員割振表(平成21年度)



観点4-2-④： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

#### 農学部 4-2-④

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに沿った入試が実施されているか否かについての検証は、主に、入試委員会の中に設置されている入学者選抜方法小委員会（以下「選抜方法小委員会」という。）が担当している。選抜方法小委員会は、入学者選抜方法に関する調査・研究を行うとともに、個別学力検査等の内容、在り方、改善方策を検討している。また、大学進学情報の提供、入学者選抜に関する大学案内の編集及び広報活動に関する事項についても検討している（資料4-2-4-1）。

（分析結果とその根拠理由）

選抜方法小委員会が設置され、入学試験の結果や、高校・高専教員との意見交換等を踏まえ、また、入学者選抜について検証と調査研究に基づいて、改善がなされている。

資料4-2-4-1 平成21年度 第1回入学者選抜方法小委員会議事要旨
-------------------------------------

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

**農学部 4-3-①**

(観点に係る状況)

過去5年間(平成17~21年)の平均入学定員超過率は、学部1年次入学の場合が1.10倍、編入学の場合が1.1倍である(資料4-1-1-1)。学科改組前と改組後の入学定員と在籍学生数は、以下のとおりである。

農学部入学定員と実入学者

学 科	年度	入学定員(a)	実入学者合計(b)	超過率(b/a)
生物生産学科	17	65	74	1.14
応用生物科学科	17	80	90	1.13
応用生物科学科	18	45	51	1.13
	19	45	51	1.13
	20	45	48	1.07
	21	45	47	1.04
生物環境科学科	18	60	64	1.07
	19	60	60	1.00
	20	60	73	1.22
	21	60	69	1.15
生命機能科学科	18	40	42	1.05
	19	40	42	1.05
	20	40	44	1.10
	21	40	44	1.10

備考：入学定員は、学科改組前(2学科)も改組後(3学科)も145人である。

「入学試験に関する統計」

[http://www.sao.saga-u.ac.jp/New\\_wwwout/Nyusi\\_Tokei/Tokei\\_Top\\_Menu.html](http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Nyusi_Tokei/Tokei_Top_Menu.html) より作成

農学部の入学定員と在籍学生数(平成21年度)

学科	入学定員	在籍学生数			
		1年次	2年次	3年次	4年次以上
生物生産学科	65	—	—	—	10+0 編入
応用生物科学科	80	—	—	1+0 編入	5+1 編入
応用生物科学科	45	47	49	53	56

生物環境科学科	60	69	74	65	67
生命機能科学科	40	44	45	48	40

備考：入学定員は、学科改組前（2学科）も改組後（2学科）も145人である。

（出典：佐賀大学入学者選抜要項ならびに教務情報システム学籍管理データ）

（分析結果とその根拠理由）

農学部の実入学者数は、入学定員を大幅に超過、又は下回っておらず、入学定員と実入学者の関係は適正である。

資料 4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項（平成 20, 21 年度）ならびに教務情報システム学籍管理データ
---

## 5 教育内容及び方法

<学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

### 農学部 5-1-①

(観点に係る状況)

農学部は、佐賀地域に立脚しながら、地球的規模で農学を考えることのできる、幅広い視野、高度な専門知識、理解力、実践力等を備えた国際性豊かな人材を育成することを目的としている。平成18年4月に2学科から3学科に改組してカリキュラムを一新し、教育課程の編成趣旨に沿った授業内容に改善した。

授業科目区分と農学部の卒業要件

学 科	教養教育科目								小 計	専門教育科目			小 計	合 計	
	大学 入 門 科 目	共通基礎教育科目						主題科目		専 門 基 礎 科 目	農 学 基 礎 科 目	専 門 科 目			
		外国語科目		健康・スポーツ 科目		情報処理 科目		分 野 別 主 題 科 目							共 通 主 題 科 目
		英 語	独 語 仏 語 中 国 語 朝 鮮 語	講 義 ・ 演 習	実 習	講 義	演 習 I								
応用生物科学科	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126	
生物環境科学科	生物環境保全学コース	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126
	資源循環生産学コース	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126
	地域社会開発学コース	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126
生命機能科学科	2	4	4	2	2	2	1	20	37	8	6	75	89	126	

(出典：佐賀大学農学部「履修の手引」)

農学部の教育課程は、教養教育科目と専門教育科目で構成している。卒業するために必要な修得単位数（卒業要件という。）は、3学科（応用生物科学科、生物環境科学科、生命機能科学科）ともに126単位である（資料1-2-1-3）。内訳は、教養教育科目が37単位（大学入門科目が2単位、共通基礎教育科目が15単位、主題科目が20単位）、専門教育科目が89単位である。専門教育科目の内訳は、専門基礎科目が4単位（応用生物科学科、生物環境科学科）又は8単位（生命機能科学科）、農学基礎科目が6単位（3学科共通）、専門科目が79単位（応用生物科学科、生物環境科学科）又は75単位（生命機能科学科）である。

教養教育科目である大学入門科目、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報処理科目を必修とし、専門教育の基盤を形成できるようにしている。

専門教育科目については、専門基礎科目（数学、物理学、化学、生物学）を1年前学期に配置することにより、農学部における学修に必要な理数科目の基礎学力を養い、高校教育から大学における専門教育への移行がスムーズに行えるように配慮している。

農学部の中心的な授業科目（コア科目）として、農学基礎科目5科目を選定し、1, 2年生向けに開講している。学生は、3科目（6単位）を選択履修（必修）することにより、農学の基本を修得する（資料5-1-1-1）。

専門科目の必修科目及び選択必修科目（一覧表）

学科	専門基礎科目	農学基礎科目	専門科目
応用生物科学科	化学 生物学		植物生産学, 熱帯農業論, 遺伝学, 応用動物昆虫学, 生物統計学, 植物育種学, 植物病理学Ⅰ, フィールド科学基礎実習Ⅰ, 生物学実験, 応用化学実験, 果樹園芸学, 蔬菜園芸学, 応用生物学実験, 科学英語, 生物科学英語, 生物情報処理演習, 卒業研究
生物環境科学科	生物環境保全学コース	作物生産学, 動物資源開発学, 土壌学, 生物化学, 食品流通学のうち 3科目6単位	生物環境保全学概説, 資源循環生産学概説, 地域社会開発学概説, 実験生物環境保全学Ⅰ・Ⅱ, 科学英語, 生物環境保全学演習, 卒業研究, (実験水気圏環境学, 実験地圏環境学, 実験生物環境学のうち1科目)
	資源環境生産学コース		生物環境保全学概説, 資源循環生産学概説, 地域社会開発学概説, 栽培技術論, 栽培環境制御学, 農業生産機械学, フィールド科学基礎実習Ⅰ・Ⅱ, 生物科学実験実習, 科学英語, 卒業研究
	地域社会開発学コース		生物環境保全学概説, 資源循環生産学概説, 地域社会開発学概説, 地域資源論, 人間開発論, 地域ビジネス開発論, フィールドワーク基礎演習, フィールド科学基礎実習Ⅰ, 科学英語, 卒業研究
生命機能科学科	数学 物理学 化学 生物学		物理化学, 有機化学, 分析化学, 化学実験Ⅰ, 生物有機化学, 生化学, 生物物理化学, 微生物学, 生命化学概説, 食糧科学概説, 食品衛生学, 栄養化学, 食品化学, 分子生物学, 生化学実験, 化学実験Ⅱ, 微生物学実験, 科学英語, 生物学基礎実験, 卒業研究

（出典：佐賀大学農学部「履修の手引」）

応用生物科学科では、専門9科目の講義、科学英語、生物科学英語、生物情報処理演習、フィールド科学基礎実習Ⅰ、生物学実験、応用生物学実験、応用化学実験、卒業研究を必修科目としている。3年前期の始めに行う分野分属の後には、各分野の教員が担当する選択科目や実験実習科目を選択、履修する。

生物環境科学科では、生物環境保全学、資源循環生物学、地域社会開発学の3コースを設けており、学生は、2年次前期から各コースに分属する。このため、カリキュラムはコースにより異なる。学科としての必修科目は、各コースが開設する概説、科学英語、卒業研究である。生物環境保全学コースの必修科目は、実験生物保全学Ⅰ、Ⅱと生物環境保全学演習である。資源循環生物学コースの必修科目は、3つの講義科目、フィールド科学基礎実習Ⅰ、Ⅱならびに生物科学実験実習である。地域社会開発学コースの必修科目は、3つの講義科目、フィールドワーク基礎演習、フィールド科学基礎実習Ⅰである。これらの3コースの学生は、学生実験などを必修科目とするとともに、豊富な選択科目の中から履修科目を選ぶことにより、自主的に履修カリキュラムを作り上げる。

生命機能科学科は、13の講義科目、5つの実験実習科目、科学英語、卒業研究を必修科目としている。カリキ

ユラムの基本的な部分を固定して、生命科学についての基本的な理解を深めさせることにより、有用生物の開発と生物資源の有効利用を図ることができる人材の養成を進めている。

(分析結果とその根拠理由)

農学部は、専門教育科目の中に共通の専門基礎科目を配置し、農学基礎科目（コア科目）を選択必修とすることにより、スムーズに学習できるように工夫している。各学科、各コースは、その教育目的に合わせて、基礎から応用までの科目を履修できるように、各種の講義、演習、実験実習の各科目を配置している。必修科目と選択科目は、学生の学修意欲を引き出すために、バランスを工夫している。このように、農学部の教育目的に即して、授業科目が適切に配置されており、教育課程の編成において体系性が確保されている。

資料 1-2-1-3 農学部履修の手引（平成 21 年度）

資料 5-1-1-1 農学部授業時間割表（平成 21 年度）

観点5-1-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

## 農学部 5-1-②

(観点に係る状況)

農学部は、他学部学生のニーズを満たすために、専門科目の一部を学内開放科目として実施している。他方、農学部学生は、他学部の科目を受講可能であり、修得した単位は、自由科目として卒業要件に加えることができる(資料5-1-2-1)。農学部学生は、単位互換制度に基づいて、他大学で開講される科目を履修できる(例：琉球大学の熱帯農学総合実習など)(資料1-2-1-3)。他方、農学部は、フィールド科学総合実習を附属資源循環フィールド科学教育研究センターにおいて毎年実施し、単位互換制度に基づく宿泊実習に他大学の学生を受け入れている。企業や試験場等でのインターンシップを3年前学期に実施し、単位として認定している(2単位)(資料5-1-2-2)。

専門基礎科目の数学や物理学については、成績不良者に対する補講を実施している(資料5-1-2-3)。編入学生については、短期大学等で修得した単位を一括して認定し、農学部の卒業要件に算入している(資料1-2-1-4)。

多様な知的関心をもつ受講生の学修意欲を高め、理解を深めるために教員は、所属学会等における研究成果を授業内容に組み込んだり、新聞記事など活用して、関係分野における社会的状況を紹介している。

(分析結果とその根拠理由)

学内開放科目、単位互換、インターンシップ、専門基礎科目の補講、編入学者への配慮などがなされている。また、授業において、学術の動向や社会的要請との関係が、必要に応じて紹介されている。これらのことにより、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成及び授業科目の内容となっている。

資料5-1-2-1 学内開放科目一覧(平成21年度)

資料1-2-1-3 農学部履修の手引(平成21年度)

資料5-1-2-2 インターンシップ参加者一覧(農学部, 平成21年度)

資料5-1-2-3 補講実績表(平成21年度)

資料1-2-1-4 学生便覧(平成21年度)

観点5-1-③： 単位の実質化への配慮がなされているか。

### 農学部 5-1-③

(観点に係る状況)

単位の実質化については、量と質の両面において、配慮している。

農学部で開講されているすべての講義、演習、実験・実習は、単位修得に必要な授業時間数を確保している。やむを得ず休講になった場合は、必ず補講又はそれに準ずる対応を実施している。(資料1-2-1-3)

農学部履修の手引には、カリキュラム表やシラバスなどの教務事項を詳しく記載している。1年次始めに行うガイダンスなどにおいて、各学科・各コースの履修プログラムについて詳しく説明している(資料5-1-3-1)。教育委員や教務課職員による個別的な履修指導やメールを活用した相談などにより、適切な履修計画を学生が立てられるようにしている。これらのことを通して、学修目標を明確にし、単位を修得するために必要かつ十分な学修を学生に求めている。

教員は、オフィスアワーを設定するとともに、メールアドレスを公開している。質問がある学生は、教員と連絡を取り、個人的に指導を受けることができる。研究室に所属した後の学生は、卒業研究の指導教員からマンツーマン指導を受ける体制にしてある。

成績評価におけるGPAを、平成18年度から導入している。GPAは、学修意欲を引き出すために活用している(資料5-1-3-2)。

(分析結果とその根拠理由)

授業時間数の確保の徹底、組織的な履修指導などの、単位の実質化に必要な配慮がなされている。

資料1-2-1-3 農学部履修の手引(平成21年度)

資料5-1-3-1 農学部オリエンテーション(平成21年度)

資料5-1-3-2 GPA導入の方針



観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

#### 農学部 5-2-①

(観点に係る状況)

農学部ならびに各学科の教育目的を達成するために、様々な授業形態を組み合わせ、カリキュラムに沿った教育を実施している(資料5-2-1-1)。

農学部専門科目の授業形態別単位数(学科改組後の卒業要件)

学科	コース	講義	演習	実験	卒業研究
応用生物科学科	—	75	2	4	8
生物環境科学科	生物環境保全学	79	2	0	8
	資源循環生産学	77	0	4	8
	地域社会開発学	79	0	2	8
生命機能科学科	—	70	0	11	8

(出典：佐賀大学農学部「履修の手引」)

演習科目の多くは、少人数授業でなされる対話・討論型授業である。フィールド科学基礎実習Ⅰ、Ⅱのようなフィールド型授業や、情報基礎演習Ⅰなどでは、パソコンを利用した授業を実施している(資料5-2-1-1)。農学研究科の大学院生をTAとして採用し、学部学生に対する教育を充実させている。

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的に照らして、講義、演習、実験実習の授業形態がバランスよく組み合わせられており、教育目的に応じた適切な学修指導がなされている。

資料1-2-1-3 農学部履修の手引(平成21年度)

資料5-2-1-1 オンラインシラバス

<http://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

#### 農学部 5-2-②

(観点に係る状況)

農学部の教育目的を達成するための教育課程は、農学部教育委員会が検討し、各学科、基本計画委員会ならびに農学部教授会における審議を経て、シラバスが作成されている。

教育課程の実践に必要な各教員が担当する授業科目のシラバスは、シラバスの記入フォーマットを使用して作成している。シラバスは、オンラインシラバスとしてインターネットで公開している(資料5-2-1-1)。教員は、最初の授業でシラバスの内容を説明するとともに、「学生による授業評価」の結果等を利用して、シラバスを改善している(資料5-2-2-1)。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成趣旨に沿ったシラバスが適切に作成され、公開され、授業で活用されている。また、シラバスに記載する事項の改善は、「学生による授業評価」の結果などを利用してなされている。

資料5-2-1-1 オンラインシラバス

<http://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>

資料5-2-2-1 授業評価実施要領

観点5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

#### 農学部 5-2-③

(観点に係る状況)

学生からの質問や要望に対応するため，教員は，オフィスアワーやメールアドレスを学生に公開している（資料5-2-3-1）。附属図書館は，学生用の机，パソコン等を整備し，学生が自由に使える体制としている（資料5-1-3-2）。学生の自主学習のために，総合情報基盤センターや図書館のパソコンを自由に使えるようにしている。

農学部は，学生が机，椅子を自由に使えるリフレッシュスペースを設けている。各研究室では，学生用の空間を整備している。これらを学生が自主学習のために活用している（資料5-2-3-3）。

基礎学力が不足している学生については，専門基礎科目の数学及び物理学で補習授業を実施している（資料5-1-2-4）。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の学生のための自主的学習環境は整備され，利用されている。基礎学力不足学生への配慮が組織的に行われている。

資料5-2-3-1 オフィスアワー一覧 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/office.html>

資料5-2-3-2 附属図書館利用規程

資料5-2-3-3 農学部建物平面図

資料5-1-2-4 補講実績（平成21年度）

観点5-3-①： 教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されているか。

#### 農学部 5-3-①

(観点に係る状況)

佐賀大学成績判定等に関する規程が定められ、この規程に準じて、農学部で開講している授業科目の成績評価を実施している。「成績評価の方法」はシラバスに明記し、学生に周知している。成績判定は、授業科目の内容に応じて、定期試験、小テスト、レポート等により行い、成績評価と単位認定を厳格に実施している(資料5-3-1-1)。卒業認定の要件は、履修細則や農学部履修の手引に明記している(資料5-3-1-2, 1-2-1-3)。卒業研究については、学科・コース単位で公開の卒業研究発表会を実施するとともに、卒業論文を提出させて、厳格に評価している(資料5-3-1-3)。卒業認定は、学生が修得した科目の単位数と内訳に基づいて、教育委員会における実務的な検討を経て、教授会で審議し、決定している。

(分析結果とその根拠理由)

佐賀大学成績判定等に関する規程などに基づいて、成績評価と単位認定が適切に実施されている。卒業認定は、農学部規則に基づいて、教授会で審議し、決定している。

資料 5-3-1-1 佐賀大学成績判定等に関する規程

資料 5-3-1-2 農学部履修細則

資料 1-2-1-3 農学部履修の手引(平成21年度)

資料 5-3-1-3 応用生物科学科応用生物学系卒業研究発表会目次(平成21年度)

観点5-3-②： 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

**農学部** 5-3-②

(観点に係る状況)

佐賀大学成績判定等に関する規程に基づいて、成績判定を行っている(資料5-3-1-1)。試験の答案は、成績判定の妥当性を検証・確認できるように、3ヶ月間保存することとしている。成績評価に異議のある学生は、成績評価の異議申立てに関する要項に基づいて、担当教員に申し出ることができる。担当教員との協議によって成績評価に対する疑義が解決されない場合又は担当教員と協議ができない場合には、学部長に申し出ることができるし、農学部の場合は、教育委員に申し出ることができる。教育委員は、学生と担当教員から意見を聴取して、担当教員に問題があると判断した場合は、是正を勧告できる。

(分析結果とその根拠理由)

成績判定等に関する規程に基づく成績判定、学生に対する「成績評価の方法」の周知、成績評価に対する疑義に対応する制度等により、成績評価の正確性を担保するための処置を講じている。

資料5-3-1-1 佐賀大学成績判定等に関する規程
---------------------------

## 6 教育の成果

観点6-1-①： 学生が身に付ける学力，資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして，その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

### 農学部 6-1-①

(観点に係る状況)

学生が身に付ける学力，資質・能力や養成しようとする人材像等は，佐賀大学農学部・農学研究科概要（資料1-2-1-2），農学部履修の手引（資料1-2-1-3）等で公表している。勉学の達成状況を検証・評価するために，農学部評価委員会を組織している。達成度や問題点は，佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（資料1-2-1-6）等にまとめて公表している。

(分析結果とその根拠理由)

上記のことで，学生が身に付ける学力他の達成状況は，適切に検証・評価されている。

資料1-2-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成21年度）

資料1-2-1-3 農学部履修の手引（平成21年度）

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）

観点6-1-②：各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

#### 農学部 6-1-②

（観点に係る状況）

農学部教育委員会は、各学年終了時及び卒業時まで身に付ける学力や能力、資格取得の状況、あるいは卒論、修論の内容・水準を検討し、教育の成果や効果を確認している（資料1-2-1-6）。履修放棄者を除いた専門科目の単位修得率は高く、演習・実験・実習では95%を超え、講義形態の科目では約85%である。

専門科目の授業形態別単位修得率（平成21年度）

講義	演習	実験実習
84.9%	95.2%	95.6%

備考：数値は、受講者数に対する単位修得者の割合を示す。履修放棄者は除く。

（出典：教務情報システム成績管理データ）

農学部における教育において最も重要な科目と位置付けている卒業研究は、指導教員によるマンツーマンに近い指導を受けながら実施されており、大きな教育効果が得られている。

（分析結果とその根拠理由）

単位修得率ならびに卒業研究の内容から、教育の成果は上がっていると判断される。

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）

観点6-1-③： 授業評価等, 学生からの意見聴取の結果から判断して, 教育の成果や効果が上がっているか。

**農学部** 6-1-③

(観点に係る状況)

授業評価アンケートの結果では, 各学科・コースともに60%以上の満足度になっている(資料6-1-3-1)。また, 卒業・修了予定者アンケートについても, 講義科目で61%, 演習科目で71%, 実験科目で73%の満足度となっている。また, 81%の学生が専門的な知識や技能について大学生生活を通して習得できたと回答している(資料6-1-3-2)。

平成21年度の授業評価における満足度5と4の割合

	応用生物科学科	生物環境科学科			生命機能科学科
		生物環境保全学コース	資源循環生産学コース	地域社会開発学コース	
満足度5と4の割合 (%)	71.0	60.0	78.0	61.0	69.5

(出典：平成21年度佐賀大学農学部組織別授業評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

授業評価アンケートや卒業・修了予定者アンケートの結果から, 授業に対する満足度は比較的高く, ほとんどの学生が大学生生活を通して専門的な知識や技能を習得できたと回答していることから, 教育の成果や効果が上がっていると判断される。

資料6-1-3-1 平成21年度佐賀大学農学部組織別授業評価報告書

資料6-1-3-2 平成21年度佐賀大学卒業・修了予定者アンケート基礎集計表



観点6-1-④： 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

#### 農学部 6-1-④

（観点に係る状況）

卒業生の進路は、経済状況（景気）の影響を受ける面があるが、総合科学である農学部の特性を反映して、公務員、JA、食品、化学工業など、様々な分野へ進出している。農学部卒業生の過去5年の就職率は上昇している。

農学部卒業生の就職率

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
農学部卒業生	86.0%	90.3%	96.9%	97.9%	95.4%

（分析結果とその根拠理由）

就職実績から判断して、教育の成果は上がっている。

資料 1-2-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成21年度）

観点6-1-⑤：卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

### 農学部 6-1-⑤

（観点に係る状況）

農学部卒業後又は大学院農学研究科修士課程修了後3年以内を対象としてアンケート調査を実施した結果、自己評価の結果が良好（評価段階4以上）とした者の割合は48%であり、農学部・農学研究科における教育の効果はかなり上がっているといえる。（下表参照）

学部卒業者・大学院修了者からの回答

事項	評価段階					平均 評価点
	5	4	3	2	1	
①行動力・実行力	3	9	3	1	0	3.9
②熱意・意欲	3	10	3	0	0	4.0
③論理的思考力	2	4	7	3	0	3.3
④創造的思考力	1	5	6	4	0	3.2
⑤一般常識・教養	1	8	6	1	0	3.6
⑥専門知識	0	3	9	4	0	2.9
⑦コミュニケーション能力	4	6	6	0	0	3.9
⑧プレゼンテーション能力	1	2	8	4	1	2.9
合計 (%)	15 (11.7%)	47 (36.7%)	48 (37.5%)	17 (13.3%)	1 (0.8%)	

備考1：各設問事項について、優れているものを「5」、劣っているものを「1」とし、5段階で評価した。

備考2：合計欄の%は、回答総数に対する割合を示す。

備考3：平均評価点は、各評価項目の評価段階×回答数を合計回答数で除した値である。

（分析結果とその根拠理由）

就職先の職場上司による評価の結果は、学部卒業者・大学院修了者による自己評価の結果より高く（約75%）、農学部・農学研究科における教育の効果は高く評価されている。

上司からの回答

事項	評価段階					平均 評価点
	5	4	3	2	1	
①行動力・実行力	4	8	1	0	0	4.2
②熱意・意欲	4	8	1	0	0	4.2
③論理的思考力	2	7	4	0	0	3.8
④創造的思考力	1	6	6	0	0	3.6
⑤一般常識・教養	5	5	3	0	0	4.2

⑥専門知識	3	4	4	1	0	3.8
⑦コミュニケーション能力	3	9	1	0	0	4.2
⑧プレゼンテーション能力	2	6	4	1	0	3.7
合計 (%)	24 (23.3%)	53 (51.5%)	24 (23.3%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	

注：各設問事項についての説明は、「学部卒業者・大学院修了者からの回答」の備考を参照

資料 6-1-5-1 平成 20 年度アンケート調査報告書（農学部卒業者・大学院修了者・就職先上司） p1～17

## 7 学生支援等

観点7-1-①： 授業科目や専門，専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

### 農学部 7-1-①

(観点に係る状況)

農学部教育委員会は、授業科目や専門，専攻の選択の際のガイダンスを、1年次最初のオリエンテーション時や前学期終了時，コース分属・分野分属時などに実施している。また，各学科・講座等の具体的な教育研究内容，教員組織等の具体的な内容は，佐賀大学農学部・農学研究科概要（資料1-2-1-2）に記し，詳しく説明している。卒業・修了予定者アンケートの結果では，学修相談の体制について，不満を表明した学生は18%にとどまっている（資料6-1-3-2）。

(分析結果とその根拠理由)

オリエンテーション時などのガイダンス実施状況や卒業・修了予定者アンケートの結果から，授業科目や専門，専攻選択の際のガイダンスは，農学部教育委員会により，適切に実施されていると判断される。

資料1-2-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成21年度）

資料6-1-3-2 平成21年度佐賀大学卒業・修了予定者アンケート基礎集計表

観点7-1-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。

#### 農学部 7-1-②

(観点に係る状況)

学生相談者等調や佐賀大学学生生活実態調を利用して，学習支援に関する学生のニーズを把握している(資料7-1-2-1, 7-1-2-2)。

平成19年度にチューター(担任)制度を発足させ，大学入門科目担当教員がチューターとなり，受け持った学生の所属分野が決まるまで，必修科目の単位修得状況などに基づく学習支援と助言を行っている(資料7-1-2-3)。

農学部の全教員は，オフィスアワーを設定し，学習相談，助言を行うとともに，Eメールによる相談・助言体制も整えている(資料5-2-3-1)。

教育委員会と学生委員会は，学生向けのメーリングリストを開設し，学生からの質問に答える体制を整えている(資料1-2-1-3)。

(分析結果とその根拠理由)

チューター制度の実施やオフィスアワーの設定，学生向けメーリングリストの開設などから，学習支援に関する学生のニーズを適切に把握し，学習相談，助言を適切に行っていると判断される。

資料7-1-2-1 学生相談者等調(平成21年度)

資料7-1-2-2 佐賀大学学生生活実態調(平成21年度)

資料7-1-2-3 チューター(担任)制度ガイドブック(2007年3月)

<http://www.saga-u.ac.jp/gakunai/syokuinyou.htm>

資料5-2-3-1 オフィスアワー一覧 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/office.html>

資料1-2-1-3 農学部履修の手引(平成20年度)

観点7-1-④： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

#### 農学部 7-1-④

(観点に係る状況)

農学部の留学生、社会人入学生、編入学生、障害のある学生など、特別に支援が必要な学生の入学に備えて、留学生担当専門教員、教育委員会、学生委員会を配置して、学習支援体制を整えている。留学生については、学生チューター制をとり、学習と生活支援を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の各種委員会及び関係教員が、特別な支援が必要な者への学習相談、助言を適切に実施していると判断される。

観点7-2-①： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

### 農学部 7-2-①

(観点に係る状況)

農学部の学生が利用する主な学習スペースは、附属図書館と農学部建物内にある。附属図書館は、授業で使う参考図書を充実し、学生用の机、パソコン等を整備している(資料5-2-3-2)。農学部の建物内には、学生が自由に使える学習机と椅子を備えた学生専用スペースを設けている(資料5-2-3-3)。学生への連絡や自習スペースとして、コミュニケーションルームを設けている。各々の教育研究分野(研究室)は、主として3学年以上の学生が学習に利用できるスペースを設けている(資料5-1-2-3)。

農学部の自習スペースと設置図書、機材等(平成19年度)

学科	スペース (㎡) /年間延利用時間	図書、機材等			
		机	椅子	書籍	パソコン数
応用生物科学科	345/1,600	94	111	8,525	29
生物環境科学科	606/1,600	152	211	19,719	76
生命機能科学科	212/1,600	36	62	6,926	20

備考：自習スペースの利用状況調査(19年度)から

(分析結果とその根拠理由)

附属図書館内、農学部建物内及び研究室内には、机、椅子、パソコン等を自由に利用できる学習環境が整備され、効果的に利用されている。

資料5-2-3-2 附属図書館利用規程

資料5-2-3-3 農学部建物平面図

資料5-1-2-3 自習スペースの利用状況調査(平成19年度)

観点7-3-①： 生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており，健康，生活，進路，各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され，適切に行われているか。

#### 農学部 7-3-①

(観点に係る状況)

学生委員会委員，大学教育委員会委員，チューター（担任），卒論指導教員，学生生活課職員，農学部教務係職員を含む全ての教職員が，学生のニーズの把握と対応に努めている。すべての教員はオフィスアワーを設定し，一般学生，留学生，社会人，障害を有する学生からの多岐にわたる相談に対応している（資料7-3-1-1）。

新入生から，教育研究分野への分属が決まるまでの学生については，チューター（担任）が相談役を務めている。各チューターは，約 20 人の学生の相談役となり，各学期毎に，必要に応じて個人面接を行うことにより，課題を抱えている学生を把握し，対応している。面接日時等は，掲示等により，学生へ周知している。教育研究分野へ分属した学生については，卒論指導教員が対応している。ハラスメントについては，同和人権問題委員会の委員及び同相談委員が主として対応している。

(分析結果とその根拠理由)

学生のニーズ把握と，ハラスメント等の問題が生じた場合の体制は整備され，機能している。

資料 7-3-1-1 教員報告様式 【佐賀大学ホームページ（職員向け掲示板）】

<https://udb.cc.saga-u.ac.jp/staffData/>



観点7-3-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

**農学部** 7-3-②

(観点に係る状況)

特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等は、全学的に行われているため、農学部としての組織的な支援は行われていない。また、現時点において該当学生は在学していない。

(分析結果とその根拠理由)

理由省略

観点7-3-③： 学生の経済面の援助が適切に行われているか。

**農学部 7-3-③**

(観点に係る状況)

全学部の学生を対象とした学生支援機構奨学金は、多くの農学部学生が利用している。  
農学部の学生だけを対象とする給付型奨学金（中董奨学金）を、平成21年度は成績優秀な学生2人が受給している（資料7-3-3-1）。これ以外の奨学金等に関する情報は、掲示等により、学生に周知している。

農学部からの奨学生の推薦にあたっては、成績等により、学生委員会が厳正に順位付けを行った上で、上位者から推薦している。

(分析結果とその根拠理由)

学生に対する経済的支援は、公平を期しながら、学生生活課と学生委員が適切に実施している。

資料 7-3-3-1 中董奨学生募集要項（平成 21 年度）
--------------------------------

## 8 施設・設備

観点8-1-①： 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

### 農学部 8-1-①

(観点に係る状況)

農学部は、1号館から4号館の建物の他に、圃場、大型温室を含む温室等を有しており、年間を通して活用している(資料8-1-1-1)。平成21年度に老朽化して危険になった温室6棟を建て替え、整備した。附属資源循環フィールド科学教育研究センターには、農場及び畜産設備があり、農場実習や学生の学位論文や卒業論文作成等に有効に利用されている。また、平成21年度に老朽化した温室1棟を建て替え、整備した。学内共同教育研究施設である海浜台地生物環境研究センターは、フィールドを重視した教育研究に必要な施設・設備を整備し、活用できるようにしてある。

農学部共通の講義室は、1号館に9室あり、学部及び大学院の講義に利用されている。さらに、少人数の講義や研究指導を円滑に運用するためのセミナー室、学部の卒業研究や大学院の特別研究を行う学生の研究室や実験室を整備している。大学院生用の多目的講義室及び演習室は、学部教育のためにも活用できる。

平成21年度 農学部講義室使用率(1週間)

講義室等名称	収容人員	学内外使用回数				用途別使用回数			使用率 (%)
		部局	他部局	学外者	合計	講義等	自習等	研修会等	
農学部第1講義室	48	55	2	5	62	50	12		59
農学部第2講義室	48	34	4	5	43	39	4		41
農学部第3講義室	84	64		5	69	63	6		66
農学部第4講義室	48	60	4		64	47	17		61
農学部第5講義室	81	63			63	46	17		60
農学部大講義室	204	43	9	5	57	48	9		54
農学部学生演習室	30	19			19	11	8		18
大学院多目的講義室	48	43			43	28	15		41
大学院演習室	10	48			48	38	6	4	46

学生の実験・実習用の設備として、生物学実験室が1室、化学実験室が1室、実習棟が1棟ある。これら講義室・実験室等の配置は、学生便覧(資料8-1-1-2)、農学部履修の手引(資料8-1-1-3)等に示し、広く学生等に周知している。

身体障害者のために、1号館と4号館にエレベーターを設置している。農学部の各建物には、身障者用の駐車場、スロープ、トイレ及びリフレッシュホールなどを設け、また、講義室内にも障害者用スペースを確保するなど、バリアフリー化を進めている。

本学部の教育・研究を潤滑に運営していくために、学部運営会議室(大会議室)及び小会議室が整備され、教授会や学科会議等に活用されている。さらに、前記の学生用のセミナー室等も運営のための会議等に適宜利用さ

れている。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の目的に即した施設・設備が整備され、活用されている。身障者の学習等に配慮したバリアフリー化が進められている。

資料 8-1-1-1 圃場・施設等年間利用状況

資料 8-1-1-2 学生便覧 (平成 21 年度 p457～461)

資料 8-1-1-3 農学部履修の手引 (平成 21 年度 p113～117)

観点8-1-②： 大学において編成された教育課程の遂行に必要なICT環境が整備され、有効に活用されているか。

## 農学部 8-1-②

(観点に係る状況)

農学部では、ほぼすべての研究室、演習室、実験室にインターネットの有線LAN端末及び大学が管理する10カ所の無線LANポートを設けている(資料8-1-2-1)。

農学部無線LAN設置一覧

No	設置場所
1	農学部運営会議室 (農学部1号館南棟1F)
2	生物学学生実験室 (農学部1号館中棟1F)
3	第2講義室 (125) 前廊下 (農学部1号館南棟-中棟1F)
4	農学部101講義室 (農学部1号館南棟1F)
5	第4講義室 (233) 前廊下 (農学部1号館南棟2F)
6	環境資源学学生演習室前廊下 (農学部4号館1F)
7	教員研究室前廊下 (農学部4号館2F)
8	農学部合併教室 (大講義室)
9	農学部4号館5F
10	林研究室 (農学部1号館)

学生には、入学後すぐにインターネット・アドレスが与えられ、個人用ならびに図書館あるいは情報演習室に設置しているパソコンを用いて、就学に必要な情報を学内及び学外から自由に得ることができる。科目履修と学生生活に関しては、それぞれ農学部教育委員及び農学部学生委員へ直接アクセスできるメールアドレスを設けている(資料8-1-2-2)。学生センターへは、インターネットと携帯電話からアクセスできるアドレスを設けている。さらに、各教育研究分野(研究室)の自習スペースには合計125台のパソコンが設置されている(資料8-1-2-3)。また、平成21年度に農学部マルチメディア情報室を整備し、新たにパソコン30台を設置して、学部の情報教育に活用できるようにした。

(分析結果とその根拠理由)

教育の内容・方法や学生のニーズを満たすための情報ネットワークの整備は、おおむね達成され、教職員及び学生により有効に活用されている。

資料8-1-2-1 農学部ICT環境(LAN, パソコン設置状況)

資料8-1-2-2 農学部履修の手引(平成21年度 p1)

資料8-1-2-3 自習スペースの利用状況調査(平成19年度)

観点8-1-③： 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

### 農学部 8-1-③

（観点に係る状況）

農学部は、基本計画委員会規程及び施設委員会規程を定め、それぞれの委員会で施設・設備の運用方法に係る諸課題について審議し、審議結果を教職員へ周知している（資料8-1-3-1, 8-1-3-2）。農学部が作成した「実験・実習における安全の手引」（資料8-1-3-3）に施設・設備の利用方法を明記し、全ての実験室等の目につく場所に配置している。また、新入生オリエンテーションで新入生に周知を図るとともに、実験・実習の際に再度、使用方法を指導している。

農学部1号館の改修後、学科・学系などの専門教育研究分野ごとに集団化することにより、実験スペースや施設のオープン化、共有化、共同利用化の促進と、研究教育機能の効率化を進めており、共同利用スペースの運用については佐賀大学農学部共同利用スペース利用細則（資料8-1-3-4）を制定し、構成員に周知している。また、学生コミュニケーションスペース、大学院演習室、学生自習室、広報室、地域支援室、高度解析共同実験室、客員教授室などを設けて、キャンパスアメニティの形成とともに、産学の連携・協力型研究及び生涯学習などの地域貢献の推進に配慮した。

高度な教育研究に必要な機器は、総合分析実験センター機器分析部門の装置として登録・管理されており、その利用に関しては、佐賀大学ホームページの利用案内（資料8-1-3-5）に示されている。多目的講義室、大学院演習室、学生演習室、会議室の使用に当たっては、事前に予約表に記入することを義務づけている。液晶プロジェクター、実物投影機、OHP、スライドプロジェクターなどの教育機器についても集中管理し、予約制としている。

（分析結果とその根拠理由）

農学部の施設・設備の整備・運用は、基本計画委員会・施設委員会で検討され、教職員及び学生に周知されており、施設・設備は有効利用が図られている。

資料8-1-3-1 農学部施設委員会規程

資料8-1-3-2 農学部基本計画委員会規程

資料8-1-3-3 実験・実習における安全の手引 p17～23, p 45～53

資料8-1-3-4 農学部共同利用スペース利用細則

資料8-1-3-5 佐賀大学総合分析センターホームページ

<http://www.iac.saga-u.ac.jp/index2.htm>

観点8-2-①： 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

**農学部** 8-2-①

(観点に係る状況)

農学部の図書類は、附属図書館に集中しており、独自の図書館を有していない。

(分析結果とその根拠理由)

理由省略

## 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

観点9-1-①： 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。

### 農学部 9-1-①

(観点に係る状況)

教員の教育活動の実態を示す資料（講義ノート、スライドファイル、資料等、学生の出席状況、試験問題、レポート課題、答案、レポート、成績結果、卒業論文、修士論文等）は、各教員が責任をもって保管・蓄積している。博士論文は、論文本体とPDFファイルを図書館で保管・蓄積している。これらの資料に基づく教育活動の実態は、農学部教育研究業績総覧及び農学部自己点検・評価報告書として2年ごとに取りまとめ、公開している（資料3-2-2-2, 1-2-1-6）。

(分析結果とその根拠理由)

教育の活動実態を示すデータや資料の収集・蓄積及びその組織的な集計がなされている。

資料3-2-2-2 佐賀大学農学部教育研究業績総覧（2006年3月）

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）



観点9-1-②： 大学の構成員（教職員及び学生）の意見の聴取が行われており，教育の質の向上，改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

#### 農学部 9-1-②

（観点に係る状況）

「学生による授業評価」の集計結果とアンケート用紙の原票は教員へ返却され，授業改善に活用されている（資料5-2-2-2）。農学部を含む全学部の授業評価を取り纏めた授業評価報告書には，集計・比較・分析された各評価項目のデータを記している（資料3-2-2-6）。この分析結果を見ることにより，教員は担当科目についての相対的評価を知り，授業改善に活用できる。

大学教育委員会のFD専門委員会は，授業改善に資するため，授業評価の結果の活用（フィードバック）に関する先進事例等を紹介している。農学部FD専門委員会は，全学的なFD活動と連携しながら，教育の質的改善に向けた活動（講演会等）を実施している。

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業評価，FD活動等が行われ，学生及び教員からの意見聴取(資料9-1-2-1)を踏まえ，教育の質の向上に反映させている。

資料5-2-2-2 授業評価実施要領（佐賀大学教育委員会）

資料3-2-2-6 学生による授業評価と改善に関する実施報告書（平成20年度）

あるいは平成21年度－農学部－組織別授業評価報告書

資料9-1-2-1 佐賀大学教員対象アンケート報告（平成18年度）

観点9-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

#### 農学部 9-1-③

(観点に係る状況)

学外関係者の意見は、学生の保護者、同窓会会員、学部卒業生の採用企業、外部評価委員等から得ており、教職員の意識改革と教育の質的向上・改善に活用している。

農学部後援会を毎年開催し、保護者に対する教育活動報告と意見交換を行っている。意見交換を通して得られた要望等は、学科会議や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映している。農学部同窓会総会には、学部長、学科長等が出席し、農学部における教育活動の報告と、卒業生からの意見聴取を行い、その結果を教育活動へ反映している。農学部卒業生の就職先に対するアンケート調査を農学部就職委員会が実施している。卒業生に対する社会の評価を学部教育へ反映させるために、報告書を作成し、各教員へ周知している(資料6-1-5-1)。2年ごとに実施する農学部自己点検・評価において、学外評価委員からの意見を聴取し(資料1-2-1-6)、農学部教育委員会や学部運営会議で検討し、教育活動の改善に活用している。

(分析結果とその根拠理由)

学外関係者から聴取した意見によると、本学部卒業生の企業における評価は高かった。企業アンケート調査による意見を参考とし、教育の改善に活用するなど、学外関係者の意見が教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされている。

資料6-1-5-1 平成21年度アンケート調査報告書(農学部卒業生・大学院修了者・就職先上司)

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書(平成20年度)

観点9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。

#### 農学部 9-1-④

(観点に係る状況)

授業の質的改善の基礎データとなる『「学生による授業評価」の実施に関する報告書』の作成に、農学部の教育委員も参加している(資料3-2-2-6)。大学教育委員会が作成した報告書は、農学部教育委員会で検討し、学科会議等において周知している(資料2-2-2-1)。学部運営会議(資料9-1-4-1)及び農学部評価委員会(資料3-2-2-1)における検討を経て、農学部全体の教育課程の見直しと改善を行っている。

学生による授業評価の結果、映像を用いた分かりやすい講義スタイルに対する学生の要望が強いことが示された。この要望に応えるため、講義室にビデオ装置を設置するとともに、無線LANポートやLAN有線接続ポートを設け、インターネットを活用した講義を可能とした(資料9-1-4-2)。同時に複数の講義で映像を用いることを可能にするため、年度計画を立てて、液晶プロジェクターを揃えてきた。各教員の授業改善の取組みを個人評価の点検項目とし、授業改善を促している(資料3-2-2-4, 3-2-2-3)。

(分析結果とその根拠理由)

評価結果を教育の質的向上に結びつける取組みと授業改善は、継続的に実施されている。

資料3-2-2-6 平成21年度—農学部—組織別授業評価報告書

資料2-2-2-1 農学部教育委員会規程

資料9-1-4-1 農学部運営会議規程

資料3-2-2-1 農学部評価委員会規程

資料9-1-4-2 農学部映像機器整備表

資料3-2-2-4 農学部教員個人評価書実施要項

資料3-2-2-3 佐賀大学農学部における教員の個人評価に関する実施基準

観点9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

#### 農学部 9-2-①

(観点に係る状況)

農学部教育委員会内のFD専門委員会を農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会として独立させることにより、組織的なFD活動の実施体制を強化している(資料9-2-1-1, 9-2-1-2)。教員の教育力向上のために、農学部独自のFDセミナーと研究紹介を実施している(資料9-2-1-3, 9-2-1-4)。「学生による授業評価」は、継続的に実施し、授業評価の結果を授業改善に利用するため、大学教育委員会が集計分析し、各学部へフィードバックしている(資料9-2-1-5)。

(分析結果とその根拠理由)

組織的にFD活動が実施され、教育の質の向上や授業の改善に活用されている。

資料9-2-1-1 農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

資料9-2-1-2 農学部教育委員会規程

資料9-2-1-3 農学部教育委員会議事録(平成21年度)

資料9-2-1-4 農学部教員による研究紹介リスト

資料9-2-1-5 平成21年度—農学部—組織別授業評価報告書

観点9-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

#### 農学部 9-2-②

(観点に係る状況)

技術職員、ティーチング・アシスタント等は、実験、実習において、授業担当教員と連携をとりながら、教育支援を担っている。教育支援者は、実験、実習等の場において、**On Job Training** も受けながら、資質を向上させている。ティーチング・アシスタントについては、授業担当教員による説明（事前研修）を実施している。技術職員に対しては、資質の向上を目的とした研修会を実施している（資料9-2-2-1）。

(分析結果とその根拠理由)

教育支援者の資質の向上を図る研修等の取組は適切に実施されている。

資料9-2-2-1 佐賀大学教室系技術職員学科別技術専門研修（平成21年度）
--

## 10 管理運営

観点11-1-①： 管理運営のための組織及び事務組織が、大学の目的の達成に向けて支援するという任務を果たす上で、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

### 農学部 11-1-①

(観点に係る状況)

農学部の管理運営は、学部長のリーダーシップの下で、教員組織と事務組織（農学部事務長、総務係職員及びフィールドセンター事務係職員）が連携・協力しながら、任務を果たしている。農学部では、管理運営に関する各種委員会を設置している。

管理運営に関する農学部委員会と構成員（平成21年4月現在）

委員会等の名称	構成員
学部運営会議	学部長，教育研究評議員（1），副学部長（2），学科長（3），副学科長（1）
農学部基本計画委員会	副学部長（1），学科選出教員（6）
農学部予算委員会	副学部長（1），学科選出教員（3）
農学部人事委員会	学科選出教員（6）
農学部評価委員会	学部長，副学部長（2），大学評価委員会委員（2），学科長（3），フィールドセンター長，学部長指名者（3），事務長
農学部施設委員会	副学部長（1），大学施設マネジメント委員会委員（1），基本計画委員会委員（2）
農学部安全衛生委員会	副学部長（1），学生委員会委員（1），講座選出委員（7），フィールドセンターの衛生推進者（1），事務長，農学部技術職員（1），センター技術職員（1）
フィールドセンター運営委員会	センター長，副センター長（1），学科選出委員（3） センター長が必要と認めた者（3），センター専任教員（3），事務長

管理運営を含む重要事項について検討するための組織として、学部運営会議（学部長，教育研究評議員，副学部長，学科長，副学科長の8人で組織）を設置している。管理運営に係る事項は、教授会において周知されている。農学部教授会は、助教を含む全教員によって構成し、教育研究評議員及び各種委員会委員の選出や、その他の運営に関する事項の審議を行っている。

危機管理のために、「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め、教職員と学生へ周知している。緊急事態の発生を未然に防止するための実務は、専門知識を持つ教員を含む農学部安全衛生委員会（委員長は副学部長）、農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会等が担当している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の管理運営の組織と事務組織は、適切な規模となっており、適切に機能している。危機管理等の体制は、法人化後に強化され、適切に機能している。

観点11-1-③： 大学の構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者のニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映されているか。

#### 農学部 11-1-③

（観点に係る状況）

教職員のニーズは、各種学内委員会、学科会議等を介して把握されている。教育研究分野レベル及び個人レベルのニーズも把握できるように配慮している。

学生のニーズは、多様なチャンネルを介して、把握している。学生生活については、学生委員会と学生生活課、修学については、教育委員会と教務課がニーズ（課題）を把握している。チューター（担任）を含む全教員は、学生（卒業生を含む。）ならびに保護者（農学部後援会会員）のニーズ把握に努めている。

学外者からのニーズは、卒業生の就職先企業、地元佐賀県関係、外部評価委員を通して把握している。また、自己点検評価報告書を作成し、外部評価委員に農学部の管理運営についての意見も求めている（資料1-2-1-6）。

農学部教職員、学生、学外者のニーズは、農学部あるいは各学科で検討し、管理運営に活かしている。

（分析結果とその根拠理由）

農学部内外のニーズを把握し、適切に管理運営がなされている。

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）
-------------------------------------

観点11-2-①： 管理運営に関する方針が明確に定められ、その方針に基づき、学内の諸規定が整備されるときともに、管理運営に関わる委員や役員の選考、採用に関する規定や方針、及び各構成員の責務と権限が文書として明確に示されているか。

## 農学部 11-2-①

(観点に係る状況)

農学部の管理運営は、全学的な管理運営に係る諸規則・諸規程に加えて、農学部独自の諸規程等を制定・整備し、農学部の管理運営に係る業務を遂行している。農学部の諸規程等には、制定目的、職務、委員会構成などを明記している。

農学部の管理運営に関する主な規則・規程等（平成21年4月現在）

全般	農学部規則，農学部教授会規程，農学部運営会議規程，農学部副学部長に関する規程（選考規程），農学部事務分掌規程，農学部学科長規程（選考規程），農学部基本計画委員会規程，教育研究分野の新設及び改廃の手続きについて，農学部学科改組における学科長及び副学科長の職務に関する申合せ
評価	農学部評価委員会規程
人事	農学部長候補者選考規程，農学部人事委員会内規，人事委員会申合せ，農学部の人事に関する申合せ，教員の特別昇給候補者選考実施要領
予算	農学部予算委員会規程，学部・大学院修士課程予算配分方法，特別設備の維持費及び研究基盤支援促進経費並びに外部研究資金から光熱費等としての振替に関する申合せ
施設・安全管理	農学部施設委員会規程，農学部施設点検・評価実施細則，農学部安全衛生管理規程，農学部安全点検実施要領，農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会内規，農学部防火管理委員会内規
附属センター	農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター規程，農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター長選考規程

農学部の運営に関する重要事項は、農学部長（農学研究科長を兼務）を議長とする農学部教授会で審議し、教授会構成員全員が、全学的或いは全学的な視野に立った学部運営を行っている。教授会の審議を実質化させ、円滑な運営を行うために、学部運営会議、学科会議及び各種委員会等が設けられている。委員会の構成、責務、権限等は委員会規程等に明記されている。

農学部の管理運営責任者である農学部長の候補者の選考は、佐賀大学農学部長候補者選考規程に定めている。学部長候補者選挙管理委員会の管理の下で実施される学部長候補者の選挙結果に基づいて、教授会で審議し、学部長候補者を学長に推薦する。佐賀大学学部長選考規則に基づいて、当該学部からの推薦を受けて、学長が学部長を選考する。

学部長は、教員選考委員会に出席して意見を述べることができ、学部の人事計画について方針を示すことができる。

副学部長は学部長が指名し、学科長は、学科構成員による選挙で選出され、学科を代表し、学科の運営及び学



科における教育研究活動に関する事項を処理している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部の管理運営に関する諸規程が整備されて、管理運営に関わる委員会等を設置し、委員会等の責務、権限、委員選考方法等を文書として明確に定めている。

観点11-2-②：大学の活動状況に関するデータや情報が適切に収集、蓄積されているとともに、教職員が必要に応じて活用できる状況にあるか。

## 農学部 11-2-②

(観点に係る状況)

農学部教員には、「教員報告様式」の提出を義務付けている(資料11-2-2-1)。この様式には、教育、研究、社会貢献、組織運営の各領域に関する全学指定項目に加えて、農学部評価委員会で定めた項目についての活動実績が記されている。各教員の活動実績は、各学科長により集約され、学部長の評価を受ける。この様式は、個人評価の他に、部局自己点検評価や法人評価、認証評価の基礎資料として活用している。

### 1) 意思決定に必要な情報の収集状況

情報の収集方法は、多岐にわたるが、主な学外情報源としては、文部科学省訪問による情報、全国学部長会議による中央又は他大学情報、文部科学省の広報誌、インターネットによる他大学情報、訪問や電話・FAXによる他大学情報、学部教員による他大学情報を利用している。

### 2) 教職員に対する公開の状況

得られた情報の伝達は、回覧とメールを利用しているが、重要情報については、その都度、直近の教授会等で学部長が報告を行っている。また、全学委員会及び学部委員会からの情報は、委員会の開催ごとに学部構成員に対してメールで内容を配信している。

(分析結果とその根拠理由)

教員報告書により、農学部教員の活動状況が収集、蓄積されている。活動状況に関する評価結果は各教員に通知され、活動状況の分析結果は、部局別評価等に利用されている。

資料 11-2-2-1 教員報告様式データ閲覧ホームページ

<https://udb.cc.saga-u.ac.jp/staffData/UnivBaseDBBrowse/browse>

観点11-3-①： 大学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われており、その結果が大学内及び社会に対して広く公開されているか。

#### 農学部 11-3-①

(観点に係る状況)

農学部の自己・点検評価は、農学部評価委員会（構成：学部長、副学部長、佐賀大学評価委員、学科長、附属資源循環フィールド科学教育研究センター長、学部長指名職員、事務長）が、教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営及び施設の5つの領域について実施している（資料3-2-2-1）。自己点検・評価の結果は、冊子として発行し、公開している（資料1-2-1-6）。また、評価報告書はウェブサイト上でも閲覧することができる（資料11-3-1-1）。

(分析結果とその根拠理由)

法人（大学）が実施する自己点検・評価に加えて、農学部独自の自己点検・評価がなされ、その結果は公表されている。

資料3-2-2-1 農学部評価委員会規程

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）

資料11-3-1-1 大学評価について（佐賀大学ホームページ）

<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>

観点11-3-②： 自己点検・評価の結果について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による検証が実施されているか。

#### 農学部 11-3-②

（観点に係る状況）

農学部の自己・点検評価は、農学部評価委員会が実施し、外部評価委員による検証を受けている。5つの領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営、施設）について実施された平成20年度の自己点検・評価については、外部評価委員による検証結果を、平成22年2月に得た。自己点検・評価と外部評価の結果は冊子として取りまとめられ、公表された（資料1-2-1-6、11-3-1-1）。冊子は、学部改善に資するため農学部教員と関係教職員へ配布された。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価した結果について、学外者による検証は実施されている。

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）

資料11-3-1-1 大学評価について（佐賀大学ホームページ）

<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>

観点11-3-③： 評価結果がフィードバックされ、管理運営の改善のための取組が行われているか。

**農学部 11-3-③**

(観点に係る状況)

評価の結果明らかになった問題点は、学科会議、学部教育委員会、学部運営会議等で検討するとともに、改善が必要な事項を教員へ周知し、教育の質の向上のために活用している(資料1-2-1-6)。

(分析結果とその根拠理由)

評価結果のフィードバック・システムが整備され、管理運営の改善に活用されている。

資料1-2-1-6 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書(平成20年度)
-------------------------------------

観点11-3-④： 大学における教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報をわかりやすく社会に発信しているか。

#### 農学部 11-3-④

(観点に係る状況)

大学(法人)として行う全学的な教育研究活動状況調査(評価)の中で、農学部の活動の要点を報告している。また、農学部の活動に関する詳細を記した冊子を発行し、高等学校など関係機関に配布している(資料1-2-1-2)。教育研究活動の状況は、農学部のホームページに掲載し、広く社会に向けて発信している(資料1-2-1-5)。さらに、高校生及び一般市民を対象とした公開シンポジウムを同窓会と共同して毎年開催し、農学部で実施しているプロジェクト型研究の成果を平易に紹介している(資料11-3-4-1)。平成21年度に開催した公開シンポジウムには111名(高校生24名を含む)の参加者があり、満足度4.27の評価を得た(資料11-3-4-2)。

(分析結果とその根拠理由)

教育研究活動の状況とその活動の成果は、社会(学外者)へわかりやすく発信されている。

資料1-2-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要(平成21年度)

資料1-2-1-5 農学部ホームページ

<http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html>

資料11-3-4-1 学長経費(中期計画実行経費)事業成果報告書(平成18, 19, 20, 21年度)

資料11-3-4-2 平成20年度佐賀大学学長経費事業成果報告公開シンポジウム「循環型社会へ向けた食料生産・加工・消費システムの研究・開発」アンケート集計結果報告書

## 1.1 教育サービス

観点B-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

### 農学部 B-1-②

(観点に係る状況)

正規課程以外の学生に係る諸規程等に基づいて、生涯学習の一環として、各種の教育活動を実施している。

#### 1) 科目等履修生

資格取得を目的とする学生を含む、農学部教員が担当した科目等履修生は、下表のとおりである。科目等履修生の履修目的は、主に、資格取得（教職免許等）である。

科目等履修生の履修科目と受講生数

授業科目名	履修年度（履修者数）
システム生態学	平成 19 (1)
熱帯作物改良学	平成 19 (1)
動物繁殖生理学	平成 19 (1)
化学	平成 20 (1)

#### 2) 公開講座

農学部教員が担当した公開講座は、下表のとおりである。

農学部教員が担当した公開講座

年度	公開講座名
平成 21 年	天気予報にチャレンジ
	あなたも作ってみませんか有機野菜

#### 3) 地域と共同した教育活動

農学部教員が担当した地域と共同した教育活動は、下表のとおりである。

教育活動
佐賀大学公開シンポジウム「循環型社会へ向けた食料生産・加工・消費システムの研究・開発」の開催
特別の課程「農業版 MOT 育成プログラム」の開講準備

(分析結果とその根拠理由)

科目等履修生を受入れ、地域貢献型の教育（フィールド活動）の積極的な展開、公開講座の開催等、市民を含む非正規学生に対する教育サービスを適切に実施している。

観点B-1-③： 活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されているか。また、活動の実施担当者やサービス享受者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

農学部，農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターならびに地域（自治体・団体・NPO）との連携に基づく地域貢献活動（例：伊万里はちがめプラン，蕨野の棚田支援，水みちマップ運動，食育教育等）には多くの学生・教員・市民等が参加し，極めて活発に活動した。この活動は，高い社会的関心と評価を得た。本学が平成17～19年度にかけて実施した「地域創成学生参画教育プログラム」に参加した学生は，フィールドでの実習・活動を通して大きく成長し，総合科学である農学教育が質的に向上した。

地域創成教育プログラムに対する受講生の評価

事項	平成17年度	平成18年度
シラバスの記載（成果）の達成度	8.3	13.0
問題解決の知識・技法の習得度	10.7	20.0
地域社会の課題に対する理解度	15.0	25.2
他の関連科目に対する受講希望	23.2	27.0
講義形式以上の学習意欲の高揚	31.9	28.5
授業科目に参加（履修）する価値	35.9	44.4

備考：数値は，本プログラムの目的に「よく当てはまる」と回答した受講生の割合（%）を示す。

（出典：佐賀大学地域創成型学生参画教育プログラム推進委員会編「大学教育と地域創成－佐賀大学の教育実践－」p18）

平成20・21年度のネット授業は，農学部教員が1科目担当しており，受講者数はそれぞれ43，49人である。オンデマンド型でなされるネット授業の受講者の満足度は，おおむね良好である（資料B-1-3-1）。

公開講座受講者数の過去5年の平均数は，約9人であり，実際に役立つ講座についての満足度が高い（資料B-1-3-2）。

科目等履修生は，資格取得（教職免許等）を目的とする者にほぼ限定されているため，過去5年間の合計受講者数は5人である（資料B-1-3-3）。

(分析結果とその根拠理由)

社会貢献型の教育活動は，非常に活発になされており，参加者・サービス享受者の満足度は高い。

資料B-1-3-1 ネット授業履修者からのコメント例

資料B-1-3-2 公開講座参加者からのコメント例

資料B-1-3-3 科目等履修生の受講者数



観点B-1-④： 改善のための取組が行われているか。

**農学部** B-1-④

(観点に係る状況)

正規課程の学生以外に対する教育活動は多面的に実施しているが、人員と経費の削減が続いているため、特定の教職員の負担が過重になっている。この課題を解決し、より良い活動にするための取組みがなされているが、十分とは言えない。

(分析結果とその根拠理由)

改善に向けた取組は、十分とはいえない。

## 1 大学の目的

観点1-1-②：大学院を有する大学においては、大学院の目的（研究科又は専攻の目的を含む。）が、明確に定められ、その目的が、学校教育法第99条に規定された、大学院一般に求められる目的から外れるものではないか。

### 農学研究科 1-1-②

（観点に係る状況）

本研究科及び各専攻の教育目的は、表1のように佐賀大学大学院農学研究科規則第1条の2及び第2条の2にそれぞれ記載しており、その内容は学校教育法第99条第1項「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする」に規定された、大学院一般に求められる目的から外れるものではない。

表1 佐賀大学大学院農学研究科規則（研究科及び専攻の目的）

第1条の2	研究科は、科学技術の高度化・情報化・国際化に伴う社会の要求に応えるため、学部教育の幅広い基礎学力を基礎とし、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者及び高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人を養成することを目的とする。
第2条の2	(1) 生物生産学専攻 生産科学及び環境情報工学の領域において、高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人を養成すること。 (2) 応用生物科学専攻 応用生物学及び生物化学の領域において、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等を養成すること。

（出典：平成21年度学生便覧 p342）

（分析結果とその根拠理由）

本研究科及び専攻の目的は、佐賀大学大学院農学研究科規則第1条の2及び第2条の2に記載しており、その内容は学校教育法第99条に規定された大学院一般の目的から外れるものではない。

観点1-2-①：目的が、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているとともに、社会に広く公表されているか。

#### 農学研究科 1-2-①

（観点に係る状況）

農学研究科の目的は、学生便覧（資料1-2-1-1）及び大学院履修案内（資料1-2-1-2）に記載されており、冊子体で全教職員に配布し、周知を行っている。

農学研究科の学生に対しては、学生便覧及び大学院履修案内を、入学時の農学部ガイダンスあるいは農学研究科ガイダンスの際にそれぞれの全入学生に配布し、周知を行っている。また、佐賀大学農学部のホームページ（資料1-2-1-3）にも農学研究科の目的や具体的な活動方針を記載し、社会に広く公表している。

教職員及び学生がどの程度農学研究科の目的等を承知しているかについては、学生アンケート（資料1-2-1-4）及び教職員アンケート（資料1-2-1-5）で把握している。この学生アンケート調査では、農学研究科において本学の目的の周知度の高い群（評価段階4以上）は僅か17%程度、各専攻の教育目的については34%程度であり、昨年より若干改善したものの、周知度は相変わらず低い。一方、教職員については、平成18年度のアンケート結果を取った後、現在までアンケートは取っていない。この結果については、昨年度の報告書で評価しているので省く。

（分析結果とその根拠理由）

農学研究科の目的は、種々の大学案内、大学概要などの刊行物を教職員・学生に配布することで周知を図り、特に学生には入学時のガイダンスなどで周知の徹底を図っている。また、佐賀大学農学部のホームページに記載することで、社会に広く公表している。しかし、アンケート結果によると学生の周知度は、若干ながら年々改善される傾向にあるが、高いとは言えず、今後周知度を高くする取り組みを行う必要がある。

資料1-2-1-1 平成21年度学生便覧 p342

資料1-2-1-2 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p8～12

資料1-2-1-3 佐賀大学農学部ホームページ（農学研究科の紹介、入試情報）

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/gaiyou02.html>

資料1-2-1-4 平成21年度学生対象アンケート報告書 p38～39

資料1-2-1-5 平成18年度教職員対象アンケート報告書 p5

## 2 教育研究組織（実施体制）

観点2-1-③： 研究科及びその専攻の構成（研究科，専攻以外の基本的組織を設置している場合には，その構成）が，大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

### 農学研究科 2-1-③

農学研究科は，生物生産学専攻，応用生物科学専攻の2専攻から組織されている。それぞれが，本研究科の教育・研究目的・目標に基づいた9講座・39教育研究分野から構成され（表2），教員も学生定員に合わせて各専攻にバランスよく配置されていることから，大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切な教育研究組織になっている。

表2 農学研究科の教育研究組織（平成21年4月1日現在）

専攻	講座	教育研究分野	教員数	学生定員
生物生産学専攻	資源社会管理学	地域資源学，環境社会学，農業経済学，★海浜台地政策学	5	20
	生産生物学	作物生態生理学，熱帯作物改良学，施設農業生産学，動物生産学，資源循環フィールド科学，★海浜台地生産生態学	11	
	生産情報科学	生産システム情報学，利水情報工学，生産基盤情報工学	4	
	生産環境工学	地圏環境学，浅海干潟環境学，農業生産機械学，★海浜台地生産機能学	4	
応用生物科学専攻	生物工学	遺伝子工学，細胞工学，種苗生産学，遺伝資源学，育種学	5	30
	生物調節学	土壌環境学，植物病制御学，植物ウイルス病制御学	5	
	動物資源学	線虫学，害虫制御学，システム生態学，動物行動生態学	4	
	生物機能化学	生化学，機能高分子化学，応用微生物学，☆分子細胞生物学	6	
	生物資源利用化学	生物資源化学，生物資源利用学，食糧化学，食糧安全学，食品栄養化学，★マリンバイオ	7	

★印は海浜台地生物環境研究センターの教員，☆は総合分析実験センターの教員の担当分野

（出典：平成21年度大学院履修案内 p1）

（分析結果とその根拠理由）

農学研究科の専攻・講座の構成は，2専攻・9講座・39教育研究分野からなり，教員も学生定員に合わせて各専攻にバランスよく配置されていることから，大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点2-1-⑤： 大学の教育研究に必要な附属施設，センター等が，教育研究の目的を達成する上で適切に機能しているか。

#### 農学研究科 2-1-⑤

(観点に係る状況)

本学には，全学的な附属施設，センター等（例：附属図書館，保健管理センター，総合分析実験センター，総合情報基盤センター，留学生センター，低平地研究センター，海浜台地生物環境研究センター，高等教育開発センター他）が設置されている。これらのセンターは，全学部の研究科に関わる教育研究を支えている。農学研究科は，全学的な附属施設，センター等と連携を保ちながら，研究科の教育に活用している。

特に，農学研究科における教育研究に関連が深い総合分析実験センター及び海浜台地生物環境研究センターの教員が，それぞれの専門を活かした授業科目を担当するとともに，修士課程学生の研究指導も行っている。

農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター（教員4人）は，主に農学部・研究科の学生を対象としたフィールド科学としての農学教育の実践と研究を担っているが，他学部の学生に対しても農業に関する基本的かつ実践的な教育を行っている。また，資源循環フィールド科学教育研究センターの教員は，特別研究も担当し，修士の研究指導を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

各種全学的な附属施設，センター等及び農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターと緊密に連携しながら，農学研究科における教育と研究が実践されている。

観点2-2-①： 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っているか。

### 農学研究科 2-2-①

農学研究科では、研究科長（学部長兼任）及び研究科を担当できる資格を持つ教授、准教授、講師及び助教より構成（表3）される研究科委員会を設置している。この委員会では、農学研究科委員会規程（資料2-2-1-1）に基づき、研究科における教員人事及び教育課程の編成、学生の入学、修了、学位授与など修士課程の教育活動に係る重要事項を毎月1回定期的に、必要に応じて臨時に開催し、審議している（資料2-2-1-2）。

表3 農学研究科委員会の構成（平成21年5月1日）

研究科長(兼任)	教授	准教授	講師	助教
1	24*	25	1	1

\*研究科長を含む

（分析結果とその根拠理由）

研究科委員会は、教育活動に係る重要事項を審議するため、毎月1回定期的に、また必要に応じて臨時に行っている。

資料2-2-1-1 農学研究科委員会規程（農学部ホームページ）

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/kyoshokuin/kitei.html>

資料2-2-1-2 平成21年度農学研究科委員会議事録（農学部総務係）

観点 2-2-②： 教育課程や教育方法等を検討する教務委員会等の組織が、適切な構成となっているか。また、必要な回数の会議を開催し、実質的な検討が行われているか。

#### 農学研究科 2-2-②

農学部では農学部教育委員会（資料 2-2-2-1）の中に大学院教育小委員会を設置し、農学研究科の教育課程の編成や教育方法等の改善に係る重要事項を審議している。その委員会は、各専攻（4 つの系）から選出された教員 4 人からなり、バランスのよい適切な構成となっている。

大学院教育小委員会は、毎月 1 回定期的に、必要に応じて臨時に開催され、大学院教育課程の編成や教育方法等に関する実質的な検討を行っている（表 4）。

また、本委員会の審議・決定事項等は研究科委員会で逐次報告され、公正に審議・決定されている（資料 2-2-2-2）。

表 4 平成 21 年度における大学院教育小委員会の検討事例

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1) 2 年間という規定年数で修了させる為の方策—指導教員による観察が重要である点、また、必修科目の取りこぼし防止策が重要である点を確認した。</li><li>2) 中途退学者を出さない為の対策—指導教員の他にチューターとしての教員を設定してはどうか、という意見が出されたが、引き続き審議することを確認した。</li><li>3) 本来の研究科主コースの院生も副コースの科目を履修できる体制（時間割、規定等）の審議</li><li>4) 韓国の私立大学との dual degree の可能性について審議し、佐賀大学大学院としては、先方からの申し出を受けることの確認をした。</li><li>5) 新研究科の教育理念について審議を行った。</li><li>6) 新研究科の教育目標について審議を行った。</li><li>7) 新研究科の履修案内の内容の整理について審議を行った。</li><li>8) 新研究科と特別コースの講義科目を整理し、整合を図った。</li><li>9) 新研究科の規則について審議し、新しい体制に適合させた。</li><li>10) 新研究科の履修細則について審議し、新しい体制に適合させた。</li></ol> |
|--|

（出典：平成 21 年度大学院教育小委員会議事録，抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程や教育方法等を検討する大学院教育小委員会の組織は、各専攻から選出された教員からなり、適切な構成となっている。また、本委員会は毎月 1 回定期的に、必要に応じて臨時に開催され、実質的な検討が行われている。

資料 2-2-2-1 農学部教育委員会規程（農学部ホームページ）

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/kyoshokuin/kitei.html>

資料 2-2-2-2 平成 21 年度農学研究科委員会議事録（農学部総務係）

### 3 教員及び教育支援者

観点3-1-①： 教員組織編制のための基本方針を有しており，それに基づいて教員の適切な役割分担の下で，組織的な連携体制が確保され，教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされているか。

#### 農学研究科 3-1-①

(観点に係る状況)

農学研究科では，教育と研究は一体であるという基本方針の下に，修士課程の教育研究の目的・目標を達成するため，2専攻9講座(表2)で構成されている。講座単位あるいは専攻や研究科単位で発議された教育研究上の重要な課題，教育研究分野の改廃及び人事などは，まず各該当する専攻委員会で審議され，基本計画委員会(資料3-1-1-1)あるいは人事委員会(資料3-1-1-2)を経由して，最終的に研究科委員会(資料3-1-1-3)で審議・決定されており，問題がある場合は各専攻に戻して再検討するなど，組織的に公平かつ責任ある連携体制を確保している。

(分析結果とその根拠理由)

本研究科は，教育と研究は一体であるという基本方針に基づき2専攻9講座で構成され，講座，専攻，関連委員会及び研究科委員会の間で組織的な連携体制が確保されると同時に，教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編成となっている。

資料3-1-1-1 農学部基本計画委員会規程(農学部ホームページ)

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/kyoshokuin/kitei.html>

資料3-1-1-2 農学部人事委員会内規(同上)

資料3-1-1-3 農学研究科委員会規程(同上)



観点3-1-③： 大学院課程（専門職学位課程を除く。）において、必要な研究指導教員及び研究指導補助教員が確保されているか。

### 農学研究科 3-1-③

（観点に係る状況）

本研究科では佐賀地域に立脚しながら、地球的規模で農学を考えることのできる幅広い視野、高度な専門的知識、理解力・実践力等を備えた国際性豊かな人材の育成を目的としており、この目的のために、表5に示すように50人を超える専任教員が各専攻・講座に配置され、研究指導教員及び研究指導補助教員として研究指導に携わっている。また、これらの専任教員は、それぞれの研究分野に関する講義及び特別研究も担当している（資料3-1-3-1）。非常勤講師については、削減の方針に沿って年々減少し、平成20年度の実績は2人であったが、平成21年度は9人に増加している。この理由は、日本・中国・韓国・台湾の教員や大学院生が参加する環黄海合同大学院特別講義（生命資源科学特別講義：2単位）を初めて佐賀大学で行ったことによるもので、来年度は外国の大学などで行う予定になっている。

表5 農学研究科大学院担当教員数（平成21年5月1日現在）

専攻	講座数	教育研究分野数	大学院担当教員数					合計
			教授	准教授	講師	助教	非常勤講師	
生物生産学専攻	4	17	10	14	0	0	3	27
応用生物科学専攻	5	22	14	11	1	1	6	33

（分析結果とその根拠理由）

本研究科の教育研究目的・目標に沿って、教育・研究が可能な50人を超える教員が研究指導教員及び研究指導補助教員として確保されている。さらに、今年度は外国の教員を招聘して新たな特別講義を設けるなど、教育研究スタッフは特に充実した年となっている。

資料3-1-3-1 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p15～18

観点3-1-⑤：大学の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられているか。

### 農学研究科 3-1-⑤

(観点に係る状況)

農学研究科では、教育研究の活性化及び教育研究水準の維持向上を図るために、佐賀大学教員選考基準（資料3-1-5-1）及び佐賀大学農学部教員選考規程（資料3-1-5-2）に基づき、広く国内外に対して公募要領（資料3-1-5-3）を公表し、完全公募制により優秀な教員の確保に努めている。なお、採用にあたっては、教員の年齢構成にも配慮しており、現時点での研究科の専任教員の年齢構成（表6）は、50代がやや多いものの、概ねバランスのよい構成となっている。

さらに、サバティカル制度（資料3-1-5-4）を導入することにより、教員の研究の活性化を図っている。また、学会賞を受賞するなど勤務実績が優秀な教員には特別昇給制度を利用して、学部長推薦により昇給させている（資料3-1-5-5）。

表6 農学研究科教員の年齢構成（平成21年5月1日現在）

職	年 齢				
	30歳以下	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上
教授	0	0	1	16	7
准教授	0	5	15	5	0
講師	0	1	0	0	0
助教	0	0	1	0	0
合計	0	6	17	21	7

(分析結果とその根拠理由)

農学研究科では、外国人教員への配慮などがなされた教員選考規程を整備し、この規程に基づいて完全公募制により優秀な教員の確保を行い、年齢構成を配慮して採用するなど、教員組織の活性化を図っている。また、特別昇給など、教員の活動をより活性化するための適切な措置が講じられている。

- 資料3-1-5-1 佐賀大学教員選考基準（佐賀大学規則集）  
<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku.htm>
- 資料3-1-5-2 佐賀大学農学部教員選考規程（農学部規則集）  
<http://www.ag.saga-u.ac.jp/kyoshokuin/kitei.html>
- 資料3-1-5-3 農学部教員候補者の推薦依頼に関する申合せ（同上）
- 資料3-1-5-4 佐賀大学サバティカル研修実施要項（佐賀大学規則集）  
<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku.htm>
- 資料3-1-5-5 教育職（一）の適用を受ける職員の特別昇給について（学長依頼文）

観点3-2-①： 教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。特に、学士課程においては、教育上の指導能力の評価、また大学院課程においては、教育研究上の指導能力の評価が行われているか。

### 農学研究科 3-2-①

(観点に係る状況)

農学部では、国立大学法人佐賀大学教員選考基準(資料3-2-1-1)及び佐賀大学農学部教員選考規程(資料3-2-1-2)に基づいた教員の採用・昇任を行っている。すなわち、学外あるいは学内の応募者について、履歴書、研究業績目録、研究業績説明書等の提出を義務付け(資料3-2-1-3)、教授会で選出された5人の教員選考委員(5人の教授)により、学士課程における教育上の指導能力の評価を行った上で、教授会の議に基づき、教員候補者を決定している。

修士課程の教育研究担当者は、より高度な研究水準を維持するため、博士の学位を有することは勿論、主指導・副指導教員の資格として指定したレフェリー付きの論文数等をクリアーすることを条件とするなど(表7)(資料3-2-1-4)、大学院課程における教育研究上の指導能力の厳格な評価を行い、研究科委員会の議に基づき採用者あるいは大学院科目の担当者を決定している。

なお、本学の博士課程の担当者は鹿児島大学大学院連合農学研究科の資格審査委員会において、別途主指導あるいは副指導教員の資格審査を受けることになっているが、この資格基準(資料3-2-1-5)も本学の修士課程の主指導あるいは副指導教員資格と全く同じく厳格な水準にある。

表7 農学研究科教員資格判定基準

主指導教員	修士課程の研究指導及び講義を担当し、学位論文審査の主査となることができる。 論文1(レフェリー付き論文)が20編以上「ただし、第1著者(Corresponding Authorを含む。)である論文が10編以上あること」で、最近5年間の業績が5編以上あること。
副指導教員	修士課程の研究指導及び講義を担当する。 論文1(レフェリー付き論文)が12編以上「ただし、第1著者(Corresponding Authorを含む。)である論文が6編以上あること」で、最近5年間の業績が5編以上あること。

(出典：佐賀大学大学院農学研究科教員資格審査判定基準の申合せ)

(分析結果とその根拠理由)

本学教員の選考は、国立大学法人佐賀大学教員選考基準に基づいた佐賀大学農学部教員選考規程に則って、教授会の議に基づき、教員候補者を決定している。さらに、修士課程の担当者はより高度な研究水準を維持するため、博士の学位を有することは勿論、指定したレフェリー付きの論文数をクリアーすることを条件とするなど、教育研究上の指導能力についてより厳格な評価を行っている。

資料3-2-1-1 国立大学法人佐賀大学教員選考基準(前出)

資料3-2-1-2 佐賀大学農学部教員選考規程(前出)

資料3-2-1-3 農学部教員候補者の推薦依頼に関する申合せ(前出)

資料 3-2-1-4 佐賀大学大学院農学研究科教員選考基準（農学部規則集）

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/kyoshokuin/kitei.html>

資料 3-2-1-5 鹿児島大学大学院連合農学研究科ホームページ（教員資格審査）

[http://homeugs.agri.kagoshima-u.ac.jp/2teacher\\_new.html](http://homeugs.agri.kagoshima-u.ac.jp/2teacher_new.html)

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

### 農学研究科 3-2-②

(観点に係る状況)

本学部では、平成5年4月に農学部自己点検・評価委員会を発足させ、平成6年からほぼ4年ごとに自己点検・評価を行ってきた。同委員会は平成14年4月から農学部評価委員会(資料3-2-2-1)と名称を変え、学部担当及び研究科担当教員の教育・研究業績、社会貢献、国際貢献、学内運営等について評価活動を行ってきた(資料3-2-2-2)。また、平成16年度から新たに農学部個人評価に関する実施基準(資料3-2-2-3)を策定し、当年度から研究教育活動等に関する個人評価報告書に基づき、個人による自己評価結果及び次年度の目標などの提出を義務付けている(資料3-2-2-4)。

また、佐賀大学には教育功績者を表彰する制度(資料3-2-2-5)があり、このような個人評価等に基づいて、学内外で優れた教育活動を行った教員数人を毎年、佐賀大学学長が表彰している。

(分析結果とその根拠理由)

農学部には評価委員会が設置され、評価方法等を検討すると同時に、この評価方法に基づき研究科担当教員の教育活動について定期的に評価を行っている。この結果、教育に大きく貢献した者について表彰するなど、教員の教育活動に関する評価を定期的実施するための体制が構築されており、把握された事項に対して適切な取組がなされている。

資料3-2-2-1 農学部評価委員会規程(農学部規則集)

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/kyoshokuin/kitei.html>

資料3-2-2-2 佐賀大学農学部教育研究業績総覧(2002年度、2006年度版：農学部総務係)

資料3-2-2-3 佐賀大学農学部教員の個人評価に関する実施基準(農学部規則集)

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/kyoshokuin/kitei.html>

資料3-2-2-4 平成16、17、18、19、20年度農学部教員個人評価報告書(農学部総務係)

資料3-2-2-5 佐賀大学教育功績等表彰規程(佐賀大学ホームページ)

<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/kisoku.htm>

観点3-3-①: 教育の目的を達成するための基礎として、教育内容等と関連する研究活動が行われているか。

農学研究科 3-3-①

(観点に係る状況)

研究科教員は、所属する各教育研究分野において、各々の専門科目に関連する活発な研究活動を行っており、その研究活動の成果を自身が担当する大学院の授業内容に反映させている。

表8は、研究科教員が大学院で授業するとき授業内容に反映させている研究のタイトルや研究内容の載っている論文あるいは発表資料の一例であり、ほぼ全ての教員が担当する授業科目に自分の研究内容を取り入れている。

表8 研究活動を授業科目に生かした例 (平成21年度)

専攻等	教員名	研究活動及び研究業績等	授業科目
生物生産 学専攻	上野大介	(研究活動) 人工化学物質の環境挙動に関する研究 (論文, 著書等) Ueno, D., Isobe, T., Ramu, K., Tanabe, S., Alae, M., Marvin, C., Inoue, K., Someya, T., Miyajima, T., Kodama, H., Nakata, H. (2010) Spatial distribution of hexabromocyclododecanes (HBCDs), polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) and organochlorines in bivalves from Japanese coastal waters. <i>Chemosphere</i> , 78, 1213-1219	環境分析化学特論
	鈴木章弘	(研究活動) マメ科植物と根粒菌による共生窒素固定に関する研究 (論文, 著書等) Enhanced nodulation and nitrogen fixation in the ABA low-sensitive mutant <i>enfl</i> (enhanced nitrogen fixation 1) of <i>Lotus japonicus</i> . A. Tominaga, M. Nagata, K. Futsuki, H. Abe, T. Uchiumi, M. Abe, K. Kucho, M. Hashiguchi, R. Akashi, A. Hirsch, S. Arima and A. Suzuki, <i>Plant Physiology</i> , 151, 2009, 1965-1976	応用植物生態学特論
	駒井史訓	(研究活動) 植物の新品種開発 (論文, 著書等) F. Komai, N. Shikazono and A. Tanaka, Sexual modification of female spinach seeds ( <i>Spinacia oleracea</i> L.) by irradiation with ion particles, <i>Plant Cell Reports</i> (2003) 21: 713-717	応用遺伝資源学特論
	原口智和	(研究活動) 沙漠緑化における水消費環境に関する研究 (論文, 著書等) 中国科爾沁沙地における植林地の土壤水分環境の定量化, <i>沙漠研究</i> , 19-3, 475-482, 2009	利水情報工学特論
応用生物 科学専攻	松本亮司	(研究活動) カンキツおよび近縁属の分子分類に関する研究 (論文, 著書等) (1) M. Yamamoto, A. A. Abkenar, R. Matsumoto, T. Kubo, S. Tominaga: CMA Staining Analysis of Chromosomes in several species belong to Aurantioideae. <i>Genet. Resour. Crop Evol.</i> 55: 1167-1173. 2008 (2) M. Yamamoto, A.A. Abkenar, R. Matsumoto, T. Kubo, S. Tominaga: Physical Mapping of the 5S Ribosomal RNA Gene in Citreae of Aurantioideae Species using Fluorescence in situ Hybridization. <i>J. Japan. Soc. Hort. Sci.</i> 78(3): 294-299. 2009	遺伝資源学特論
	早川洋一	(研究活動) 昆虫のストレス応答性に関する研究 (論文, 著書等) Nakatogawa, S., Oda, Y., Kamiya, M., Kamijima, T., Aizawa, T., Clark, K.D., Kawano, K., Strand, R.M. and Hayakawa, Y. (2009) A novel peptide mediates aggregation and migration of hemocytes from an insect. <i>Curr. Biol.</i> 19, 779-785	害虫制御学特論
	上田敏久	(研究活動) ペプチド・糖などの機能や構造に関する研究 (論文, 著書等) 1. Facile Discrimination of Aldose Enantiomers by Reversed-Phase HPLC. Tanaka, T. Nakashima, T. Ueda, K. Tomii,	分子生物学特論

		and I. Kouno Chem. Pharm. Bull., 55(6), 899-901(2007) 2. EFFECTS ON MOUSE LAMIN A ASSEMBLY IN VITRO OF STEPWISE DELETION OF THE HEAD DOMAIN FROM THE N-TERMINUS K. Isobe, R. Gohara, T. Ueda, Y. Takasaki, and S. Ando Res. Commun. Biochem. Cell Mol. Biol., 12(1-2), 137-156(2008)	
	永尾晃治	(研究活動) 食品成分による疾病発症の予防と改善に関する研究 (論文, 著書等) Nagao K. & T. Yanagita: Bioactive lipids in metabolic syndrome. Progress in Lipid Research, 47, 127-146, 2008	栄養生理学 特論

(分析結果とその根拠理由)

ほとんどの大学院授業科目において、研究科教員の研究活動が盛り込まれており、授業の内容が教育の目的を達成するための基礎となる研究活動の成果を反映したものになっている。

観点3-4-①： 大学において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。また、TA等の教育補助者の活用が図られているか。

### 農学研究科 3-4-①

(観点に係る状況)

農学部総務係(5人の事務職員で構成)、学務部教務課大学院係(3人の事務職員で構成)及び資源循環フィールド科学教育研究センター(3人の事務職員で構成)が修士課程をそれぞれ支援している(資料3-4-1-1)。また、学部4人、附属資源循環フィールド科学教育研究センターに5人配置された技術職員は、大学院課程の実験・実習及び演習等の授業等に教育支援者として従事している(資料3-4-1-1)。さらに、多数の大学院修士課程の学生がTAとして学部配置され、実験、実習、演習等の教育補助業務(表9)を行うと同時に、教員と学部学生のパイプ役としても重要な役割を果たしている。

表9 平成20, 21年度TAの活用状況

年度	項目	実験補助項目					合計
		実験	実習	演習	講義	卒業研究	
20	TA延べ人数	41	22	34	44	41	182
	科目数	20	6	12	13	11	62
21	TA延べ人数	104	4	56	35	48	247
	科目数	34	2	18	11	15	80

(分析結果とその根拠理由)

11人の事務職員と9人の技術職員が研究科教育課程における実験、実習、演習等の教育支援を行っている。また、多数の大学院修士の学生をTAとして学部配置し、教育補助を行っていることから、研究科の教育課程を展開するのに必要な事務職員、技術職員等が教育支援者として、TAは教育補助者として適切に配置され、十分な活用が図られている。

資料3-4-1-1 佐賀大学ホームページ(平成21年度佐賀大学職員名簿)

<http://www.saga-u.ac.jp/jinji/gakunai/meibo/index.htm>



#### 4 学生の受入

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか。

##### 農学研究科 4-1-①

（観点に係る状況）

農学研究科の教育目的は、本学及び農学研究科の理念と教育研究の基本方針に従って、佐賀地域に立脚しながら、科学技術の高度化・情報化・国際化に伴う社会の要求に応えるため、高度な科学技術・専門知識を持った創造性豊かな人間味あふれる研究者・専門職業人を養成することである（資料4-1-1-1）。この教育目的に沿って、アドミッション・ポリシーを定め、募集要項（資料4-1-1-2）に示す学生の受け入れを方針としている。また、本研究科は、2専攻で構成されており、各専攻のアドミッション・ポリシーも明確に定めている（資料4-1-1-2）。

このアドミッション・ポリシーは、大学院募集要項を学内外に配付することで周知する他に佐賀大学農学部ホームページ（資料4-1-1-3）にも掲載しており、学内外に広く公表・周知されている。

（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーは明確に定められ、これらの内容については佐賀大学大学院学生募集要項及び佐賀大学農学部ホームページに掲載され、学内外に広く公表、周知されている。

資料 4-1-1-1 平成 21 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p8～12

資料 4-1-1-2 平成 21 年度佐賀大学大学院学生募集要項 p9～10

資料 4-1-1-3 佐賀大学農学部ホームページ（入試情報）

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/policy.html>

観点4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。

#### 農学研究科 4-2-①

（観点に係る状況）

本研究科では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿い、表10に示す選抜方法を採用している。一般選抜においては、筆記試験（英語及び専門科目）、面接及び提出書類（成績証明書、志望理由書等）により、また社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜においては、口述試験面接及び提出書類（成績証明書、志望理由書、研究業績書、研究計画書等）により、学力、思考能力、独創性、人間性及び勉学意欲などを総合評価し、選抜している（資料4-2-1-1）。この方針に沿って、修学に必要な学力、能力及び専門分野の内容などについて口述試験及び面接を行い、求める学生像にふさわしい人物を選抜している。

表10 農学研究科の入学者選抜の基本方針（入学、選抜、選抜基準等）

アドミッション・ポリシーの方針に沿って、「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するために、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜等の多様な入学者選抜を実施する。

1 一般選抜

筆記試験（英語及び専門科目）、面接及び提出書類（成績証明書、志望理由書等）により、学力、思考力、独創性及び勉学意欲等を総合評価します。

2 社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜

口述試験面接及び提出書類（成績証明書、志望理由書、研究業績書、研究計画書等）により、学力、思考力、独創性及び勉学意欲等を総合評価します。

（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーに沿って、適切な学生の選抜方法を採用し、実質的に機能している。

資料4-2-1-1 平成21年度佐賀大学大学院学生募集要項 p9～10, p57～68

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）において、留学生、社会人、編入学生の受入等に関する基本方針を示している場合には、これに応じた適切な対応が講じられているか。

#### 農学研究科 4-2-②

（観点に係る状況）

本研究科では、生涯教育の高まりや国際化の中、求める学生像にふさわしい学生を選抜するために、一般選抜の他に社会人特別選抜と外国人留学生特別選抜等を実施している（表 10）。すなわち、本研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）（資料 4-2-2-1）に沿い、口述試験、面接及び提出書類（成績証明書、志望理由書、研究業績書、研究計画書等）により、求める学生像にふさわしい外国人留学生と社会人を選抜している。

さらに、工学系と農学の両方の立場の知識と思考力を持ち、帰国後、地球環境について世界的な視野で総合的に洞察できる留学生を育成するため、「地球環境科学特別コース（前身は、国際環境科学特別コース）」を工学系研究科と共同で設置している。なお、このコースの選抜は、受験者が外国にいる場合が多く、面接が困難なため、書類審査（履歴書、成績証明書、志望理由書、研究業績書、研究計画書等）の他にアドミッション・ポリシーに沿い、受験生の専門分野の基礎学力を試すため、Eメールを利用したネットインタビューを行っている。このことは募集要項（資料 4-2-2-2）に掲載し、受験生に周知している。

（分析結果とその根拠理由）

本研究科では、多様で広範な人物を受け入れるため、社会人特別選抜と外国人留学生特別選抜を実施し、研究科のアドミッション・ポリシーに沿った適切な選抜方法が講じられている。

資料 4-2-2-1 平成 21 年度佐賀大学大学院農学研究科募集要項 p9～10

資料 4-2-2-2 平成 21 年度佐賀大学大学院地球環境科学特別コース学生募集要項 p6

観点4-2-③： 実際の入学者選抜が適切な実施体制により，公正に実施されているか。

#### 農学研究科 4-2-③

(観点に係る状況)

農学研究科長を総括責任者として，農学部入試委員会の中にある大学院入学試験小委員会が入学者選抜の実施に関する基本的事項及び実施に関する重要事項を審議・決定し，この実施方法により選定された合格候補者について，各専攻と研究科委員会の議を経て合否判定が行われている（資料4-2-3-1）。

入学試験問題の作成は，入試委員会のもとに置かれた各専門委員会が担当し，十分な教育研究経験を有する教員により非公開で作成され，面接，口頭試問においては試験委員を数人で構成することにより，公正な合否判定が行えるよう配慮している（資料4-2-3-2）。

(分析結果とその根拠理由)

入学者選抜に関わる実施体制は，農学部入試委員会の中にある大学院入学試験小委員会を中心に構築されており，組織間の連携も図られ，入学者選抜が適切な実施体制により，公正に実施されている。

資料4-2-3-1 平成21年度大学院農学研究科入学試験実施要領（佐賀大学アドミッションセンター）

資料4-2-3-2 平成21年度大学院入学試験関係委員割振表（佐賀大学アドミッションセンター）

観点4-2-④： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

#### 農学研究科 4-2-④

（観点に係る状況）

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生が入学しているかどうかの検証は、大学院一般選抜及び社会人・外国人留学生特別選抜小委員会、入学試験問題作成委員会ならびに各専攻・学系において継続的に取り組んでおり、学生の成績や授業評価を参考にして、出願資格及び試験の内容（資料4-2-4-1）や合否判定基準（資料4-2-4-2）について、改善策を継続的に講じてきている。

（分析結果とその根拠理由）

各専攻・学系及び入学試験関係委員会において、本研究科のアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が行われているかどうか、継続的に検証されており、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

資料4-2-4-1 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科募集要項 p63～75

資料4-2-4-2 佐賀大学大学院農学研究科の入学試験合否判定基準（佐賀大学アドミッションセンター）

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

#### 農学研究科 4-3-①

(観点に係る状況)

平成17年度から21年度の専攻別の入学者数は、表11のとおりである。本研究科の実入学者数の入学定員に対する割合は、この5年間の平均で0.93となっており、定員の9割を越え、適切な入学者数となっている。

また、農学研究科では修士課程とは別に工学系研究科と連携して、留学生向けに地球環境科学特別コースを設けている。この定員については工学系研究科と農学研究科の総数で示され、年度毎に両研究科の入学者数が異なるので、農学研究科の実入学者数が適正かどうかは、判定できない。

表11 農学研究科（修士課程）の入学者数（平成21年5月1日現在）

専攻	入学定員	入学者数				
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
生物生産学専攻	20	28 (2)	15 (1)	18 (6)	25 (2)	20 (5)
応用生物科学専攻	30	32 (1)	22 (1)	25 (1)	25 (1)	23 (0)
合計	50	60 (3)	37 (2)	43 (7)	50 (3)	43 (5)

(注) ( ) は留学生で内数

(出典：平成21年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要 p21)

表12 地球環境科学特別コースの入学者数（平成21年10月1日現在）

専攻	入学定員	入学者数				
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
生物生産学専攻	5*	2	3	3	1	2
応用生物科学専攻		3	2	1	1	1
合計	5*	5	5	4	2	3

\* 工学系研究科（博士前期課程）+ 農学研究科（修士課程）= 5人（国費2，私費3）

(分析結果とその根拠理由)

この5年間の農学研究科の入学状況は（地球環境科学特別コースを除く。）、実入学者数が入学定員を大幅に超過することなく、また大幅に下回ってもおらず、入学定員と実入学者との関係は適正である。

## 5 教育内容及び方法

観点5-4-①： 教育の目的や授与される学位に照らして、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

### 農学研究科 5-4-①

(観点に係る状況)

平成17年度までの授業科目は、全て選択であったが、平成18年度に農学研究科の修了要件(表13)に示すように大学院の全学生が修得すべきコア科目(必修4単位)と各系が修得すべき基礎教育科目(必修2単位)を新たに設け、現在(平成21年度)に至っている(資料5-4-1-1, p16~20)。すなわち、大学院の教育目的に沿って、研究科必修科目(作物生態生理学特論及び応用生物科学概論:4単位)、専攻必修科目(農業経済政策特論(生物生産学専攻)又は応用生物科学総合講義(応用生物科学専攻):各2単位)、講座必修の「専門教育科目」及び講座の「演習科目」を定めたカリキュラム体系となっている。また、各系の教育目的に沿った履修モデル(観点5-5-1, 表14参照)を提示し、学生に分かりやすいカリキュラム体系としている。

これらの履修モデルに沿って各講座がそれぞれの最新の学問分野に関する授業科目を「特論」として広く配置し、「特別研究」もバランスよく配置され、それぞれの研究テーマを通じて創造性に富んだ高度な科学技術・専門知識を持った研究者・専門職業人を養成する内容となっている(資料5-4-1-1, p8~12)。

表13 農学研究科の修了要件

平成17年度以前		平成18年度以降	
所属専攻各講座の科目	22単位以上	コア科目(必修)	4単位
		基礎教育科目(必修)	2単位
		専門教育科目	14単位以上
		特別演習(必修)	2単位
特別研究	8単位	特別研究(必修)	8単位
修了要件	30単位以上	修了要件	30単位以上

(出典:平成20年度大学院履修案内)

(分析結果とその根拠理由)

農学研究科においては、最新の学問分野に関する授業科目である「特論」と、研究者・専門職業人への人材養成を目指す「演習」や「特別研究」をバランスよく配置し、さらに各学系の教育目的に沿った履修モデルを学生に提示していることから、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっている。

資料5-4-1-1 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

観点5-4-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

#### 農学研究科 5-4-②

(観点に係る状況)

本研究科の教員は、学会などに毎年複数回参加し、最新の研究動向を入手し、担当授業科目の中で自分の研究(表8)と共に自ら属する専門分野の今後の発展動向などを紹介している。また、多様なニーズを持つ学生を教育する一環として、修了要件である30単位中10単位を指導教員と相談の上、他専攻や他研究科が開講する科目を履修することができる制度(資料5-4-2-1, p13)を設けている。

また、社会的な要求から夜間開講の体制を整備し、社会人の受入れを可能にしている(資料5-4-2-1, p20~21)。さらに、本修士課程修了者は鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程に進学可能であり(資料5-4-2-1, p40)、佐賀大学大学院農学研究科の修了生に限り、入学検定料を免除している。また、進学者にはスムーズに博士課程に入れるよう教育研究の指導をしている。さらに、留学制度(資料5-4-2-2)については、大学間学術交流協定を締結している諸外国の大学間で実施している。

(分析結果とその根拠理由)

自分の研究成果や専門分野の研究動向を授業科目に密接に反映させ、かつ他専攻や他研究科開講科目の履修制度、留学制度、博士課程進学優遇制度、夜間開講制度などを設けることによって、研究成果の反映、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮している。

資料5-4-2-1 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

資料5-4-2-2 平成21年度佐賀大学学生便覧 p85~87



観点5-4-③： 単位の実質化への配慮がなされているか。

### 農学研究科 5-4-③

(観点に係る状況)

農学研究科では、カリキュラム編成(資料 5-4-3-1)において無理のない十分配慮された授業時間配置をとっている。大学院生には、入学時に大学院教育小委員会委員による履修に際してのオリエンテーションを受けさせるとともに、指導教員の指導のもとに研究テーマを設定し、その研究内容に適した履修計画を策定させている(資料 5-4-3-2, p12)。

また、学生の授業科目選択の参考として大学院履修案内に講義概要(資料 5-4-3-2, p22~34)を、オンラインシラバス(資料 5-4-3-3)に授業計画、成績評価基準を記載している。

平成 20 年度からは、学生の学業成績にGPAを採用し(資料 5-4-3-4)、試験の解答例等を学生へ提示すること、答案・レポート等の閲覧ができることなどもオンラインシラバスで周知している(資料 5-4-3-3)。

(分析結果とその根拠理由)

カリキュラム編成において十分配慮された授業時間配置をとっており、大学院小委員会委員や指導教員がきめ細かい履修指導をしている。また、試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始し、平成 20 年度からは、学生の学業成績にGPAを採用したことなどから、単位の実質化への配慮が適切になされている。

資料 5-4-3-1	平成 21 年度大学院農学研究科授業時間割表 (佐賀大学学務部教務課大学院係)
資料 5-4-3-2	平成 21 年度佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内
資料 5-4-3-3	佐賀大学ホームページ (Live Campus) <a href="http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html">http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html</a>
資料 5-4-3-4	平成 21 年度学生便覧 p386~389

観点5-5-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

### 農学研究科 5-5-①

(観点に係る状況)

表14に示すように系あるいは講座毎に履修モデルを設定し、本研究科の基本理念・特色を踏まえ、それぞれの系の特性に応じた教育科目の構成を行い、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスに配慮している。すなわち、各専攻の開講科目中、学生が所属する講座の特別研究(8単位)及び指導教員の指導による授業科目を合わせて30単位以上を履修することとし、各専攻の全ての履修モデルは、1年前期に12~13単位、後期に10~13単位修得できるようにバランスよく開講している(資料5-5-1-1)。また、履修手続きは、Web(資料5-5-1-2)による履修登録としている。

本研究科の講義、演習、実験、実習は基本的にすべて少人数教育であり、演習科目では対話・討論型授業やフィールド型授業を実施し、学習指導に関する工夫をしている。

表14 農学研究科における履修モデル

(生物生産科学専攻)

生産科学系(A群)履修モデル

	専 門 科 目					履修登録 単位数*
	コア科目(必修)	基礎教育科目(必修)	専門教育科目(選択)	特別演習(必修)	特別研究(必修)	
2年後期			施設農業生産学特論(b)		特別研究(A)	4
2年前期				資源社会管理学特別演習(a)	特別研究(A)	4
1年後期	作物生態生理学特論	農業経済政策特論	海浜台地政策学特論(b) 家畜飼養管理学特論(b) 動物生産学特論(b)		特別研究(A)	10
1年前期	応用生物科学概論		地域資源学特論(a) 環境社会学特論(a) 熱帯農業資源学特論(b)		特別研究(A)	12
修了要件単位数	4	2	14	2	8	30

(a)は資源社会管理学科目、(b)は生産生物学科目

環境情報工学系（B群）履修モデル

	専 門 科 目					履修登録 単位数*
	コア科目(必修)	基礎教育科目(必修)	専門教育科目(選択)	特別演習(必修)	特別研究(必修)	
2年後期			農産機械学特論(b)		特別研究(B)	4
2年前期				生産環境工学特別演習(b)	特別研究(B)	4
1年後期	作物生態生理学特論	農業経済政策特論	環境資源学特論(b) 浅海環境工学特論(b)		特別研究(B)	10
1年前期	応用生物科学概論		リモートセンシング工学特論(a) 生産地盤工学特論(b) 土壌物理学特論(b) 農地工学特論(a)		特別研究(B)	12
修了要件単位数	4	2	14	2	8	30

(a)は生産情報科学科目, (b)は生産環境工学科目

(応用生物科学専攻)

応用生物学系（C群）

生物工学講座履修モデル

	専門教育科目			基礎共通科目 (必修)	コア科目 (必修)	履修登録 単位数*
	演習科目(必修)	専門教育科目(選択)	特別研究(必修)			
2年後期	生物工学演習Ⅱ		特別研究			3
2年前期	生物工学演習Ⅱ		特別研究			3
1年後期	生物工学演習Ⅰ	植物化学特論 種苗生産学特論	特別研究	応用生物科学総合講義	作物生態生理学特論	11
1年前期	生物工学演習Ⅰ	植物遺伝子工学特論 細胞工学特論 遺伝資源学特論 植物育種学特論Ⅱ	特別研究		応用生物科学概論	13
修了要件単位数	4	12	8	2	4	30

特別研究を 1/4 の単位数として計算

演習を 1/2 の単位数として計算

生物調節学講座履修モデル

	専門教育科目			基礎共通科目 (必修)	コア科目 (必修)	履修登録 単位数*
	演習科目(必修)	専門教育科目(選択)	特別研究(必修)			
2年後期			特別研究			2
2年前期			特別研究			2
1年後期	生物調節学演習	植物病学特論 害虫制御学特論 システム生態学特論 土壌動物学特論	特別研究	応用生物科学総合講義	作物生態生理学特論	13
1年前期	生物調節学演習	土壌学特論 植物栄養調節学特論 植物感染病学特論 線虫学特論	特別研究		応用生物科学概論	13
修了要件単位数	2	14	8	2	4	30

特別研究を 1/4 の単位数として計算  
演習を 1/2 の単位数として計算

動物資源学講座履修モデル

	専門教育科目			基礎共通科目 (必修)	コア科目 (必修)	履修登録 単位数*
	演習科目(必修)	専門教育科目(選択)	特別研究(必修)			
2年後期			特別研究			2
2年前期			特別研究			2
1年後期	動物資源学演習	害虫制御学特論 システム生態学特論 動物行動生態学特論 土壌動物学特論	特別研究	応用生物科学総合講義	作物生態生理学特論	13
1年前期	動物資源学演習	線虫学特論 土壌学特論 植物栄養調節学特論 植物感染病学特論	特別研究		応用生物科学概論	13
修了要件単位数	2	14	8	2	4	30

特別研究を 1/4 の単位数として計算  
演習を 1/2 の単位数として計算

生物化学系 (D群)

生物機能化学講座履修モデル

	専門教育科目			基礎共通科目 (必修)	コア科目 (必修)	履修登録 単位数*
	演習科目(必修)	専門教育科目(選択)	特別研究(必修)			
2年後期	生物資源利用化学演習		特別研究			3
2年前期	生物資源利用化学演習		特別研究			3
1年後期	生物機能化学演習	分子細胞生物学特論 食糧化学特論	特別研究	応用生物科学総合講義	作物生態生理学特論	11
1年前期	生物機能化学演習	生化学特論 分子生物学特論 微生物遺伝学特論 応用微生物学特論	特別研究		応用生物科学概論	13
修了要件単位数	4	12	8	2	4	30

特別研究を 1/4 の単位数として計算

演習を 1/2 の単位数として計算

生物資源利用化学講座履修モデル

	専門教育科目			基礎共通科目 (必修)	コア科目 (必修)	履修登録 単位数*
	演習科目(必修)	専門教育科目(選択)	特別研究(必修)			
2年後期	生物機能化学演習		特別研究			3
2年前期	生物機能化学演習		特別研究			3
1年後期	生物資源利用化学演習	食品生化学特論 食糧安全学特論	特別研究	応用生物科学総合講義	作物生態生理学特論	11
1年前期	生物資源利用化学演習	食糧化学工学特論 栄養化学特論 生物物理化学特論 応用微生物学特論	特別研究		応用生物科学概論	13
修了要件単位数	4	12	8	2	4	30

特別研究を 1/4 の単位数として計算

演習を 1/2 の単位数として計算

(出典：平成 21 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p16～21)

(分析結果とその根拠理由)

研究科では、各系で履修モデルを示し、それぞれの特性に応じて講義、演習、実験、実習等をバランス良く配置し、少人数教育、対話・討論型授業、フィールド型授業など目的に応じた学習指導の多彩な工夫が凝らされていることから、教育の目的に照らして授業形態の組み合わせ・バランスは適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料 5-5-1-2 佐賀大学ホームページ (Live Campus)

[http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live\\_campus\\_006.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html)

観点5-5-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

### 農学研究科 5-5-②

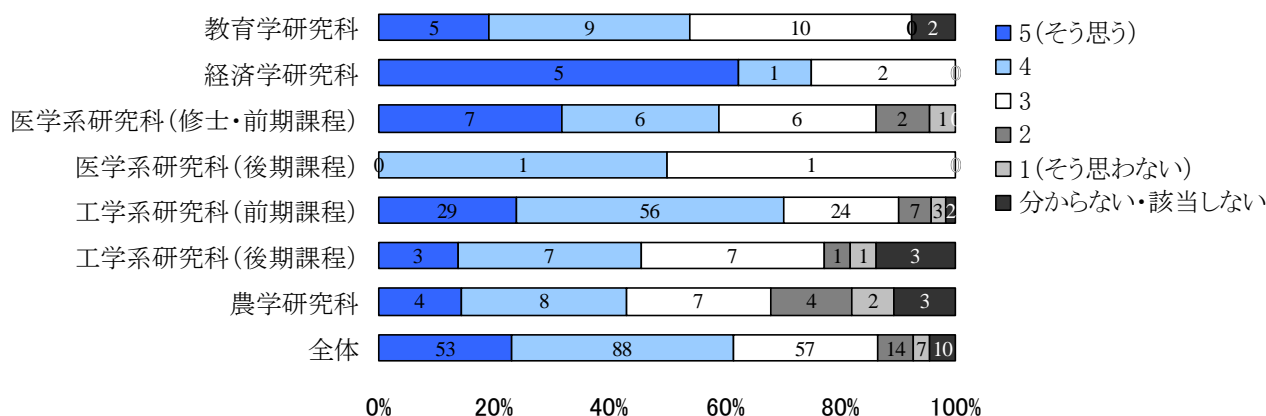
(観点に係る状況)

全科目のシラバスは、本学共通のシラバス作成要領に従って作成され、オンラインシラバスとして、ホームページに掲載している(資料5-5-2-1)。このシラバスには、担当教員名・授業科目名・開講学期・開講曜日・時限などに加えて、授業計画・履修上の注意・成績評価の方法と基準・教科書・参考書・オフィスアワーを記しており、学生が授業科目を選択する上での適切な内容となっている。

院生は、入学時に配布する大学院履修案内(資料5-5-2-2)に掲載されている授業科目概要及び履修モデルと、オンラインシラバスにある詳しい授業内容を参考にしながら、受講科目を決めることができる。

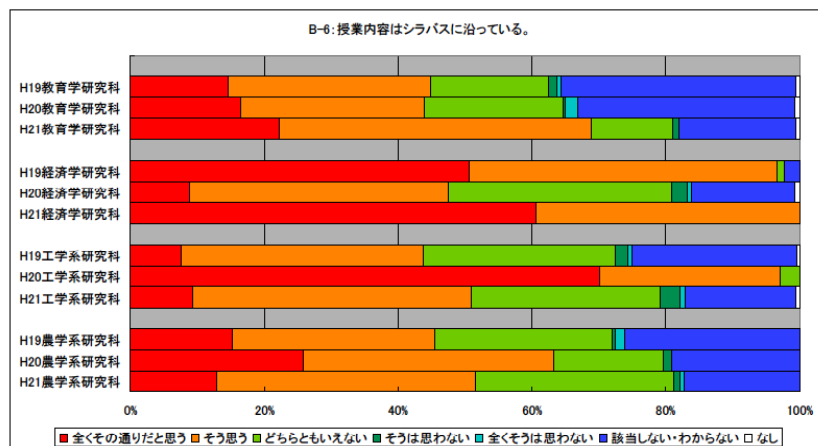
なお、シラバスはどのように利用したかを聞いた平成21年度のアンケート結果(資料5-5-2-3)について、93%以上の院生が授業の内容や方法を知るために利用している。しかし、シラバスが科目選択の参考になったかどうかについては中間から下でそう思わないとする否定的意見は約21%もあり、中間から上でそう思うとする肯定的意見も43%程度で、高い評価とは言えず、シラバスの表記法に何らかの工夫が必要と考えられる(図1)。また、授業内容がシラバスに沿っているかについては(資料5-5-2-4)、肯定的な意見が40~50%であり、例年高い評価を得られていない(図2)。この原因の一つは、農学研究科においては少人数教育・個別指導が実施されているため、学生はシラバスを見る機会が少なく、教員側もシラバスに沿った型どおりの教育ができにくいことが上げられる。

図1 シラバスは、科目選択の参考になったかどうかのアンケート調べ

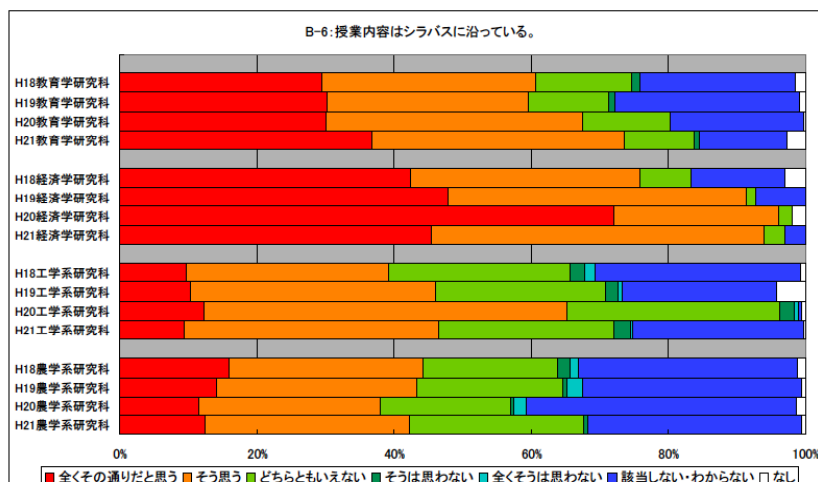


(出典：平成21年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書 p45)

図2 授業内容は、シラバスに沿っているかどうかのアンケート調べ



前期



後期

(出典：平成21年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書 p48)

(分析結果とその根拠理由)

大学院履修案内にカリキュラム表、授業科目概要及び履修モデルが掲載されるとともに、オンラインシラバスにおいて詳細な各教科のシラバスが公開され、学生はこれらを参考にしながら授業科目を選択できるが、学生によるシラバスの評価は低い。この理由は、農学研究科において少人数教育・個別指導が実施されているためであるが、今後、学生にもっとシラバスを活用するように指導する必要がある。

- 資料 5-5-2-1 佐賀大学ホームページ (Live Campus)  
[http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live\\_campus\\_006.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html)
- 資料 5-5-2-2 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内
- 資料 5-5-2-3 平成21年度佐賀大学学生対象アンケート報告書  
(大学教育委員会・高等教育開発センター)
- 資料 5-5-2-4 平成21年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書



観点5-5-③： 夜間において授業を実施している課程（夜間大学院や教育方法の特例）を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

#### 農学研究科 5-5-③

（観点に係る状況）

大学院においては、企業等に在職のまま入学を希望する社会人に対して、入学後も社会人が学びやすいように大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置を実施している。希望者には、指導教員の指導により、履修方法や授業等の実施時間帯等の履修計画を立てさせるようにしている。また、特例による夜間の授業時間は第1時限18:00～19:30とし、14単位までを課程修了に必要な単位数（30単位）に含めることができるように配慮している（資料5-5-3-1）。

（分析結果とその根拠理由）

大学院では、社会人学生の希望があれば指導教員の指導により、特例による夜間の授業を実施し、夜間開講科目14単位までを課程修了に必要な単位数に含めることなど、社会人学生に配慮した適切な時間割の設定がなされ、適切な指導が行われている。

資料5-5-3-1 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p13～14

観点5-6-①： 教育課程の趣旨に沿った研究指導，学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る指導の体制が整備され，適切な計画に基づいて行われているか。

#### 農学研究科 5-6-①

（観点に係る状況）

学生ごとに所属研究室と指導教員を定め，研究テーマに関する打合せを行い，研究指導実施計画書（資料5-6-1-1）を作成し，それに基づき研究指導を実施している（資料5-6-1-2）。適宜，研究の中間報告会を実施し，複数の教員により，各学生の研究に対する助言，指導を行っている。論文執筆に当たっては，学位論文の審査委員となった複数の教員（副査として2人以上）の指導を受けている（資料5-6-1-3）。

（分析結果とその根拠理由）

研究指導，論文執筆，論文発表は，それぞれの専攻における複数の指導教員により常時，計画的かつ適切に行われていることから，教育課程の趣旨に沿った研究指導，学位論文に係る指導の体制が整備され，適切な計画に基づいて指導が行われている。

資料 5-6-1-1 研究指導の実施に関する報告書

資料 5-6-1-2 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p12～13

資料 5-6-1-3 平成21年度研究科委員会資料（農学部総務係：修士指導・審査教員氏名一覧表）

観点5-6-②： 研究指導，学位論文に係る指導に対する適切な取組（例えば，複数教員による指導体制，研究テーマ決定に対する適切な指導，TA・RA（リサーチ・アシスタント）としての活動を通じた能力の育成，教育的機能の訓練等が考えられる。）が行われているか。

#### 農学研究科 5-6-②

（観点に係る状況）

学生と指導教員との間で研究テーマに関する綿密な検討，打合せが行われ，研究指導計画書（資料 5-6-2-1）が作成され，それに基づき研究が行われている。また，適宜，研究の中間報告会が実施され，複数の教員により，研究に対する助言，指導が行われ，学位論文の執筆に当たっても，指導教員以外に複数の教員が論文執筆の指導を行っている（資料 5-6-2-2）。

また，「TAの任用，運用に関する申合事項」（資料 5-6-2-3）を定め，研究科の学生は，教員の監督のもとで学部学生の演習や実験などの指導に当たり，教育訓練の機会が与えられている。平成 21 年度におけるTAの任用に関する実績は，観点 3-4-1 の表 9 のとおりで，多くの学生に教育関連能力向上の機会が継続的に与えられている。

（分析結果とその根拠理由）

学生は，主指導教員のもと，研究テーマの決定を行い，研究の遂行や学位論文の執筆に当たっては複数の教員の指導を受けている。また，TAとして，学部学生の演習や実験などの補助指導に当たることにより，教育訓練の機会が与えられており，研究指導，学位論文に係る指導に対する適切な取組みが行われている。

資料 5-6-2-1 研究指導の実施に関する報告書（教務課大学院係）

資料 5-6-2-2 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p12～13

資料 5-6-2-3 TAの任用，運用に関する申合事項（教育委員会）

観点5-7-①： 教育の目的に応じた成績評価基準や修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

#### 農学研究科 5-7-①

(観点に係る状況)

各授業の成績評価基準、修士論文、最終試験の評価基準及び修了認定基準は、大学院履修案内(資料5-7-1-1)とオンラインシラバス(資料5-7-1-2)に明記するとともに、大学院履修案内を学生全員に配布し、特に、成績評価基準については入学時及び各教員の初回授業時にガイダンスを実施し、周知している。

研究科の修了認定は、修了認定基準及び最終試験の評価基準に基づき、まず提出論文の内容、学位論文発表会での発表及び質疑応答内容などにより、厳格に評価し、次に学位論文の単位を含めた修得単位数をもとに各専攻で修了認定審査を行い、さらに大学院教育小委員会を通し、最終的には研究科委員会(資料5-7-1-3)において審議し、認定を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

成績評価基準及び修了認定基準は、履修の手引きやオンラインシラバスに明記するとともに入学時及び初回授業時にガイダンスを実施し、学生全員に周知している。また、研究科の修了認定は、修了認定基準及び最終試験の評価基準に基づき、厳格に評価し、修了認定を行っており、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。

資料 5-7-1-1 平成 21 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p12～13

資料 5-7-1-2 佐賀大学ホームページ (Live Campus)

[http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live\\_campus\\_006.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html)

資料 5-7-1-3 平成 21 年度研究科委員会議事録 (農学部総務係：大学院修了認定資料)

観点5-7-②： 学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制が整備されているか。

#### 農学研究科 5-7-②

(観点に係る状況)

修士論文に係る評価基準は、大学院履修案内(資料5-7-2-1)とオンラインシラバス(資料5-7-2-2)に明記するとともに、大学院履修案内を学生全員に配布し、さらに、入学時及び初回授業時にガイダンスを実施し、周知している。

修士論文及び最終試験の評価は、主査(1人)及び副査(2人以上)の教員が行い、「修士論文および最終試験の評価基準」(資料5-7-2-1)に基づき、提出論文の内容、学位論文発表会での発表及び質疑応答内容などにより、各教員が100点満点の採点制により、その平均点において、60点以上を合格としている。

(分析結果とその根拠理由)

学位論文に係る評価基準は、入学時や授業開始時のガイダンスなどにより周知され、学位論文の審査については学位審査細則に基づき、厳格に実施されており、適切な審査体制が整備され、機能している。

資料5-7-2-1 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p13

資料5-7-2-2 佐賀大学ホームページ (Live Campus)

[http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live\\_campus\\_006.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html)

観点5-7-③： 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

#### 農学研究科 5-7-③

(観点に係る状況)

成績評価等の正確さを担保するための措置として、平成20年度から学業成績にGPA(資料5-7-3-1, p386～389)を採用し、さらに教員による成績評価判定資料の保管、学生に対する試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始した(資料5-7-3-2)。また、成績の厳格評価の結果として生まれることが予測される学生からのクレームへの対応のために、「成績評価の異義申立てに関する要項」(資料5-7-3-1, p390)を平成18年度に定めた。

(分析結果とその根拠理由)

平成20年度から学業成績にGPAを採用し、さらに成績評価判定資料の保管、学生に対する試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始しており、成績評価等の正確さを担保するための措置は講じられている。

資料5-7-3-1 平成21年度学生便覧

資料5-7-3-2 佐賀大学ホームページ Live Campus (オンラインシラバス)

<https://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/UI/jsp/login/loginTeacher.jsp?locale=ja>

## 6 教育の成果

観点6-1-①： 学生が身に付ける学力，資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして，その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

### 農学研究科 6-1-①

(観点に係る状況)

農学研究科における教育研究の理念にしたがって，教育達成後の資質，人材像等は明確に定めており（資料6-1-1-1），これに基づき，学部教育委員会及び大学院教育小委員会が毎月定例的及び必要に応じて委員会を開催し，院生が各学年，修了時等に身に付ける学力や能力，資格取得の状況，あるいは卒論，修論の内容・水準を調査・検討し，教育の成果や効果を検証・評価している。

例として，大学院教育小委員会では修士論文の審査・最終試験の審査方法の見直し，研究指導計画の策定と様式の作成・実施（資料6-1-1-2），修了生へのアンケート内容の検討（資料6-1-1-3），GPAの導入の可能性（資料6-1-1-4）などを平成19年度に検討している。

また，別に本研究科の理念，教育研究の目的及び目標の達成度を総合的に評価する農学部評価委員会を定期的に開催しており，その達成度や問題点を佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（資料6-1-1-5）にまとめて，公表している。

(分析結果とその根拠理由)

農学研究科では，学部教育委員会，大学院教育小委員会及び農学部評価委員会が定期的に，学生が身に付ける学力，資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして，その達成状況を検証・評価するための取組を行っている。

資料6-1-1-1 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p8

資料6-1-1-2 研究指導の実施に関する報告書（大学院教育小委員会）

資料6-1-1-3 アンケートの主旨とお願い（大学院教育小委員会）

資料6-1-1-4 平成21年度学生便覧 p386～389

資料6-1-1-5 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成18，19，20年度）

観点6-1-②：各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

### 農学研究科 6-1-②

（観点に係る状況）

表14は、平成18～21年度において院生が学会などで発表した研究論文数である。院生の在籍数は各年度50人（定員）内外であることから、平成20年度までは少なくとも院生の1人が毎年学会発表を行い、概ね2人に1人が論文を発表していることになり、院生の研究活動は活発である。

なお、平成21年度の数値が低下しているのは、平成21年度から業績の入力システムが学部単位から全学単位に変わり、教員の入力率が悪いため、実態を表しているわけではない。

また、修士の学位に関する厳格な審査（資料6-1-2-1）を行っている中で、平成18年度から21年度における全在籍者数に対する修了者の割合（修了率）（表15）は、生物生産学専攻で、88～97%、応用生物学専攻で86～94%であり、両専攻の平均は90%以上と高く、教育の成果は上がっている。

表14 大学院修士学生の学会発表・論文発表数

区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
学会発表数（回）	90	67	73	45
論文発表数（件）	27	22	22	16

注：論文発表数は、学生が学術雑誌（紀要、論文集等も含む。）に発表したもの（査読中・投稿中のものは除く。）

表15 農学研究科における年度別修了率（平成22年5月現在）

専攻	平成18年度			平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	在籍者数	修了者数	修了率	在籍者数	修了者数	修了率	在籍者数	修了者数	修了率	在籍者数	修了者数	修了率
生物生産学専攻	30	29	97%	17	15	88%	22	20	91%	29	27	93%
応用生物学専攻	32	30	94%	25	23	92%	26	23	88%	28	24	86%
合計	62	59	95%	42	38	90%	48	43	90%	57	51	89%

（出典 教務課大学院係記録）

（分析結果とその根拠理由）

年度毎の学会発表数や論文発表数から、少なくとも院生の1人は学会で発表しており、2人に1人は論文を雑誌に発表している。また、厳格な修了条件の中で、過去4年間の修了率の平均も90%を上回っていることから、教育の成果や効果が上がっている。

資料6-1-2-1 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p13



観点6-1-③： 授業評価等, 学生からの意見聴取の結果から判断して, 教育の成果や効果が上がっているか。

### 農学研究科 6-1-③

(観点に係る状況)

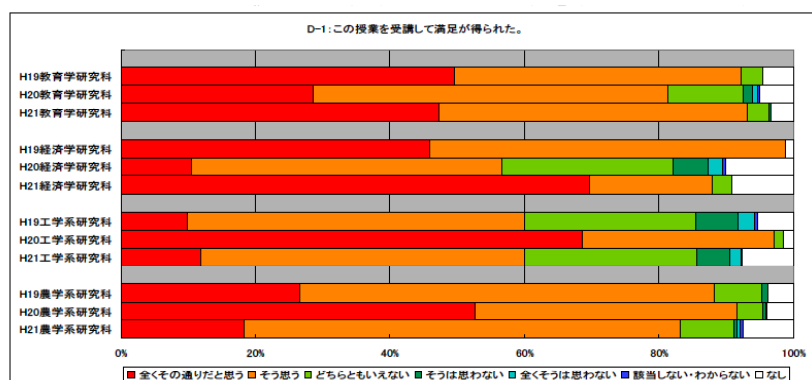
本研究科の理念, 目的に沿った教育成果や効果が十分上がっているかについては, 大学院学生による授業評価, 修了生を対象としたアンケート調査及び学生対象アンケート調査などを通じて, 評価を行っている。

大学教育委員会が行っている授業評価(資料6-1-3-1)において, 授業を聞いて興味が増したとする農学研究科院生は80%以上で, また授業の満足度については, 前年度よりやや低下しているが, 肯定的意見が80%以上で高水準を維持しており, 概ね教育の効果が上がっていると判断される(図3)。

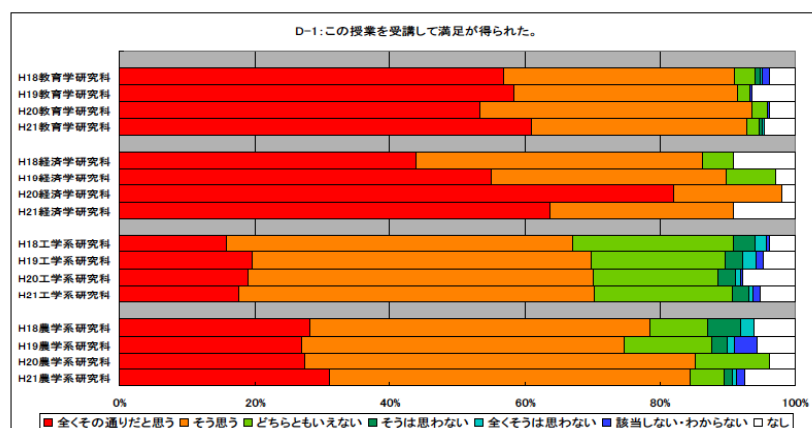
一方, 大学教育委員会及び高等開発教育センターが行った平成21年度の学生対象アンケート(資料6-1-3-2, 回収率46.8%)では, 去年よりやや下がったものの, 70%近くの学生(4ポイント以上)が教員の研究指導は適切であると感じている(図4)。

さらに, 修了(予定)者を対象としたアンケート調査(資料6-1-3-3)では, 農学研究科が教育効果を期待する項目(表16)について, 多くの項目でややできた・かなりできたとする比率の合計が多くの項目で50%を超えるが, 就職に結びつく技能, 創造性, 一般教養, 異文化理解などが, あまり修得できていない・わからないと判断をしている学生が多く, この対応を今後検討する必要がある。

図3 この科目を受講してみて, 満足が得られたかどうかに関するアンケート調べ



前期



後期

(出典：平成 21 年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書 p54)

図 4 指導教員による研究指導の適切性

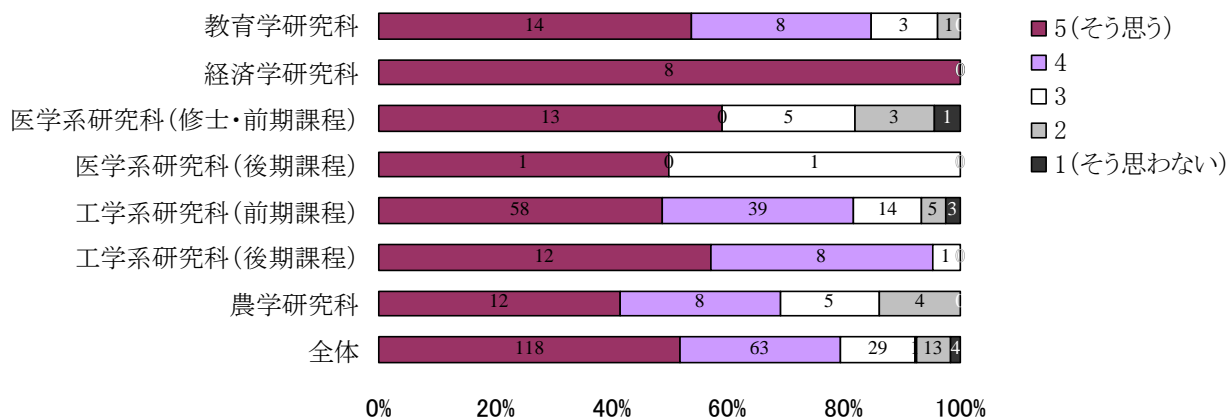


表 16 平成 21 年度農学研究科修了者におけるアンケート調査 (回収率 42%)

(%)

項目	まったくできなかった	あまりできなかった	どちらともいえない	ややできた	かなりできた	合計
専門的な知識と技能	8.3	8.3	12.5	62.6	8.3	100.0
就職に結びつく技能	8.3	16.7	33.4	33.4	4.2	96.0
分析し批判する能力	0.0	12.5	0.0	70.8	16.7	100.0
社会に適応する能力	4.2	8.3	12.5	54.2	20.8	100.0
コミュニケーション能力 (対人関係)	0.0	8.3	16.7	54.2	20.8	100.0
コミュニケーション能力 (語学力)	4.2	16.7	20.8	50.0	8.3	100.0
プレゼンテーション技術	0.0	12.5	8.3	62.5	16.7	100.0
ディベート(議論・討論) の能力	0.0	4.2	41.6	50.0	4.2	100.0
資料や報告書を作成する 能力	0.0	8.3	25.0	58.4	8.3	100.0
創造性	0.0	8.3	46.0	37.4	8.3	100.0
一般教養	4.2	16.7	33.4	37.4	8.3	100.0
異文化理解	0.0	16.7	25.0	37.4	16.7	95.8
研究能力	0.0	8.3	12.5	66.7	12.5	100.0
課題を探究する能力	0.0	8.3	12.5	62.5	16.7	100.0
問題を解決する能力	4.2	4.2	16.7	66.6	8.3	100.0

(出典：平成 21 年度佐賀大学共通アンケート調査(卒業・修了予定者対象) 報告書)

(分析結果とその根拠理由)

大学院生による授業評価，修了生に対するアンケート調査等から判断して，教育の成果や効果が概ね上がっているが，一部に効果が認めにくいものもあり，この理由を分析し，改善する必要がある。

資料 6-1-3-1 平成 21 年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書

資料 6-1-3-2 平成 21 年度学生対象アンケート報告書

資料 6-1-3-3 平成 21 年度佐賀大学共通アンケート調査（卒業・修了予定者対象）

観点6-1-④： 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

#### 農学研究科 6-1-④

（観点に係る状況）

就職や進学といった進路状況等について、本研究科は就職委員会を組織して、現状を定量的に把握し、教育成果や効果を調査している。これによると、平成21年度修了生の就職率は、進学者を除いて約76%であり、前年度（約89%）を大きく下回ったが、進学率は18%と増加した（表17）。これは、ここ最近の厳しい就職事情を反映しているものと判断され、逆境の中でも高い就職率を得られるように、より充実した教育を行う必要がある。

また、各専攻が意図している人材像に学生が近づいているという意味（履修モデルを推奨）では、就職者のほとんどが専門分野に就職していることから、研究者・専門職業人の養成に関する教育の成果や効果が上がっていると判断される（表18）。

表17 修了生の進学及び就職状況

年 度	修了生数	進学者	就職者	その他
20	43	5	33	5
21	51	9	32	10

（出典：平成21年度佐賀大学キャリアセンター就職状況等調）

表18 平成21年度農学研究科修了生の就職先

産業分類	生物生産学	応用生物科学	合 計
農業、林業	2		2
建設業	1	1	2
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	2	5	7
印刷・同関連業		1	1
化学工業・石油・石炭製品等製造業	1	5	6
情報通信業	1		1
学術研究、専門・技術サービス業	3	3	6
教育、学習支援業	1		1
複合サービス事業	1		1
サービス業（他に分類されないもの）		1	1
国家公務（教員を除く）	1		1
地方公務（教員を除く）	3		3
総 計	16	16	32

（出典：平成21年度佐賀大学キャリアセンター就職状況等調）

（分析結果とその根拠理由）

平成21年度の修了生の就職率は、概ね76%であり、前年度を大きく下回ることから、昨今の就職難の環境にあって高い就職率を維持するよう、より充実した教育を行う必要がある。なお、研究者・専門職業人の養成に関しては、ほとんどの就職者が専門分野へ就職しているので、教育の成果の効果は上がっており、専門教育の効果

も十分上がっている。

観点6-1-⑤：卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

## 農学研究科 6-1-⑤

（観点に係る状況）

修了生（予定者）のアンケート結果では、本研究科の教育の成果や効果は、観点6-1-3で述べたように概ね上がっていると判断される（表16）。

農学部就職委員会では、平成20年度に農学部卒業後あるいは大学院修士課程修了後3年以内の者を対象として、就職先へのアンケート調査を行った。このアンケート結果（表19）によると、総合評価として佐賀大学卒業生・修了生の80%以上が平均より良好とする自己評価をしており、上司の評価では全ての項目で佐賀大学卒業生・修了生の自己評価を上回り、高い評価を得た。今年度（平成21年度）は、この種のアンケート調査を行っていない。今後、継続して実施する必要がある。

また、本研究科では後援会の支援により各専攻の主任の教員が就職支援活動の一環として会社訪問を行い、就職した学生の働きぶりを聞き取り調査するとともに、求人への依頼をしている。

表19 平成20年度学部卒業生・大学院修了者及び企業先上司のアンケート調査結果

事項	評価段階（学部卒業・大学院修了者）					平均 評価点	評価段階（上司）					平均 評価点
	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
行動力・実行力	3	9	3	1	0	3.9	4	8	1	0	0	4.2
熱意・意欲	3	10	3	0	0	4.0	4	8	1	0	0	4.2
論理的思考力	2	4	7	3	0	3.3	2	7	4	0	0	3.8
創造的思考力	1	5	6	4	0	3.2	1	6	6	0	0	3.6
一般常識・教養	1	8	6	1	0	3.6	5	5	3	0	0	4.2
専門知識	0	3	9	4	0	2.9	3	4	4	1	0	3.8
コミュニケーション能力	4	6	6	0	0	3.9	3	9	1	0	0	4.2
プレゼンテーション能力	1	2	8	4	1	2.9	2	6	4	1	0	3.7
合計 (%)	15 (11.7)	47 (36.7)	48 (37.5)	17 (13.3)	1 (0.8)		24 (23.3)	53 (51.5)	24 (23.3)	2 (1.9)	0 (0.0)	

注1：各設問事項について、優れているものを「5」、劣っているものを「1」とし、5段階で評価した。

注2：合計欄の%は、回答総数に対する割合を示す。

注3：平均評価点は、各評価項目の評価段階×回答数を同系回答数で除した値である。

注4：「評価段階（学部卒業・大学院修了者）」の項目は、学部卒業生及び大学院修了者の自己評価である。

注5：「評価段階（上司）」の項目は、学部卒業・大学院修了者に対する上司の評価である。

（分析結果とその根拠理由）

修了生のアンケート結果及び就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断すると、教育の成果や効果が概ね上がっている。平成20年度の就職先でのアンケート結果では、学部卒業生・院修了者に対して上司の高い評価を得ており、農学部及び農学研究科における教育の効果は高いと判断される。



## 7 学生支援等

観点7-1-①： 授業科目や専門，専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

### 農学研究科 7-1-①

(観点に係る状況)

農学部大学院教育小委員会を中心として、学生に対して年数回のガイダンスを行っている。具体的には、研究科の入学生を対象として、冊子体の大学院履修案内(資料7-1-1-1)及び佐賀大学農学部・農学研究科概要(資料7-1-1-2)を配布し、これに沿って、教育研究内容、教員組織、履修モデル、授業科目の選択、受講方法、履修方法、修了認定基準及び学位授与等について説明している。平成21年度院生アンケートのガイダンス項目(資料7-1-1-3)をみると、ガイダンスによって学習目的や履修方法を概ね理解した人(評価段階：4ポイント以上)はアンケート提出者の約55～65%程度で、必ずしも十分ではなく、また全学平均が80%以上となっているので、理解度を上げるべく、ガイダンスの説明方法などを工夫する必要がある。(図4、5)

また、個別な取り組みとして各教育研究分野の指導教員は、分野所属の学生と相談し、2年間の履修計画を立て、マンツーマンで学習(履修)を指導し、指導の点検・評価を行っている(資料7-1-1-1:p12, 資料7-1-1-4)。さらに、入学者の1割強を占める他大学からの入学者の多くに対し、教員は必要に応じて、個別に特別の指導(補完的な教育や研究方法の指導)を実施している。

図4 本学で何を学習するか

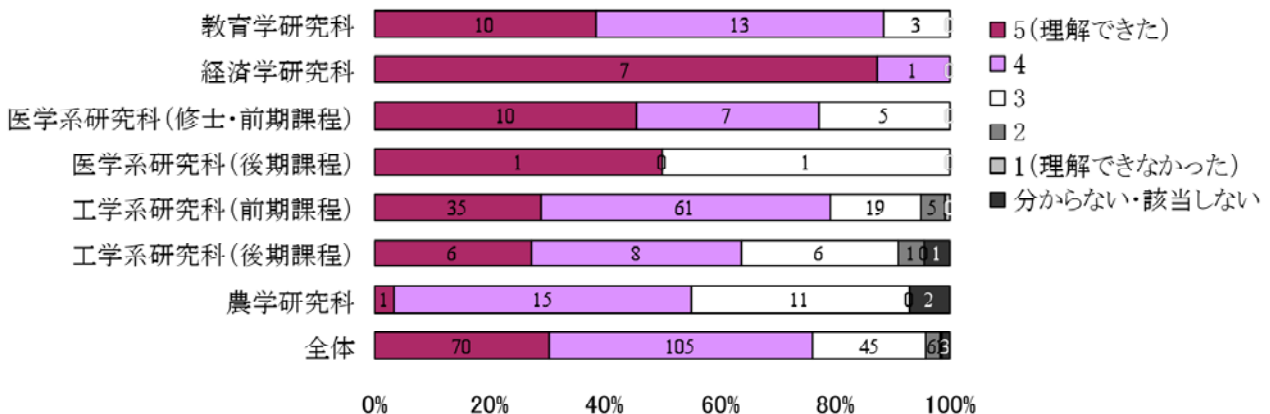
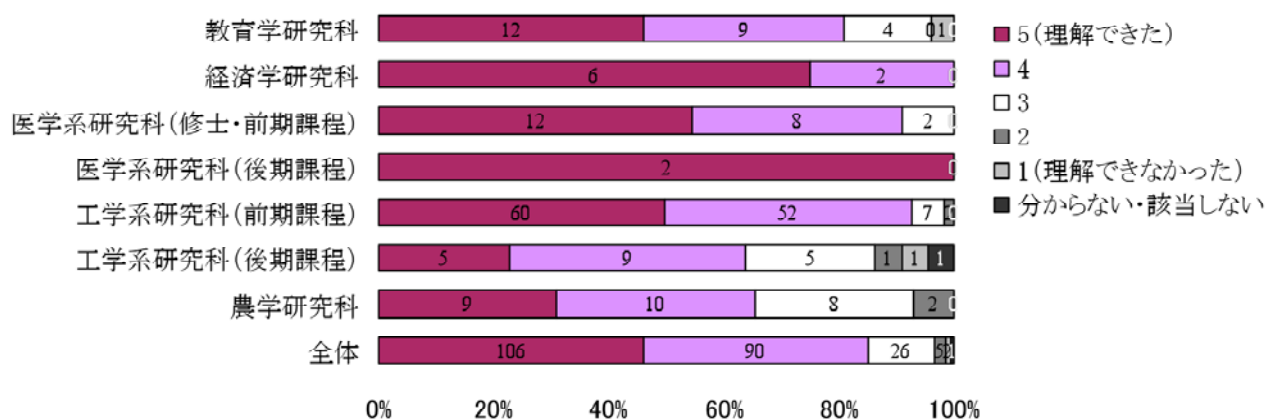




図5 本学で何を履修したらよいか



(出典：平成21年度佐賀大学学生対象アンケート報告書 p41)

(分析結果とその根拠理由)

2年間の履修計画を立てる際に、指導教員が学生に対してマンツーマンで学習（履修）方法を指導するなど、授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンス体制は概ね適切であるが、履修方法などを概ね理解した学生が約55～65%程度で、まだ不十分であり、今後、ガイダンスの説明方法などの工夫が必要である。

- 資料 7-1-1-1 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内
- 資料 7-1-1-2 平成21年度佐賀大学農学部・農学研究科概要
- 資料 7-1-1-3 平成21年度佐賀大学学生対象アンケート報告書
- 資料 7-1-1-4 研究指導の実施に関する報告書（佐賀大学教務課大学院係）

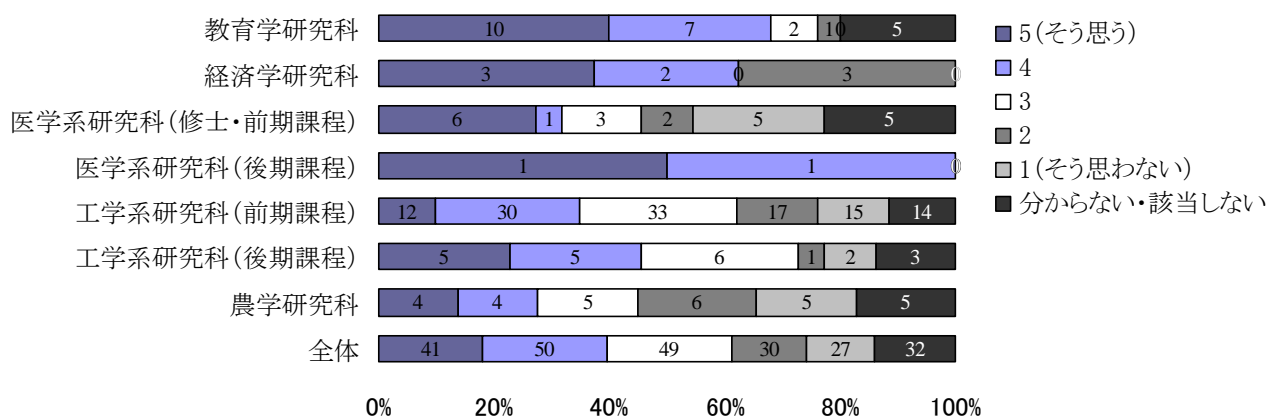
観点7-1-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われている。

## 農学研究科 7-1-②

(観点に係る状況)

本研究科では学習支援に関する学生のニーズについて、大学院教育小委員会を中心に組織的に把握・分析し、助言、支援を行っている。また、農学部ホームページにも在学生対象の履修方法などに関する質問コーナー（資料7-1-2-1）を設け、さらに農学部全教員がオフィスアワーを設定し（資料7-1-2-2）、学習相談・助言体制を整えている。しかし、学生アンケート（図6、資料7-1-2-3）によるとオフィスアワーの必要性について、概ね必要とする院生（評価段階4ポイント以上）はアンケート提出者の27.6%であり、全学平均39.3%に比べても低い。これは、農学研究科では学部と違って、個別指導が行き届いているので、オフィスアワーは必要と感じる学生が少ないためと判断される。

図6 大学院におけるオフィスアワーの必要性



(出典：平成21年度佐賀大学学生対象アンケート報告書 p42)

(分析結果とその根拠理由)

大学院教育小委員会を中心に、組織的に、農学部ホームページにも在学生対象の質問コーナーを設けるなど、学生のニーズを適切に把握するため、適切な学習相談、助言、支援体制を整えている。オフィスアワーを必要とする院生が少ないが、これは農学研究科では学習支援体制などに係る個別指導が行き届いていることの反証と考えられる。

資料7-1-2-1 農学部ホームページ (在学生向け情報)

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/zaikousei.html>

資料7-1-2-2 平成21年度オフィスアワー時間一覧

[http:// http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/office.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/office.html)

資料7-1-2-3 平成21年度佐賀大学学生対象アンケート報告書 p42

観点7-1-④： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

#### 農学研究科 7-1-④

(観点に係る状況)

留学生、社会人学生、障害のある学生など特別に支援が必要な学生の入学に備えて留学生担当講師、大学院教育小委員会、学生委員会を配置している。英会話の堪能な留学生担当講師が、留学生向けに授業科目としてアグロサイエンス特論及びアグロサイエンス特別演習を担当している(資料 7-1-4-1, p20)。これに加えて、留学生には学生チューター制(資料 7-1-4-2)も設けており、日本の学生が学習と生活面について支援する体制を整えている。

平日の労働時間帯に受講できにくい社会人学生に対しては、要望があれば夜間開講あるいは集中講義にする体制を取っている(資料 7-1-4-1, p20)。なお、基礎教育が必要とされる社会人に対する補習教育については、はっきりした制度がなく、大学院教育小委員会、学生委員会が適宜、あるいは指導教員が個別に対応している。また、障害者に対しては組織的なサポート体制がなく、今後、支援体制を早急に整える必要がある。

(分析結果とその根拠理由)

留学生については、学習内容に対応して留学生担当講師あるいは日本の学生が学習支援を、社会人学生に対しては夜間開講科目や集中講義を用意するなど、制度的な教育支援を行っている。また、各種委員会及び関係教員が、特別な支援が必要な学生に対して、学習相談や助言を適切に行っている。障害者に対しては組織的なサポート体制がなく、今後、支援体制を早急に整える必要がある。

資料7-1-4-1 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

資料 7-1-4-2 チューターの手引き (佐賀大学国際課)

観点7-2-①： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

農学研究科 7-2-①

(観点に係る状況)

附属図書館には、自主的に学習する学生及び院生のための閲覧スペースとグループ学習室があり、パソコンによる図書・文献の検索や読書などを自由に行うことが可能である(資料7-2-1-1)。インターネットによる情報収集は、附属図書館以外に総合情報基盤センターの施設も利用(資料7-2-1-2)でき、講義時間以外に学生及び院生が自由に使用可能である。

農学研究科では、分野毎あるいは研究室毎に院生用の机を整備し、複数教育分野では、院生専用の演習室を確保し、各部屋にはパソコンを設置している(表20)。この表は、平成19年度の調査であるが、平成21年度もほとんど変わっていない。このパソコンは、院生が自主学習に活用しており、平成21年度の学生アンケート(資料7-2-1-3)によれば、図書館や情報基盤センターのパソコン数に概ね満足(評価段階4ポイント以上)している院生は27.6~41.4%であるのに対して、研究科や研究室のそれは13.8~20.7%と明らかに低かった。研究科や研究室では、パソコンは個人で持つように指導しているが、共通使用のパソコンのニーズも高いと判断される。研究科の自習スペースに概ね満足している院生は、20.7%で、逆に概ね不満である(評価段階2以下)とする院生も20.7%いた。これは、前年度より(約55%)より明らかに低くなっており、さらにパソコンの数量に関しても研究科の充実度に対して約31%の院生があまり満足しておらず、学習環境をさらに充実する必要がある。

表20 農学研究科の自習スペース

専攻	場所	面積(m <sup>2</sup> )	設置組織 0:学部 1:学科・ 課程 2:その他	年間延べ 利用時間 (時間)	黒板・ 白板の 数	机・テー ブルの数	椅子の 数	書籍の 数(冊)	PCの数	LANの有無 0:無し 1:有り (有線) 2:有り (無線)
生物生産 学専攻	農学部1号館1階	11.1	2	1,920	1	4	5	127	2	1,2
	農学部1号館3階	25.1	2	1,920	0	9	9	229	4	1,2
	農学部2号館1階	25.5	2	1,920	2	7	7	183	2	1
	農学部2号館2階	11	2	1,920	1	3	7	1,400	1	1
	農学部3号館1階	41.3	2	1,920	0	8	8	2,471	4	1
	農学部4号館1階	11	2	1,920	1	2	2	213	1	1,2
	農学部4号館2階	5.5	2	1,920	1	2	2	6	2	1,2
	農学部4号館3階	80.7	2	1,920	1	18	38	1,050	7	1,2
	農学部4号館4階	8.8	2	1,920	0	1	2	6	1	1,2
	農学部4号館5階	101	2	1,920	1	18	28	120	7	1,2
	フィールドセンター	5.7	2	1,920	1	2	3	7	1	1
	海浜台地生物環境研究センター	44	2	1,200	1	10	10	50	0	1
	合計	370.7				10	84	121	5,862	32

応用生物 科学専攻	農学部1号館1階	19.1	2	1,920	2	9	9	1,433	2	1.2
	農学部1号館2階	88.1	2	1,920	3	20	31	2,430	11	1.2
	農学部1号館3階	51.4	2	1,920	1	14	20	2,084	5	1.2
	理工学部9号館2階	11	2	1,920	2	3	5	630	2	1.2
	合計	169.6			8	46	65	6,577	20	

(出典：平成19年度教育活動調査報告書「自習スペース」)

(分析結果とその根拠理由)

農学部の学生のための自主的学習環境は、主に、附属図書館、総合情報基盤センター及び農学部建物において整備されているが、農学研究科の院生によるアンケートの結果、自習スペース及びパソコンの使用に関する満足度は十分とは言えず、さらなる学習環境の充実について検討する必要がある。

資料 7-2-1-1 附属図書館利用規程

資料 7-2-1-2 総合情報基盤センター利用規程

資料 7-2-1-3 平成21年度佐賀大学学生対象アンケート報告書 p45～47

観点7-3-①： 生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており，健康，生活，進路，各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され，適切に行われているか。

#### 農学研究科 7-3-①

(観点に係る状況)

学生の進路・生活面・健康（精神面）及び定期的健康診断などについては，主に所属研究室の指導教員，学生センターの相談窓口（資料 7-3-1-1），農学部ホームページの相談窓口（資料 7-3-1-2）及び佐賀大学保健管理センターで対応している。また，佐賀大学学生支援室では，適切な学生の指導法を書いたチューター（担任）制度ガイドブック（資料 7-3-1-3）を発行し，教員に配布している。

留学生の場合には，日本の学生による学生チューター制（資料 7-3-1-4）を実施し，生活支援体制を整えている。また，農学研究科では留学生専門講師を配置し，講義（資料 7-3-1-5）を通じて留学生の進路及び生活面などに関して支援している。

ハラスメントについては，農学研究科（農学部）では女性の相談員を含め2人を配置し，入学時にハラスメント防止に関するパンフレット（資料 7-3-1-6）を新入生のガイダンス時に配布・説明し，入学後も学内で同和・人権の講習会を数回開き（資料 7-3-1-7），教職員及び学生にこの問題が生じた場合の対応や，予め防ぐ方法などを周知している。

(分析結果とその根拠理由)

学生の健康，生活，進路面については，指導教員をはじめ学生センター，学生支援室及び保健管理センターなどで2重，3重に支援体制を整えている。ハラスメントが生じた場合の対応についてもパンフレットの配布，ガイダンス及び講習会などで周知させると同時に相談・助言体制が整備され，適切に機能している。

資料 7-3-1-1 学生センターホームページ（学生相談）

<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/>

資料 7-3-1-2 農学部ホームページ（在学生向け情報）

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/zaikousei.html>

資料 7-3-1-3 チューター（担任）制度ガイドブック（佐賀大学学生支援室）

資料 7-3-1-4 チューターの手引き（佐賀大学国際課）

資料 7-3-1-5 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p20

資料 7-3-1-6 セクハラ・アカハラ・パワハラとは？（同和・人権問題委員会）

資料 7-3-1-7 平成21年度同和・人権問題講習会開催予定表（同和・人権委員会）

観点7-3-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

#### 農学研究科 7-3-②

(観点に係る状況)

日本語が不自由な入学当時の留学生には、日本の学生が生活面などを支援する学生チューター制(資料7-3-2-1)を設けている。また、観点7-3-1で述べた留学生担当講師(資料7-3-2-2)が学習支援のみならず、講義などを通じて生活面の相談も受けている。

身体障害者等への生活支援については制度的なものはないが、該当者もないため、現時点ではその都度対応することになると考えられる。

(分析結果とその根拠理由)

留学生の生活支援については、制度的に適切に行われている。

資料7-3-2-1 チューターの手引き (佐賀大学国際課)

資料 7-3-2-2 平成 21 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p20

観点7-3-③： 学生の経済面の援助が適切に行われているか。

### 農学研究科 7-3-③

(観点に係る状況)

佐賀大学の大学院学生の経済支援体制として、授業料免除(半免も含む。)と奨学生制度があり、この窓口には佐賀大学学生センター(資料7-3-3-1)が対応し、Web上に掲載して、広く周知している。農学部学生委員会では、大学院学生の奨学生選考の順位をつけ、全学学生委員会(資料7-3-3-2)に報告している。全学学生委員会では厳正な審議を行い、大学院学生の授業料減免者及び奨学生の候補者を決定している。また、農学研究科では奨学金返還免除者申請に関する定め(資料7-3-3-3)を整備しており、入学時のガイダンスで周知している。

(分析結果とその根拠理由)

経済的支援体制として、農学研究科学生を対象とした授業料減免制度及び奨学生制度・奨学金返還免除制度を設けており、これらの選考制度が整備され、機能している。

資料 7-3-3-1 佐賀大学学生センター(授業料免除・奨学生)

<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/>

資料 7-3-3-2 全学学生委員会規程

資料 7-3-3-3 免除者申請の定め「農学研究科奨学金返還免除候補者」の選考について(農学部学生委員会)



## 8 施設・設備

観点8-1-②： 大学において編成された教育課程の遂行に必要なICT環境が整備され、有効に活用されているか。

### 農学研究科 8-1-②

(観点に係る状況)

農学研究科では、ほぼすべての研究室、演習室、実験室にインターネットの有線LAN端末及び無線LANポート(10ヶ所)を設けている(資料8-1-2-1)。学生には、入学後すぐにインターネット・アドレスが与えられ、個人用ならびに図書館あるいは情報演習室に設置しているパソコンを用いて、就学に必要な情報を、学内及び学外から自由に得ることができる。各研究室の自習スペースには有線LANが設置され、生物生産学専攻では32台のパソコンが、応用生物科学専攻では20台のパソコンが設置されている(資料8-1-2-2)。また、平成21年度にマルチメディア情報室を整備し、新たにパソコン30台を設置して、大学院における情報教育に活用している。

(分析結果とその根拠理由)

教育の内容・方法や学生のニーズを満たすための情報ネットワークの整備は、おおむね達成され、教職員及び学生により有効に活用されている。しかしながら、研究室の自習スペースにおけるパソコンの設置台数は充分とはいえない。

資料8-1-2-1 農学部ICT環境(LAN, パソコン設置状況)

資料8-1-2-2 自習スペースの利用状況調査(平成19年度)

観点8-1-③： 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

### 農学研究科 8-1-③

（観点に係る状況）

農学部は、基本計画委員会規程及び施設委員会規程を定め、施設・設備の運用方法に係る諸課題について審議し、審議結果を教職員へ周知している（資料8-1-3-1, 8-1-3-2）。農学研究科は、農学部で定められた施設・設備の運用に関する方針を準用している。農学部が作成した「実験・実習における安全の手引」（資料8-1-3-3）に施設・設備の利用方法を明記し、全ての実験室等の目につく場所に配置している。また、大学院生に対しては新入生オリエンテーションで周知を図るとともに、実験・実習の際に再度、使用方法を指導している。

農学部1号館の改修は、基本計画委員会において審議・立案され、佐賀大学農学部共同利用スペース利用細則（資料8-1-3-4）が制定され、改修後に適用された。学系などの専門教育研究分野ごとに集団化することにより、実験スペースや施設のオープン化、共有化、共同利用化の促進と、研究教育機能の効率化を進めた。大学院教育に必要な高度な研究用機器は、総合分析実験センター機器分析部門の装置として登録・管理されており、その利用に関しては、佐賀大学ホームページの利用案内（資料8-1-3-5）に示されている。多目的講義室、大学院演習室、学生演習室、会議室の使用に当たっては、事前に予約表に記入することを義務付けている。液晶プロジェクター、実物投影機、OHP、スライドプロジェクターなどの教育機器についても集中管理し、予約制としている。

（分析結果とその根拠理由）

農学研究科の施設・設備の整備・運用は、農学部基本計画委員会・施設委員会で検討された基本方針に基づいて行っており、教職員及び大学院生に周知され、有効利用が図られている。

資料8-1-3-1 農学部施設委員会規程

資料8-1-3-2 農学部基本計画委員会規程

資料8-1-3-3 実験・実習における安全の手引 p17～23, p45～53

資料8-1-3-4 農学部共同利用スペース利用細則

資料8-1-3-5 佐賀大学総合分析センター ホームページ

<http://www.iac.saga-u.ac.jp/index2.htm>

## 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

観点9-1-①： 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。

### 農学研究科 9-1-①

(観点に係る状況)

教員の講義ノート、学生の出席状況、試験問題、レポート課題、答案、レポート、模範解答、成績結果、卒業論文、修士論文、博士論文等の教育活動の実態の根拠となる原資料については、原則として担当した教員が保管・蓄積している。博士論文については、論文本体とPDFファイルを図書館が保管・蓄積している。

農学研究科担当教員の全般にわたる教育（研究）活動の実態を平成17年度まで3年毎に農学部教育研究業績総覧（資料9-1-1-1）としてとりまとめていたが、平成18年度以降は佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（資料9-1-1-2）として毎年とりまとめ、農学部総務係が管理している。

(分析結果とその根拠理由)

教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を研究科担当教員や図書館などで、収集・蓄積・管理しており、それらの組織的集計については研究業績総覧や自己点検・評価報告書などにとりまとめ、農学部総務係が適切に保管・管理している。

資料9-1-1-1 佐賀大学農学部教育研究業績総覧（2002年、2006年）

資料9-1-1-2 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成18、19、20年度）

観点9-1-②：大学の構成員（教職員及び学生）の意見の聴取が行われており、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

#### 農学研究科 9-1-②

（観点に係る状況）

大学院の全講義において授業評価が実施され（資料9-1-2-1）、この集計結果については、高等教育開発センターにおいて研究科ごとに集計・比較・分析し（資料9-1-2-2）、評価項目に対する講義の相対的評価を個々の担当教員に通知し、これを参考に翌年に向けた授業の改善点などをホームページで公表させるようにしている（資料9-1-2-3）。

また、平成18年度には大学教育委員会と高等教育開発センターでは、教職員にもアンケート（資料9-1-2-4）を行い、オフィスアワーの設置意義やFD講演会の参加回数あるいは学生の授業評価の利用方法などを質問しており、これらのデータを基に教員の教育の質の向上や改善について検討している。

（分析結果とその根拠理由）

大学教育委員会と高等教育開発センターでは、大学院生による授業評価を毎年行い、また教職員にも教育に関する重要な事柄についてアンケートを行い、これらの結果を教員の授業改善及び教育全般にわたる改善に利用しており、大学の構成員の意見が教育の質の向上・改善に向けて継続的に適切な形で活かされている。

資料9-1-2-1 授業評価実施要領（佐賀大学教育委員会）

資料9-1-2-2 平成21年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書

資料9-1-2-3 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

[http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live\\_campus\\_006.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html)

資料9-1-2-4 平成18年度佐賀大学教員対象アンケート報告書

観点9-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

#### 農学研究科 9-1-③

(観点に係る状況)

農学部就職委員会においては、平成20年度に修了生の就職先へアンケート調査を実施し、修了生に対する社会の評価を教育活動へ反映させるための報告書を作成・配布し、各教員へ周知させている(資料9-1-3-1)。

年1回、農学部後援会を開催し、保護者へ教育活動の報告を行い、保護者との意見交換の際、出て来た要望等を専攻会議や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映させている。

さらに、農学部自己点検・評価報告書(資料9-1-3-2)について、学外評価委員からの意見を聴取し、学部教育委員会や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映させている。

(分析結果とその根拠理由)

会社関係者、保護者及び卒業生などのアンケートや意見ならびに農学部自己点検・評価報告書に対する学外評価委員の意見について専攻会議や学部運営会議などで検討され、教育活動へ反映されており、学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて概ね適切な形で活かされている。

資料9-1-3-1 平成20年度企業アンケート調査結果報告書

資料9-1-3-2 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書(平成18, 19, 20年度)

観点9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。

#### 農学研究科 9-1-④

(観点に係る状況)

研究科の教員は、院生や学部生による授業評価(資料9-1-5-1, 9-1-5-2)に基づいて、自らの授業内容や授業技術等の改善を行っている。この改善点などを、教員の個人評価に関する実施基準(資料9-1-5-3)にある授業改善の点検項目に教員自ら記述するとともに、この記述に沿って継続的な改善に取り組んでいる。また、この改善点などは佐賀大学ホームページのライブキャンパス(資料9-1-5-4)にある採点点検・評価の登録・修正の項目で公開している。

また、授業評価の結果から、映像を用いた講義スタイルの要望が強いことへの対応として、講義室に設置してあるビデオ装置や液晶プロジェクターなどの映像機器(資料9-1-5-3)を多くの教員が活用している。

(分析結果とその根拠理由)

教員は、在学生や修了生などの授業評価やアンケート調査結果に基づいて、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っている。

資料9-1-5-1 平成21年度授業評価・改善の実施に関する報告書

資料9-1-5-2 平成21年度学生対象アンケート報告書

資料9-1-5-3 佐賀大学農学部における教員の個人評価に関する実施基準(農学部ホームページ)

<http://www.ag.saga-u.ac.jp/kyoshokuin/kitei.html>

資料9-1-5-4 佐賀大学ホームページ(Live Campus)

<https://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/UI/jsp/login/loginTeacher.jsp?locale=ja>

資料9-1-5-3 農学部映像機器整備表

観点9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

### 農学研究科 9-2-①

(観点に係る状況)

学生による授業評価に基づいたFD活動を行うために大学教育委員会で授業評価の結果を集計分析し、検討結果を学部へフィードバックし(資料9-2-1-1)、これらに基づいて、教員はシラバスの改善(資料9-2-1-2)を毎年継続的に行っている。また、平成20年度から本研究科に佐賀大学大学院農学研究科ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置し(資料9-2-1-3)、この活動に関する企画・実施体制を整えている。

さらに、佐賀大学では主に高等教育開発センターが毎年2~3回FD・SDフォーラム(表21)を開催し、教員へ授業評価の活用法などを教授している。さらに、毎月定期的に行われる研究科委員会終了後、各教員がお互いの研究を紹介し(資料9-2-1-4)、自分の専門分野以外の研究動向について勉強会を開き、これらを自らの教育研究に活かしている。

また、授業評価の結果から映像を用いた講義スタイルへの要望が強いことへの対応として、講義室にビデオ装置や動画処理が可能な液晶プロジェクターを整備し(資料9-2-1-5)、さらに無線LANポートやLAN有線接続ポートを設け、インターネットを活用した講義を可能とするなど、教育環境の改善を行っている。

表21 平成20, 21年度高等教育開発センター主催FD・SDフォーラム

開催年度	開催日	参加人数	講演題目	講演者
20	7/16 (水)	72	ブレンディット型英語eラーニング授業の可能性	(佐賀大学) 文化教育学部：早瀬 博範
			数学「微分・積分学」(対面授業)においてeラーニングを用いた自己学習の充実とリメディアルの実施	(佐賀大学) 海エネ：池上 康之
			物理専門教育でのeラーニングによる問題出題の実践例	(佐賀大学) 理工学部：船久保 公一
20	2/24 (火)	82	学士力と高大接続の課題について	大学評価・学位授与機構： 萩上 紘一
21	5/21 (木)	44	金沢大学におけるポータル利用による教育改善の取り組み	金沢大学：堀井 祐介
21	7/6 (月)	58	ティーチング・ポートフォリオとは何か	大学評価・学位授与機構： 栗田 佳代子
21	11/25 (水)	24	ICTの効果はあるか	放送大学：内田 実
21	3/17 (水)	39	大学教育の質を組織レベルで保証するには?~愛媛大学におけるDP, CP, APの開発の経験から~	愛媛大学 教育・学生支援機構： 小林 直人

(出典：高等開発教育センター記録)

(分析結果とその根拠理由)

年数回のFDセミナー開催による教員への授業評価の活用法の教育，新たな佐賀大学大学院農学研究科ファカルティ・ディベロップメント委員会の設置，授業評価に基づいた教員個々のシラバスなどの改善，映像機材などの導入による教育環境の充実など，FDが適切な方法で充実・実施されており，組織として教育の質の向上や改善に結びついている。

資料 9-2-1-1 平成 21 年度授業評価・改善の実施に関する報告書

資料 9-2-1-2 佐賀大学ホームページ (Live Campus)

<https://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/UI/jsp/login/loginTeacher.jsp?locale=ja>

資料 9-2-1-3 佐賀大学大学院農学研究科ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

資料 9-2-1-4 教員による研究紹介発表一覧 (農学部総務係資料)

資料 9-2-1-5 農学部映像機器整備表



観点9-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

農学研究科 9-2-②

(観点に係る状況)

技術職員、TA等の教育支援者や補助者は、実験、実習において授業担当教員等と密接に連携し、教育支援を行っている。技術職員には、資質の向上を図る目的で毎年研修会や学会などに参加させている(表22)。また、主に大学院学生が行うTAについては、佐賀大学ティーチング・アシスタント実施要項に基づき(資料9-2-2-1)、教育支援のノウハウを授業担当教員が指導し、教育支援者としての資質の向上を図っている。

表22 平成20、21年度の技術職員による研修例

年度	農学部・農学研究科	附属資源循環フィールド科学教育センター
平成20	大島技術員：マングローブ研究打ち合わせ(佐伯市)	福嶋技術専門職員：平成20年度第1回JAS講習会(熊本県御舟町カルチャーセンター) 嘉村技術専門職員：園芸学会平成20年度春季大会ポスター発表(東京農業大学)平成20年度第1回JAS講習会(熊本県御舟町カルチャーセンター) 森技術員：平成20年度九州地区国立大学等技術職員スキルアップ研修(鹿児島大学) 森技術員：平成20年度第1回JAS講習会(熊本県御舟町カルチャーセンター) 田原技術専門職員、福嶋技術専門職員、嘉村技術専門職員：全国大学附属農場協議会及び技術研修(東海大学阿蘇校舎) 福嶋技術専門職員：研究発表、全国大学附属農場協議会(東海大学阿蘇校舎) 田原技術専門職員、福嶋技術専門職員、嘉村技術専門職員、森技術員：佐賀県特別栽培農産物認証制度に係る生産管理責任者講習会、第1回佐賀有機農業塾(唐津総合庁舎) 嘉村技術専門職員：平成20年度第2回JAS講習会(熊本県御舟町カルチャーセンター) 森技術員：平成20年度佐賀大学中堅職員研修(佐賀大学)
平成21	中谷技術員：九州地区国立大学法人等技術専門職員・中堅職員研修(九大五十周年記念講堂) 中谷技術員：機器・分析技術研究会 実験・実習	福嶋技術専門職員：平成21年度全国大学附属農場協議会秋季協議会並びに教育研究シンポジウム及び岩手大学農学部圃場の視察

<p>技術研究会 in 琉球 (琉球大学) 大島技術員：バラフ及びマングローブの生育調査 鹿島市マングローブ移動作業 (鹿島市)</p>	<p>(ホテルメトロポリタン盛岡及び岩手大学 農学部) 福嶋技術専門職員：JAS 講習会 (植木町生涯学 習センター) 嘉村技術専門職員：「九州地区国立大学法人等技 術専門職員・中堅技術職員研修 (九州大学 五十周年記念講堂) 森技術員：全国大学附属農場協議会九州地域協 議会及び技術職員研修 (宮崎大学農学部自 然共生フィールドセンター) 研究発表：有機栽培における佐賀県地方野 菜‘女山ダイコン’の自家採種基地の開発 嘉村技術専門職員：全国大学附属農場協議会九 州地域協議会及び技術職員研修 (宮崎大学 農学部自然共生フィールドセンター) 青木技術専門職員：九州地区国立大学法人等技 術職員スキルアップ研修 (熊本大学)</p>
--	--

(出典：農学部総務係記録)

(分析結果とその根拠理由)

教育支援者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修を行い、また、佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領を定め、授業補助者へ授業担当教員が教育支援のノウハウを指導するなど、資質の向上を図るための取組を行っている。

資料 9-2-2-1 佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領 (佐賀大学教務課)

## 10 管理運営

観点11-1-①： 管理運営のための組織及び事務組織が、大学の目的の達成に向けて支援するという任務を果たす上で、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

### 農学研究科 11-1-①

(観点に係る状況)

農学研究科の管理運営は、研究科長(学部長兼任)のリーダーシップの下で、教員組織と事務組織(農学部事務長と総務係職員)が連携・協力しながら、任務を果たしている。

農学部には、管理運営に係る委員会として、管理運営を含む重要事項について検討するための組織である学部運営会議(学部長、教育研究評議員、副学部長、学科長、副学科長の8人で組織)をはじめ、農学部予算委員会、農学部基本計画委員会、農学部人事委員会、農学部評価委員会、農学部施設委員会、農学部安全衛生委員会、フィールドセンター運営委員会を設置しているが、これらの委員会は農学研究科の管理運営に関わる事項についても審議し、管理運営に係る事項は、研究科委員会において周知されている。

研究科委員会は、研究科を担当できる資格を持つ教授(24人)、准教授(25人)、講師(1人)及び助教(1人)により構成している(平成21年4月現在)。研究科委員会は、各種委員会委員の選出や、その他の運営に関する事項の審議を行っている。

危機管理のために、「非常事態発生時(勤務時間外)の緊急連絡網」を定め、教職員と大学院生へ周知している。緊急事態の発生を未然に防止するための実務は、農学研究科においても農学部安全衛生委員会(委員長は副学部長)、農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会等が担当している。

(分析結果とその根拠理由)

農学研究科の管理運営の組織と事務組織は、適切な規模となっており、適切に機能している。危機管理等の体制は、法人化後に強化され、適切に機能している。

観点11-1-1-③： 大学の構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者のニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映されているか。

#### 農学研究科 11-1-1-③

（観点に係る状況）

教職員のニーズは、各種学内委員会、専攻会議、研究科委員会等を介して把握されている。教育研究分野レベル及び個人レベルのニーズも把握できるように配慮している。

大学院生のニーズは、アンケート調査（資料11-1-3-1）や面談を通して把握している。学習については、教育委員会と教務課がニーズ（課題）を把握している。指導教員を含む全教員は、院生（修了生を含む。）ならびに保護者（農学部後援会会員）のニーズ把握に努めている。

学外者からのニーズは、修了生の就職先企業、地元佐賀県関係、外部評価委員を通して把握している（資料11-1-3-2）。また、外部評価委員に農学研究科の管理運営についての意見も求めている（資料11-1-3-3）。

農学研究科教職員、院生、学外者のニーズは、農学研究科あるいは各専攻で検討し、管理運営に活かしている。

（分析結果とその根拠理由）

農学研究科内外のニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映されている。

資料11-1-3-1 平成20年度学生対象アンケート報告書

資料11-1-3-2 平成20年度企業アンケート調査報告書

資料11-1-3-3 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）

観点11-2-①： 管理運営に関する方針が明確に定められ、その方針に基づき、学内の諸規定が整備されるとともに、管理運営に関わる委員や役員の選考、採用に関する規定や方針、及び各構成員の責務と権限が文書として明確に示されているか。

#### 農学研究科 11-2-①

(観点に係る状況)

農学部の管理運営を含む重要事項について検討するための組織である学部運営会議(学部長(研究科長を兼務)、教育研究評議員、副学部長、学科長、副学科長の8人で組織)、農学部予算委員会、農学部基本計画委員会、農学部人事委員会、農学部評価委員会、農学部施設委員会、農学部安全衛生委員会、フィールドセンター運営委員会は、農学研究科の管理運営に関わる事項についても審議している。農学部の管理運営に関する諸規程等には、制定目的、職務、委員会構成などが明記されている。農学研究科の管理運営に関する方針は学部の方針を準用している(資料11-2-1-1)。

農学研究科の運営に関する全ての重要事項については、農学研究科長を議長とする研究科委員会で審議決定し、研究科の運営を行っている(資料11-2-1-2)。研究科委員会の審議を実質化させ、円滑な運営を行うために、学部運営会議、専攻会議及び各種委員会等が設けられている。委員会の構成、責務、権限等は委員会規程等に明記されている。

農学研究科の管理運営責任者である農学研究科長は、農学部長が兼務する。農学部長候補者の選考は、佐賀大学農学部長候補者選考規程に定めている。学部長候補者選挙管理委員会の管理の下で実施される学部長候補者の選挙結果に基づいて、教授会で審議し、学部長候補者を学長に推薦する。佐賀大学学部長選考規則に基づいて、当該学部からの推薦を受けて、学長が学部長を選考する。

(分析結果とその根拠理由)

研究科委員会規程に基づいて、研究科委員会が招集され、農学研究科の管理運営について審議決定し、研究科の運営が行われている。管理運営に関わる委員会等の責務、権限、委員選考方法等を明確に定めている。

資料 11-2-1-1 農学部の管理運営に関する主な規則・規程集(平成21年4月現在)

資料 11-2-1-2 佐賀大学大学院農学研究科委員会規程

観点11-2-②：大学の活動状況に関するデータや情報が適切に収集、蓄積されているとともに、教職員が必要に応じて活用できる状況にあるか。

## 農学研究科 11-2-②

(観点に係る状況)

農学部教員には、「教員報告様式」の提出を義務付けている(資料11-2-2-1)。この様式には、教育、研究、社会貢献、組織運営の各領域に関する全学指定項目に加えて、農学部評価委員会で定めた項目についての活動実績が記されている。各教員の活動実績は、各学科長により集約され、学部長の評価を受ける。この様式は、個人評価の他に、部局自己点検・評価や法人評価、認証評価の基礎資料として活用している。農学研究科においても、農学研究科教員の活動実績、研究科の評価については「教員報告様式」の集計データを活用している。

### 1) 意思決定に必要な情報の収集状況

情報の収集方法は、多岐にわたるが、主な学外情報源としては、文部科学省訪問による情報、全国学部長会議による中央又は他大学情報、文部科学省の広報誌、インターネットによる他大学院情報、訪問や電話・FAXによる他大学院情報、研究科教員による他大学院情報を利用している。

### 2) 教職員に対する公開の状況

得られた情報の伝達は、回覧とメールを利用しているが、重要情報については、その都度、直近の研究科委員会等で研究科長が報告を行っている。また、委員会からの情報は、委員会の開催ごとに研究科構成員に対してメールで内容を配信している。

(分析結果とその根拠理由)

教員報告書により、農学研究科教員の活動状況が収集、蓄積されている。活動状況に関する評価結果は、各教員に通知され、活動状況の分析結果は、部局別評価等に利用されている。

資料11-2-2-1 教員報告様式データ閲覧ホームページ

<https://udb.cc.saga-u.ac.jp/staffData/UnivBaseDBBrowse/browse>

観点11-3-①： 大学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われており、その結果が大学内及び社会に対して広く公開されているか。

#### 農学研究科 11-3-①

(観点に係る状況)

農学研究科の自己・点検評価は、農学部評価委員会（構成：学部長（研究科長を兼務）、副学部長、佐賀大学評価委員、学科長、附属資源循環フィールド科学教育研究センター長、学部長指名職員、事務長）が、教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営及び施設の5つの領域について実施している（資料11-3-1-1）。自己点検・評価の結果は、冊子として発行し、公開している（資料11-3-1-2）。また、評価報告書はウェブサイト上でも閲覧することができる（資料11-3-1-3）。

(分析結果とその根拠理由)

法人（大学）が実施する自己点検・評価に加えて、農学部・農学研究科独自の自己点検・評価がなされ、その結果は公表されている。

資料11-3-1-1 農学部評価委員会規程

資料11-3-1-2 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）

資料11-3-1-3 大学評価について（佐賀大学ホームページ）

<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>

観点11-3-②： 自己点検・評価の結果について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による検証が実施されているか。

#### 農学研究科 11-3-②

（観点に係る状況）

農学研究科の自己・点検評価は、5つの領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営、施設）について農学部評価委員会が実施し、外部評価委員による検証を受けている。5つの領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営、施設）について実施された平成20年度の自己点検・評価については、外部評価委員による検証結果を、平成22年2月に得た。自己点検・評価と外部評価の結果は冊子として取りまとめられ、公表された（資料11-3-1-2、11-3-1-3）。冊子は、研究科の改善に資するため、農学研究科教員と関係教職員へ配布された。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価した結果についての学外者による検証は実施されている。

資料 11-3-1-2 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）

資料 11-3-1-3 大学評価について（佐賀大学ホームページ）

<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>



観点11-3-③： 評価結果がフィードバックされ、管理運営の改善のための取組が行われているか。

**農学研究科 11-3-③**

(観点に係る状況)

評価の結果明らかになった問題点は、専攻会議、大学院教育委員会小委員会、学部運営会議等で検討するとともに、改善が必要な事項を教員へ周知し、教育の質の向上のために活用している(資料11-3-1-2)。教育の質の向上・改善を図るために必要な抜本的な事項については、基本計画委員会で、平成22年度の大学院改組に向けて検討がなされている(資料11-3-3-1)。

(分析結果とその根拠理由)

評価結果のフィードバック・システムが整備され、管理運営の改善に活用されている。

資料11-3-1-2 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書(平成20年度)

資料11-3-3-1 基本計画委員会議事録(平成21年度)

観点11-3-④： 大学における教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報をわかりやすく社会に発信しているか。

#### 農学研究科 11-3-④

(観点に係る状況)

大学(法人)として行う全学的な教育研究活動に関する情報発信の中で、農学部・農学研究科の活動の要点を報告している。また、農学部・農学研究科の活動に関する詳細を記した冊子を発行し、高等学校など関係機関に配布している(資料11-3-4-1)。教育研究活動の状況は、農学部のホームページに掲載し、広く社会に向けて発信している(資料11-3-4-2)。農学部・農学研究科として実施しているプロジェクト型研究の成果は、同窓会と共同して、公開シンポジウムを毎年開催し、平易に紹介している(資料11-3-4-3)。平成21年度に開催した公開シンポジウムには111人(高校生24人を含む。)の参加者があり、満足度4.27の評価を得た(資料11-3-4-4)。

(分析結果とその根拠理由)

教育研究の状況と研究成果は、社会(学外者)へわかりやすく発信されている。

資料11-3-4-1 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要(平成21年度)

資料11-3-4-2 農学部ホームページ

<http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html>

資料11-3-4-3 学長経費(中期計画実行経費)事業成果報告書(平成18, 19, 20, 21年度)

資料11-3-4-4 平成20年度佐賀大学学長経費事業成果報告公開シンポジウム「循環型社会へ向けた食料生産・加工・消費システムの研究・開発」アンケート集計結果報告書